平成２９年度東京歯科大学研究ブランディング事業

顎骨疾患の集学的研究拠点形成：
包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現
（顎骨疾患プロジェクト）
Multidisciplinary Research Center for Jaw Disease (MRCJD): Achieving Longevity and Sustainability by Comprehensive Reconstruction of Oral and Maxillofacial functions

活動報告書

2018 年 5 月

顎骨疾患プロジェクト推進委員会

目次

Ⅰ. はじめに
Ⅱ. 文部科学省「平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業」への申請と選定結果及びその対応
Ⅲ. 平成 29 年度東京歯科大学研究ブランディング事業各種委員会
Ⅳ. 平成 29 年度東京歯科大学研究ブランディング事業実施状況
１.東京歯科大学研究ブランディング事業推進委員会開催記録
２.東京歯科大学研究ブランディング事業関連研究助成
①東京歯科大学顎骨疾患プロジェクト研究助成受賞者名及び報告
②東京歯科大学顎骨疾患プロジェクト大学院研究助成受賞者名及び報告
③度東京歯科大学顎骨疾患プロジェクト Travel Award 受賞者名及び報告
３.次世代研究者育成のための基礎・臨床融合カンファレンスの開催（若手サイエンスアカデミー）
４.東京歯科大学研究ブランディング事業共催セミナー等開催実績
Ⅴ.平成 29 年度研究業績
Ⅵ. 外部評価報告書の概要
Ⅶ. 自己点検・評価委員会記録
Ⅷ.平成 29 年度事業収支決算書

Ⅰ．はじめに

東京歯科大学では、先端的で独自性のある研究を推進し、独自の研究ブランド力を発揮することの重要性を鑑み、大学の補助により平成 28 年度から口腔科学研究センターを中核とした顎骨疾患プロジェクト「顎骨疾患の集学的研究拠点形成」を推進してきた。これらの成果を基盤として平成 29 年度「私立大学研究ブランディング事業」のタイプ B（世界展開型）に応募し、選定された。私立歯科大学単独でタイプ B（国際展開型）に選定されたのは東京歯科大学が初めてである。

顎骨は、食べる、話す、笑うなどの口腔機能を維持し、我々の基本的生活を支えるために必須な組織である。顎骨に種々の疾患が発症すると口腔機能も障害されるが、現在までに顎骨疾患の病態、発症メカニズム、治療法、予防法などを総括的に推進する研究拠点は形成されていない。そのため、本事業では東京歯科大学に世界初の顎骨疾患の集学的研究拠点を形成して、口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現に貢献する。本事業の推進により、「ヒューマニズムとリサーチマインドを堅持する歯科医師を育成する大学」をブランド化し、最先端の教育と医療をもって社会に貢献できる確かな基盤を構築するという本学の「将来ビジョン」を具現化する。

本事業では、大学病院などで診断・治療の対象となる遺伝性疾患（鎖骨頭蓋異形成症、基底細胞母斑症候群など）、腫瘍性疾患（口腔がん、歯原性腫瘍など）、感染性疾患（顎骨炎など）、顎変形症、薬剤関連性顎骨壊死などの「希少疾患」と一般の歯科診療所で治療対象となる歯周病による骨破壊や歯の喪失による顎骨萎縮／吸収などの「一般的歯科疾患」を研究対象とする。本事業ではこれらの疾患に関して、全学的な研究課題として取り組み、学問分野の「壁」を越えた「分子・細胞ラボ」、「感染制御ラボ」、「ファブラボ」の 3 つの研究グループを構築して、各グループの有機的な連携による先端的な病態解析、診断法、治療法の開発へと展開させ、「顎骨疾患集学的研究拠点」を構築する。そして、「遺伝子→細胞→組織→器官→全身」レベルでの疾患メカニズムを基盤とした顎骨疾患の予防・治療法を開発し、包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現に貢献することを目的とする。

本報告書は、平成 29 年度東京歯科大学研究ブランディング事業「顎骨疾患の集学的研究拠点形成：包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現」の活動をまとめたもので、今後、東京歯科大学が「教育・研究・臨床の 3 本の矢」をさらに骨太なものとし、その強靭さを大学の総合的なブランド力とするための一環と考えていただきたい。

顎骨疾患プロジェクト推進委員会

Ⅱ．文部科学省「平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業」への申請と選定結果及びその対応

文部科学省が応募した「平成 28 年度私立大学研究ブランディング事業」に東京歯科大学研究ブランディング事業計画書「顎骨疾患の集学的研究拠点形成：包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現」を平成 29 年 6 月 6 日に文部科学省に提出した。

平成 29 年 11 月 7 日付けで文部科学省より「平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業」に本学の申請が選定された旨の通知があった。

本事業推進に必要な委員会などは平成 28 年度にすでに設置してあり、平成 29 年度の事業もすでに進行していたので、順調に事業に取り組むことが出来た。平成 30 年 2 月 20 日に開催された口腔科学研究センターワークショップに外部評価委員会の先生方にも参加していただき、そこで平成 29 年度の研究成果を報告し、その後、外部評価委員会を開催し、今年度の研究及び次年度の申請に関して、協議を行い、多くの建設的意見をいただいた。さらに、平成 30 年 3 月 19 日に自己点検・評価委員会を開催し、平成 29 年度の活動報告と外部評価委員会の評価結果を報告し、自己点検・評価を行った。

２９文科高第６８６号

平成２９年１１月７日

学校法人　東京歯科大学　理事長　　殿

文部科学省高等教育局
私学部長　村 田　善 則

平成２９年度「私立大学研究ブランディング事業」の選定結果について（通知）

標記の件について、貴法人より提出された「私立大学研究ブランディング事業計画書」を「私立大学研究ブランディング事業委員会」において審査した結果について、別紙１のとおり通知します。

選定された各大学におかれては、別添の「委員長所見」及び「別紙２　私立大学研究ブランディング事業のフォローアップ・中間評価について」の内容を踏まえ事業を推進するとともに、事業の計画、内容、進捗状況及び成果の積極的な公開に御留意願います。

なお、本事業の支援期間については、国の財政事情等によりこれを必ず保証するものではないことをお含みおきください。

また、支援期間が５年間の事業については、事業開始から４年目に実施される中間評価において、事業の進捗状況が不十分と判断される場合には、４年目以降の当該事業の採択に係る経常費を不交付とする可能性があることを申し添えます。

＜参考＞委員長所見抜粋

選定された大学においては、事業計画を確実に推進することはもとより、以下の点に留意し、より一層の改善・充実に向けて不断の検討を行うようお願いしたい。

○将来ビジョンを実現するための戦略及びＰＤＣＡサイクルの実体化を図ること。
○次の観点を踏まえ、ブランド構築に向けた戦略について具体化・実現化すること。
・大学が目指す将来ビジョンや明確化した研究ブランディング活動の工程及び指標を学内で共有する。その際、研究ブランディング活動の計画化とともに、ターゲットの明確化や数値目標・工程の策定等についても、不断の見直し等一層の工夫をする。
・大学の個性に応じた多様な情報発信の媒体や手段を検討するとともに、事業期間中に事業内容、特に研究ブランディング戦略に関する評価が得られるよう、研究活動とブランディング活動に連動性を持たせる。
○事業実施期間中に確立した研究ブランディング戦略を、事業終了後も大学として継続し、重点的に高めていくこと。
○研究ブランディング戦略に基づいて具現化した事例について、発信・周知に努めること。
○上記事業計画を推進するためのＰＤＣＡサイクルを確実に実体化すること（体制整備、進捗管理方法の工夫など）。
○補助金を適正に管理・執行すること。

29.11.13

Ⅲ．平成 29 年度東京歯科大学研究ブランディング事業各種委員会

１．東京歯科大学研究ブランディング事業推進に関わる委員会

１）東京歯科大学口腔科学研究センター運営委員会

委員長	井出　吉信	学長
委員	一戸　達也	副学長
	橋本　正次	副学長
	東　俊文	口腔科学研究センター所長
	新谷　誠康	口腔科学研究センター副所長
	櫻井　薫	大学院研究科長
	石原　和幸	研究部長
	加藤　靖明	事務局長
陪席	山口　朗	口腔科学研究センター
	渡辺　靖明	会計課長
	田島　大地	口腔科学研究センター事務室

２）東京歯科大学研究ブランディング事業“顎骨疾患プロジェクト”実施委員会

委員長	井出　吉信	学長
委員	一戸　達也	副学長/千葉病院長
	橋本　正次	副学長/研究担当
	矢島　安朝	水道橋病院長
	西田　次郎	市川総合病院長
	山口　朗	顎骨疾患プロジェクト委員長
	櫻井　薫	大学院研究科長
	石原　和幸	研究部長
	村松　敬	研究部副部長（コンプライアンス推進委員）
	後藤　多津子	研究部副部長（研究倫理）
	東　俊文	口腔科学研究センター所長
	新谷　誠康	口腔科学研究センター副所長
	橋本　貞充	広報・公開講座部長
	加藤　靖明	事務局長
	渡辺　和輝	会計課長（研究費運営サポート）
陪席	田島　大地	口腔科学研究センター事務室

３）東京歯科大学研究ブランディング事業推進委員会

委員長	山口　朗	顎骨疾患プロジェクト委員長 （口腔科学研究センター客員教授）
委員	東　俊文	口腔科学研究センター所長（生化学講座教授）
	新谷　誠康	口腔科学研究センター副所長（小児歯科学講座教授）
	石原　和幸	研究部長（微生物学講座教授）
	村松　敬	研究部副部長（保存修復学講座教授）
	後藤　多津子	研究部副部長（歯科放射線学講座教授）
	片倉　朗	口腔病態外科学講座教授
	齋藤　淳	歯周病学講座教授
	阿部　伸一	解剖学講座教授

	笠原　正貴	薬理学講座・教授
	澁川　義幸	生理学講座・教授
	吉成　正雄	口腔科学研究センター客員教授
	松永　智	解剖学講座准教授
陪席	田島　大地	口腔科学研究センター事務室
	佐藤　美樹子	事務担当

４）東京歯科大学研究ブランディング事業連携研究者（五十音順）

小崎健次郎　慶應義塾大学医学部臨床遺伝学センターセンター長・教授
小野　卓史　東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科咬合機能矯正学教授
杉本　真樹　国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科准教授
高野　直樹　慶應義塾大学理工学部機械工学科教授
妻木　範行　京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門教授
鄭　雄一　東京大学大学院工学系研究科 バイオエンジニアリング専攻医学系研究科疾患生命工学センター教授
中川　種昭　慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室教授
名倉　武雄　慶應義塾大学医学部運動器生体工学寄付講座特任准教授
西村　一郎　カリフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部ワイントロープ研究所教授
Johan Wolfaardt　アルバータ大学医学部教授

５）顎骨疾患プロジェクト 自己点検・評価委員

委員長	井出　吉信	学長
委員	一戸　達也	副学長/千葉病院長
	橋本　正次	副学長
	矢島　安朝	水道橋病院長
	西田　次郎	市川総合病院長
	櫻井　　薫	大学院研究科長
	田﨑　雅和	図書館長
	石原　和幸	研究部長
	村松　　敬	研究機器管理部長
	山本　　仁	基礎教授連絡会幹事
	古澤　成博	臨床教授連絡会幹事
	石井　拓男	法人主事
	加藤　靖明	事務局長

５）顎骨疾患プロジェクト　外部評価委員会

委員長	佐々木　朗	岡山大学歯学部教授
委員	岩田　昌久	埼玉県歯科医師会学術部副部長
	岡野　栄之	慶應義塾大学大学院医学研究委員長
	奥村　康	順天堂大学医学部特任教授
	豊澤　悟	大阪大学歯学部教授
	中尾　潔貴	株式会社ジーシー・代表取締役社長
	中野　貴由	大阪大学工学部教授
	森山　啓司	東京医科歯科大学歯学部長

Ⅳ．平成 29 年度東京歯科大学研究ブランディング事業実施状況

１．東京歯科大学研究ブランディング事業推進委員会実施一覧

1）第 7 回顎骨疾患プロジェクト推進委員会

日時：平成 29 年 5 月 10 日（水）16：00～

内容：平成 28 年度活動報告について

今年度の事業計画について

次期ブランディング事業の申請について

2）第 8 回顎骨疾患プロジェクト推進委員会

日時：平成 29 年 6 月 21 日（水）16：00～

内容：平成 29 年度顎骨疾患プロジェクト研究助成の採択について

平成 29 年度 各研究部門の「研究計画」と「研究費の執行」について

顎骨疾患プロジェクト大学院生研究助成運用基準（案）について

顎骨疾患プロジェクト学部学生卒業論文作成研究助成について

推進委員会への新委員加入について

3）第 9 回顎骨疾患プロジェクト推進委員会

日時：平成 29 年 11 月 15 日（水）16：00～

内容：平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業選定状況について

事業推進工程の再確認について

キックホフシンポジウムの開催について

歯科医学教育セミナーにおける研究関連分野の開催について

大学院学外総合セミナーでの講演について

事業推進役割分担について

同窓会理事会提出資料について

本事業の英語名について

推進委員会委員の追加と WG の設置について

ポスドクの公募について

次期事業についての対策について

4）第 10 回顎骨疾患プロジェクト推進委員会

日時：平成 29 年 12 月 6 日（水）18：30～

内容：推進委員会への新委員加入について

本事業の英語名について

キックオフシンポジウム・外部評価委員会の開催について

同窓会との連携について

ホームページの作成について

事業予算と執行について

今後の事業の推進について

ワーキンググループ(案)について

5）第 11 回顎骨疾患プロジェクト推進委員会

日時：平成 30 年 1 月 11 日（木）11：15～

内容：本事業における実施体制と目標と咀嚼嚥下 WG の位置付けについて
今年度の研究費と来年度の予算について
ホームページの開設について
キックオフシンポジウムについて
外部評価委員会について
平成 29 年度 Travel Award について
平成 30 年度シンポジウムについて
平成 29 年度顎骨疾患プロジェクト研究助成・大学院生研究助成受賞者成果発表について
今後の検討事項について

6）第 12 回顎骨疾患プロジェクト推進委員会
日時：平成 30 年 2 月 23 日（金）10：00～
内容：外部評価委員会について
平成 30 年度の研究体制と予算執行について
歯科医学教育セミナーについて
歯科学報「顎骨疾患プロジェクトからの情報発信」シリーズについて
同窓会とのについて
ロゴ作成について

7）第 13 回顎骨疾患プロジェクト推進委員会
日時：平成 30 年 3 月 14 日（水）14：00～
内容：平成 30 年度の予算配分について（競争的資金の配分方法）
3 月 19 日開催の自己点検・評価委員会資料について
若手サイエンスアカデミーの方向性について
2018 年度　若手研究助成公募について
2018 年度　大学院研究助成公募について
2018 年度 IADR Travel Award の募集について

東京歯科大学研究ブランディング事業推進委員会（メール会議）実施一覧

1）平成 29 年 4 月 25 日（火）
内容：科研費講演会について
2）平成 29 年 4 月 27 日（木）
内容：平成 29 年度研究助成について
3）平成 29 年 4 月 27 日（木）
内容：私立大学研究ブランディング事業申請準備について
4）平成 29 年 5 月 11 日（木）
内容：研究助成応募資格について
5）平成 29 年 8 月 21 日（月）
内容：大学院生研究助成の審査について
6）平成 29 年 9 月 6 日（水）

内容：プロジェクトの英語名について

7）平成 29 年 9 月 13 日（水）

内容：英文論文校正費助成について

8）平成 29 年 9 月 21 日（木）

内容：英文論文校正費助成について

9）平成 29 年 11 月 16 日（木）

内容：プロジェクトの英語名について

10）平成 29 年 11 月 22 日（水）

内容：キックオフシンポジウムと歯科医学教育セミナーにおける研究関連分野の開催について

11）平成 29 年 11 月 24 日（金）

内容：推進委員会新委員の推挙について

12）平成 29 年 11 月 29 日（水）

内容：プロジェクトの英語名について

13）平成 29 年 12 月 5 日（水）

内容：（報告）ブランディング事業英語名について

14. 平成 30 年 1 月 26 日（金）

内容：Travel Award 2017 の評価結果について

15. 平成 30 年 3 月 26 日（月）

内容：顎骨疾患プロジェクト Travel Award の給付額の変更について

16. 平成 30 年 3 月 30 日（金）

内容：顎骨疾患プロジェクト Travel Award の給付額の変更について

17. 平成 30 年 3 月 30 日（金）

内容：歯科学報へのシリーズ掲載について

２. 度東京歯科大学研究ブランディング事業関連研究所助成

①東京歯科大学研究ブランディング事業研究助成受賞者名及び研究課題

所属	氏名	職種	研究課題
生化学	齋藤　暁子	助教	鎖骨頭蓋骨異形成症特異的 iPS 細胞由来の骨芽細胞における細胞核形態異常の検討
歯周病学	鈴木　瑛一	助教	骨形成過程における未分化間葉系細胞の骨細胞への分化機構の解明：遺伝子改変マウスを使用した検討
生化学	小野寺晶子	助教	歯原性角化嚢胞への寄与遺伝子と候補薬剤の同定
歯科放射線学	渡邉　素子	助教	甘味認知における主観的感覚と脳機能:甘味摂取習慣との関連
解剖学	小高　研人	助教	インプラント周囲骨における骨質特性の分析
ｵｰﾗﾙﾒﾃﾞｨｼﾝ・口腔外科学	鈴木　大貴	レジデント	薬剤関連顎骨壊死におけるテリパラチド適時･適量投与による治療法の開発
口腔顎顔面外科	吉田　秀児	助教	三次元シミュレーションソフトを用いた手術用デバイス開発に関する研究
老年歯科補綴学	竜　正大	講師	顎欠損患者における口腔機能の回復と補綴装置の評価に関わる因子との関係

応募者 11 名より 8 名を選定、各受賞者に 50 万円の研究助成

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト研究助成　研究成果報告書

所属長名　東　俊文　印

研究代表者　齋藤　暁子
所属・職名　生化学・助教

氏名　齋藤　暁子　印

研究課題名：鎖骨頭蓋骨異形成症特異的 iPS 細胞由来の骨芽細胞における細胞核形態異常の検討

研究分担者

所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名

1．研究の概要

疾患特異的 iPS 細胞は口腔領域の希少疾患の病態解明と治療法の開発に大きな手掛かりとなる可能性が期待される。口腔領域先天性疾患である鎖骨頭蓋異形成症(CCD)は骨形成異常を伴う遺伝性疾患で、原因遺伝子は骨形成の必須遺伝子 RUNX2 であることがすでに解明されているものの、病態は未解明な点も多い。そこで、ヒト CCD 患者由来 iPS 細胞を用いてヒト疾患モデルを作製、骨芽細胞分化の機序を検討し、CCD の病態解明を目指す。

2．取組状況

CCD 患者由来線維芽細胞を用いて RUNX2 遺伝子変異を同定し、これらの患者由来細胞から iPS 細胞を作製し、さらに、遺伝子編集技術 CRISPR/Cas 法を用いて、RUNX2 遺伝子変異を正常化した iPS 細胞（Reversed-iPS 細胞）を作製した。また、同方法を応用して、RUNX2 ノックアウト(KO) -iPS 細胞も作製した。これらのヒト $RUNX2^{+/+}$、$RUNX2^{+/-}$、$RUNX2^{-/-}$ -iPS 細胞を用いて、骨芽細胞分化誘導時の遺伝子発現および核形態について検討を行っている。

3．本事業の成果

樹立した CCD-iPS 細胞およびコントロールとしての Revertant-iPS 細胞を骨芽細胞分化誘導した結果、CCD-iPS 細胞で ALP、OSX、DLX5、OCN などの骨芽細胞分化マーカーの遺伝子発現が低下していた。ヌードラット頭蓋骨欠損部移植実験では、Revertant-iPS 由来骨芽細胞を移植した群において、4 週間で欠損部が新生骨でほぼ修復されたのに対し、CCD 移植群では骨閉鎖遅延を認め、骨体積、骨塩量ともに低下していた。以上のことから作製した CCD-iPS 細胞は骨芽細胞分化異常を伴う骨石灰化障害を呈することが示され、ここまでを Stem cell research & therapy に報告した。さらに、CCD-iPS 細胞および KO-iPS 細胞を骨芽細胞へと分化誘導する過程において、これらの RUNX2 欠損細胞が核溝や分葉核といった異常な核形態を示すことを発見した。また、核構造維持に関連する遺伝子群の発現を調べたところ、RUNX2 欠損細胞では核膜タンパク質 LMNA などの発現が著しく低下していることを見出した。

【業績】＊当該年度に限る。

1. 雑誌論文

Saito A, Ooki A, Nakamura T, Onodera S, Hayashi K, Hasegawa D, Okudaira T, Watanabe K, Kato H, Onda T, Watanabe A, Kosaki K, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Sakamoto T, Yamaguchi A, Sueishi K, Azuma T

Targeted reversion of induced pluripotent stem cells from patients with human cleidocranial dysplasia improves bone regeneration in rat calvarial bone defect model.

Stem Cell Res Ther. 2018 Jan 22;9(1):12.

2. 総説・解説

3. 図書

4. 学会発表

齋藤暁子，大木章生，中村貴，小野寺晶子，篠宏美，長谷川大悟，小崎健次郎，恩田健志，渡邊 章，柴原孝彦，末石研二，東俊文

鎖骨頭蓋骨異形成症患者由来 iPS 細胞の解析と骨組織分化との関連の検討

第 35 回日本骨代謝学会学術集会，2017 年 7 月，福岡市

東俊文

iPS 細胞を用いた顎骨疾患病態解明へのアプローチ

第 59 回歯科基礎医学会学術大会，2017 年 9 月，塩尻市

齋藤暁子，大木章生，澤田隆，中村貴，小野寺晶子，長谷川大悟，小崎健次郎，末石研二，東俊文

鎖骨頭蓋骨異形成症由来 iPS 細胞を用いた RUNX2 機能不全と核膜形態異常との関連

第 17 回日本再生医療学会総会，2018 年 3 月，横浜市

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト研究助成　研究成果報告書

		所属長名	齋藤　淳	印
研究代表者	鈴木瑛一			
所属・職名	歯周病学講座・助教	氏名	鈴木瑛一	印

研究課題名：骨形成過程における未分化間葉系細胞の骨細胞への分化機構の解明：
遺伝子改変マウスを使用した検討

研究分担者

所属	歯周病学講座	職名	レジデント	氏名	青木栄人
所属	歯周病学講座	職名	大学院生	氏名	久永幸乃
所属	歯周病学講座	職名	大学院生	氏名	佐藤正敬
所属		職名		氏名	
所属		職名		氏名	

1．研究の概要

歯槽骨などの硬組織形成において，未分化細胞からの効果的な分化誘導法の確立のためには，詳細な分化機序を解明する必要がある。本研究では，遺伝子改変マウスを使用し，未分化間葉系幹細胞から骨細胞への分化過程における遺伝子発現の変動を解析することで，骨細胞への分化過程ならびに硬組織における遺伝子制御機構の一端を明らかにすることを目的とした。

Cre/loxP 発現制御システムを組み込んだマウスを使用し，骨細胞特異マーカーの *Dmp1* 存在下で EGFP を発現させ，骨細胞の単離並びに解析を行う。研究実施計画の概要としては，遺伝子改変マウスの作成→骨髄間葉系幹細胞 (BMSC) の採取→骨分化誘導→FACS による *Dmp1* 陽性細胞と陰性細胞のソーティング→DNA マイクロアレイによる発現遺伝子の確認を行う (図 1)。*Dmp1* 陽性ならびに陰性細胞間において発現変動がみられた遺伝子群より，候補遺伝子を選定した後，リアルタイム PCR による mRNA 発現量の解析ならびに，siRNA による目的遺伝子のサイレンシングを行い，骨細胞分化への影響ならびに機能解析を行う。

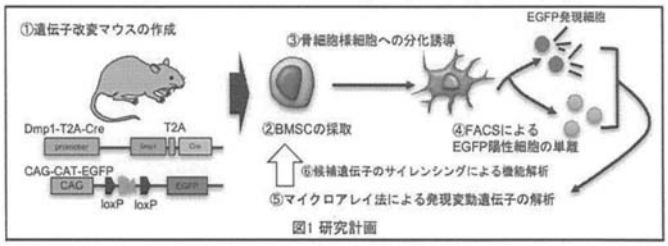

図1 研究計画

2．取組状況

おおむね計画通りに進行した。骨細胞特異的マーカーである Dentin matrix protein 1 (Dmp1) 存在下で enhanced green fluorescent protein (EGFP) を発現するトランスジェニックマウスを作成，bone marrow stem cells (BMSCs) の採取を行った。BMSCs は 2 週間の骨分化誘導を行ったのち，FACS にて EGFP 陰性および陽性細胞の単離を行った。EGFP 陰性・陽性細胞よりそれぞれ RNA を抽出し，DNA マイクロアレイ法にて骨細胞への分化前後における発現変動遺伝子の解析を行った。リアルタイム PCR 法により mRNA 発現の確認を行った。

３．本事業の成果

トランスジェニックマウス由来の BMSCs を骨分化誘導培地で培養したところ，EGFP 発現細胞の経時的な増加を認めた。EGFP 陰性細胞と比較して，EGFP 陽性細胞では *Osteocalcin* をはじめとする骨分化マーカーmRNA 発現量の有意な亢進が認められた ($p < 0.05$)。DNA マイクロアレイより *Bmp8b*, *Pdgfc*, *Cryab* 等の遺伝子群において，EGFP 陰性・陽性細胞間で有意な発現変動が認められた ($p < 0.001$, FDR < 0.05)。さらに発現変動遺伝子についてリアルタイム PCR 法による解析を行ったところ，EGFP 陰性細胞と比較し EGFP 陽性細胞において，ストレスタンパク質の一つである *Cryab* mRNA 発現量の有意な亢進を認めた ($p < 0.001$) (図 2E)。BMSCs の骨分化誘導時における経時的な mRNA 発現量を解析すると，*Cryab* は *Dmp1* と同様の発現パターンを示し (図 2F, G)，*Cryab* が骨細胞への分化ならびに硬組織形成に関与していることが示唆された。

遺伝子改変マウスの使用により，未分化間葉系幹細胞から骨細胞への分化に関与する主要遺伝子群の候補が示された。本研究の結果は，歯槽骨をはじめとする硬組織への分化制御機構の解明につながるものと考える。

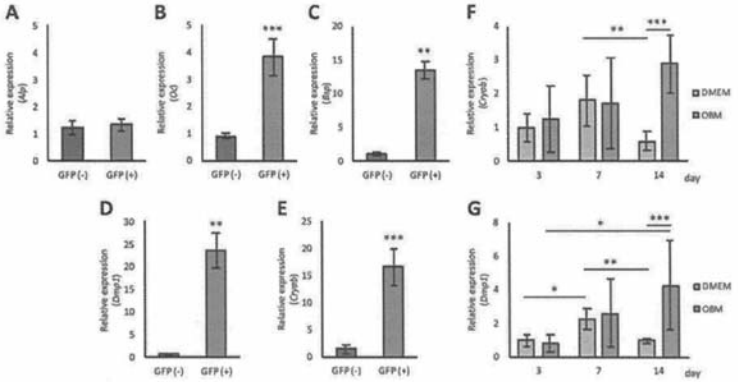

図2　リアルタイムPCR法によるmRNA発現量解析

【業績】＊当該年度に限る。

1. 雑誌論文 2 編（うち英文: 2 編）

1. Seshima F, Aoki H, Takeuch T, Suzuki E, Irokawa D, Makino-Oi A, Sugito H, Tomita S, Saito A.
   Clinical evaluation of periodontal regenerative therapy with enamel matrix derivative in the treatment of intrabony defects: a two-year prospective study.
   BMC Res Notes 10:256, 2017
2. Hisanaga Y, Suzuki E, Aoki H, Sato M, Saito A, Saito A, Azuma T.
   Effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on osteoblastic differentiation of mouse induced pluripotent stem cells in vitro.
   J Periodontal Res 53:240-249, 2018

2. 総説・解説 0 編

3.図書 0 編

4.学会発表 9 編 （うち英文：6 編）

1. 久永幸乃，鈴木瑛一，青木栄人，佐藤正敬，東俊文，齋藤 淳
   エナメルマトリックスタンパク質とアテロコラーゲンスポンジの併用がマウス iPS 細胞の分化に及ぼす影響
   第 60 回春季日本歯周病学会学術大会，平成 29 年 5 月 12 日，福岡市
   日本歯周病学会会誌 59 (春季特別号):136, 2017

2. 鈴木瑛一，篠 宏美，青木栄人，久永幸乃，佐藤正敬，東 俊文，齋藤 淳
遺伝子改変マウスを使用した骨形成過程における新規転写因子の解明
第 60 回春季日本歯周病学会学術大会，平成 29 年 5 月 12 日，福岡市
日本歯周病学会会誌 59 (春季特別号):138, 2017

3. Aoki H, Suzuki E, Hisanaga Y, Sato M, Onodera S, Shino H, Saito A, Azuma T. and Saito A.
Investigation of the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPS cells generated from *Runx2* homo-deficient mouse
National Symposium Osteology Japan 2017, June 3rd, 2017, Tokyo, Japan
Osteology Japan 2017 On-Site Program, 2017

4. Suzuki E, Aoki H, Hisanaga Y, Sato M, Azuma T. and Saito A.
Identification of key factors in bone formation by using transgenic mice
National Symposium Osteology Japan 2017, June 3rd, 2017, Tokyo, Japan
Osteology Japan 2017 On-Site Program, 2017

5. Suzuki E, Aoki H, Hisanaga Y, Sato A, Azuma T. and Saito A.
Gene Expression Profiles in Bone Formation by Using Transgenic Mice
American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September 10th, 2017, Boston, USA
AAP 103rd Annual Meeting On-Site Program, p55, 2017

6. Hisanaga Y, Suzuki E, Aoki H, Sato M, Saito A, Azuma T. and Saito A.
In vitro effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on differentiation of mouse induced pluripotent stem cells
American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September 10th, 2017, Boston, USA
AAP 103rd Annual Meeting On-Site Program, p55, 2017

7. Aoki H, Suzuki E, Hisanaga Y, Sato M, Azuma T. and Saito A.
Investigating the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPSCs
The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November 18th, 2017, Tokyo, Japan
Program & Abstracts, p.91, 2017

8. Suzuki E, Aoki H, Hisanaga Y, Sato M, Nakamura A, Azuma T. and Saito A.
Gene expression profiling during osteogenic differentiation by using transgenic mice
The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November 18th, 2017, Tokyo, Japan
Program & Abstracts, p.90, 2017

9. 勢島 典，青木栄人，武内崇博，鈴木瑛一，色川大輔，大井麻子，稲垣 覚，杉戸博記，富田幸代，齋藤 淳
エナメルマトリックスデリバティブを用いた歯周組織再生療法後 2 年の臨床評価
日本歯周病学会 60 周年記念京都大会，平成 29 年 12 月 16 日，京都市
日本歯周病学会会誌 59 (秋季特別号): 203, 2017

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト研究助成　研究成果報告書

所属長名　東　俊文

研究代表者
所属・職名　生化学・講師　　氏名　小野寺　晶子

研究課題名：歯原性角化嚢胞への寄与遺伝子と候補薬剤の同定

研究分担者

所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名

１．研究の概要：
Hedgehog 受容体である PTCH1 を原因遺伝子とする Gorlin 症候群は多発性の歯原性角化嚢胞（OKC）を高率に発症し、摘出術などの治療後もしばしば再発し患者 QOL の著しい低下をきたす。OKC は PTCH1 の他に Hedgehog 関連遺伝子の異常での発生も報告されており、OKC, Gorlin 症候群のメカニズムの解明は重要である。そこで申請者は患者病変部由来組織よりゲノム DNA を採取し変異解析を行うことで OKC 発症寄与遺伝子を明らかにし治療法開発、再発抑止法の開発を目指す。本研究で得られる結果は細胞生物学分野に有意義な情報を提供し、顎骨疾患再生医療、歯科医学の発展に非常に意義があると考える。
２．取組状況： Kimonis の診断基準を満たす 2 名より、正常部線維芽細胞、病変部位（OKC、BCC）からのゲノム DNA 抽出は完了している。正常部線維芽細胞ゲノム DNA を用いてエキソームシークエンス解析により、PTCH1 に遺伝子変異を確認した。現在は複数に及ぶ病変部位に対して、同様のエキソームシークエンス解析を行っている。
３．本事業の成果：
OKC と診断された病変部の DNA からはゲノム変異と同一の PTCH1 変異のみが検出され、他の Hh 経路受容体である PTCH2、SMO、BOC、CDO においても追加の変異は認められなかった。検出された変異の 137 個のうち、54 個がタンパク質コード領域の変異であった。このコード領域に存在する変異について PROVEAN/SIFT を用いてさらなる解析を行ったところ、17 の遺伝子にタンパク機能異常を有する可能性があった。これらの遺伝子は BCC で報告されている癌関連遺伝子を含まなかった。以上より Gorlin 症候群患者由来 OKC ではもともと患者が有する Hh 関連遺伝子以外の変異を有することが示され、BCC などの癌発生とは異なるメカニズムで発生している可能性が示され Hh 経路以外の変異検出も加えて行うことが OKC のメカニズムを解明するうえで重要であると考えられた。
【業績】＊当該年度に限る。
1. 雑誌論文
Onodera S et al. PLOS ONE 2017 vol: 12 (9) pp: e0184702

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト研究助成　研究成果報告書

所属長名　後藤　多津子　印

研究代表者　渡邉　素子
所属・職名　助教

氏名　渡邉　素子　印

研究課題名：甘味認知における主観的感覚と脳機能：甘味摂取習慣との関連

研究分担者

所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名

1．研究の概要

近年、糖尿病の研究では、インスリン分泌の頭相反応（甘味を口に含むだけで脳がインスリン分泌を促進する反応）が注目されている。申請者らは、甘味刺激によるヒトの口腔における主観的感覚と脳機能の関連を解明することを目的に、脳機能画像（fMRI）を用いた味覚認知の研究を行ってきた。その結果から、味覚刺激による脳活動には生活習慣の違いが影響する可能性が示唆された。そこで申請者らは「甘い間食を摂取する頻度が高い人は口腔における甘味の認知が遅れ、かつ脳の認知時間と認知回路に影響を受ける」という仮説を立て口腔機能と脳機能をさらに解析した。

2．取組状況

現在、被験者 39 名の経時的な主観的感覚の計測のおよび 26 名の fMRI 撮像が終了している。データの解析を行い、論文作成の準備中である。

3．本事業の成果

主観的感覚の検査からは、甘味摂取頻度が高い群（高頻度群）では摂取頻度が低い群（低頻度群）に比較して、甘味を最大に感じるまでに要する時間が長くなるという結果が得られた。fMRI の結果からは高頻度群では両側の前部島皮質が、低頻度群では左側の前部島皮質や後部島皮質での活動増強が認められた。これらの結果から、甘味摂取頻度が高いと、甘味の認知が遅延し、かつ脳機能においては島皮質内の活動領域に影響を及ぼす可能性が示唆された。

【業績】＊当該年度に限る。

1. 雑誌論文

なし

2. 総説・解説

なし

3. 図書

なし

4. 学会発表

なし

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト研究助成　研究成果報告書

所属長名　柴原　孝彦　㊞

研究代表者　吉田　秀児
所属・職名　口腔顎顔面外科学　助教　　氏名　吉田　秀児　㊞

研究課題名：三次元シミュレーションソフトウエアを用いた手術用デバイス開発に関する研究

研究分担者

所属	口腔顎顔面外科学講座	職名	教授	氏名	柴原　孝彦
所属	口腔病態外科学講座	職名	教授	氏名	片倉　朗
所属	歯科矯正学講座	職名	教授	氏名	末石　研二
所属	口腔顎顔面外科学講座	職名	准教授	氏名	髙野　正行
所属	歯科矯正学講座	職名	准教授	氏名	西井　康
所属	口腔インプラント学講座	職名	講師	氏名	高梨　琢也
所属	口腔顎顔面外科学講座	職名	レジデント	氏名	和田　朗

１．研究の概要

昨年度より顎骨疾患プロジェクトの一環として臨床系で利用可能な三次元シミュレーションソフトウエア：ProPlan CMF を導入した。現在、手術利用に向けて先ず顎変形症の患者を対象としてバイトスプリントの精度分析を開始している。バイトスプリントの精度分析を完了させることで、臨床応用が早く行えると考えている。精度分析の結果とバイトスプリントの運用を踏まえて他の疾患への手術用デバイス開発を進める予定である。

２．取組状況

29 年度中に倫理審査委員会に「顎変形症症例に対する 3D プリンターの有用性の検討（受付番号：752)」として提出し、デバイス開発を開始した。研究概要を以下に示す。

対象としているのは、当病院で多く行われている外科的矯正手術を行った顎変形症患者（Le-fort 1 型骨切り術、下顎枝矢状分割術）である。研究内容は、同意が得られた患者の術前模型を利用してデータ化して、そのデータを利用して Pro Plan 上でスプリントデータを作製した後、スプリントデータから３D プリンターでスプリントを作製する。そのスプリントを実際に咬合器にマウントした模型に付着をしてその精度を検討している。

３．本事業の成果

現在同意が得られた患者に対して研究を開始しているものの、症例数が集まらない状況（同意が得られた患者が 5 例程度）で精度を検討できる結果が得られていない。予備研究を一旦行い、正常者の模型を使用してスプリントの厚みを調整し 3mm で研究を進めることで決定した。まだ修正が必要な項目もあるため、臨床利用を目指して研究を進める予定である。

【業績】＊当該年度に限る。

4. 学会発表

第３回日本顎顔面再建先進デジタルテクノロジー学会（平成 29 年 11 月 26 日開催）

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト研究助成　研究成果報告書

所属長名　櫻井　薫

研究代表者　老年歯科補綴学講座
所属・職名　講師

氏名　竜　正大

研究課題名：顎欠損患者における口腔機能の回復と補綴装置の評価に関わる因子との関係

研究分担者

所属	老年歯科補綴学講座	職名	教授	氏名	櫻井　薫
所属	老年歯科補綴学講座	職名	准教授	氏名	石崎　憲
所属	老年歯科補綴学講座	職名	大学院生	氏名	石井　悠佳里
所属	老年歯科補綴学講座	職名	大学院生	氏名	中澤　和真

1．研究の概要

本研究は、顎欠損患者における口腔機能と義歯の評価に関わる因子との関係を明らかにすることを目的としている。東京歯科大学水道橋病院補綴科顎顔面補綴外来に来院し、顎義歯を装着している顎欠損患者患者を対象とする。患者背景の年齢、性別および欠損範囲といった項目に加え、口腔機能として咀嚼機能を Sato らの咀嚼機能評価にて、嚥下機能を嚥下障害スコアにて、構音機能を発語明瞭度検査にてそれぞれ評価する。また、義歯の評価は Sato らの義歯評価法を用い、人工歯排列、咬合高径、維持、安定、咬合接触状態（咬頭嵌合位、偏心咬合位）および義歯床外形の 7 項目について Grade1～3 の 3 段階評価を行ったのち、各項目の重みづけに応じて義歯スコアを算出する。得られた値について、各口腔機能と、義歯の各評価項目や義歯スコアとの関連を解析するものである。

2．取組状況

予定した 20 名の被験者数のうち、13 名についてデータ採取と解析を終了している。その結果、咀嚼機能に対しては、維持、咬合接触状態（偏心咬合位）、義歯床外形、義歯スコア、欠損範囲との間に有意な相関関係が認められた。また、嚥下機能に対しては維持との間に、構音機能に対しては維持、安定、義歯床外形、義歯スコアとの間に有意な相関関係が認められた。現在、予定した被験者数を確保すべく、引き続き被験者の獲得とデータ採取を行っているところである。

3．本事業の成果

これまでに得られた結果から、顎欠損患者に対する顎義歯による口腔機能の回復には、義歯の維持が特に大きく影響している可能性が示唆された。顎欠損症例においてはすべての因子を満足させることが難しいケースも少なからず存在し、顎補綴装置の製作を行う際、明確な治療のゴールを設定できぬまま処置にあたることも少なくない。本研究成果は、顎欠損症例における治療のゴール設定の一助となることが期待される。

【業績】＊当該年度に限る。

1. 雑誌論文

1)Tajima S, Ryu M, Ogami K, Ueda T, Sakurai K: Time-dependent effects of tongue cleaning with mouthwash or mouth moisturising gel on the number of microbes on the tongue surface of elders with care needs. Gerodontology. 34:427-433, 2017.

2)Hagio M, Ishizaki K, Ryu M, Nomura T, Takano N, Sakurai K: Maxillofacial prosthetic treatment factors affecting oral health-related quality of life after surgery for patients with oral cancer. J Prosthet Dent. 119:663-670, 2018.

2. 総説・解説

なし

3. 図書

なし

4. 学会発表

1) 田嶋さやか、 太田緑、 竜正大、上田貴之、櫻井薫：口腔機能低下症の成人における該当率の実態調査、第２８回日本老年歯科医学会、 2017 年 6 月 15 日、名古屋国際会議場

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト研究助成　研究成果報告書

所属長名　阿部　伸一

研究代表者　解剖学講座
所属・職名　助教

氏名　小髙　研人

研究課題名：インプラント周囲骨における骨質特性の分析

研究分担者
所属　　職名　　氏名

1．研究の概要
本研究では、インプラントを介して加わった荷重が周囲顎骨の質的要素に与える影響の一端を解明することを目的とし、インプラント周囲顎骨の骨質解析を行い、骨局所の異方性を評価する。インプラント周囲顎骨独自の骨質特性を定量的に評価することで、インプラント周囲顎骨のメカニカルストレスを可視化するための一助となることが期待される。

2．取組状況
ビーグル犬に長期埋入されたインプラント周囲顎骨に関する骨質解析結果に関して、論文および学会において発表を行った。現在はインプラントを有するヒト顎骨の採取を進めており、既に採取が完了したものに関しては微小領域 X 線回折による生体アパタイト結晶配向性ならびに SHG イメージングによるコラーゲン線維走行方向の分析を行っている。また、コラーゲン走行方向のデータ化および数理解析に取り組んでいる。

3．本事業の成果
インプラント周囲においては通常の海綿骨領域に認められない皮質骨様構造が認められたことから、インプラント周囲骨は荷重伝達に対して生体力学的に最適化された独自の構造特性を発現する可能性が示唆された。

【業績】＊当該年度に限る。
1. 雑誌論文
Kento Odaka, Satoru Matsunaga, Masaaki Kasahara, Takayoshi Nakano, Masao Yoshinari, Shinichi Abe: Alignment of Biological Apatite Crystallites in Peri-Implant Bone of Beagles. ***Materials Transactions***, 58:107-112, 2017
2. 総説・解説
3. 図書
4. 学会発表
小髙研人, 松永　智, 森田純晴, 三友啓介, 吉成正雄, 石本卓也, 中野貴由,　阿部伸一
歯科インプラント周囲顎骨における生体アパタイト結晶配向性
第 37 回骨形態計測学会、2017 年 6 月、大阪市

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト研究助成　研究成果報告書

所属長名　野村　武史　㊞

研究代表者　野村　武史
所属・職名　部長

氏名　鈴木　大貴　㊞

研究課題名：薬剤関連顎骨壊死におけるテリパラチド適時・適量投与による治療法の開発

研究分担者

所属	オーラルメディシン・口腔外科学講座	職名	レジデント	氏名	鈴木　大貴
所属	オーラルメディシン・口腔外科学講座	職名	大学院生	氏名	岡村　将宏
所属	オーラルメディシン・口腔外科学講座	職名	大学院生	氏名	大村　雄介
所属		職名		氏名	
所属		職名		氏名	

１．研究の概要

本研究は、骨吸収抑制剤関連顎骨壊死（ARONJ）に対し、病態の解明、治療法の確立を目的とした研究である。C57Bl/6J の 7 週齢のマウスに対し、皮下よりゾレドロネートを投与し、4 週間後に上顎大臼歯の抜歯を行い、その後の抜歯窩に fusobacterium nucleatum を塗布し経時的観察を行い、顎骨壊死を病理組織学的・放射線学的に評価する。確立したモデルマウスを用い、近年注目されている、ヒト PTH 製剤であるテリパラチドの適時治療、適量治療を検討し、新たな治療法の確立を目指すもの。

２．取組状況

現在の状況としては、抜歯窩の粘膜欠損に関しては確認できており、切片作成による顎骨壊死の可能性も大いに期待できる。今後はテリパラチドと並行し、近年整形外科領域で注目されている b-fgf の局所投与による顎骨の再生療法も視野に入れて研究を進めていく方針である。

３．本事業の成果

モデルマウスに関しては切片作成の段階にあり、実験を継続している。今までとは異なり、現段階で抜歯窩の粘膜欠損が確認できている。今後は現在の方法で確立したモデルマウスを用い、病理組織学的・放射線学的に ARONJ の病態解析および治療法の確立を継続していく予定である。

また、今年度は東歯学会および骨粗鬆症学会での発表を予定している。

【業績】＊当該年度に限る。

1. 雑誌論文
2. 総説・解説
3. 図書
4. 学会発表

②東京歯科大学研究ブランディング事業大学院生研究助成受賞者名び研究課題

氏名（年次）	講座名	研究課題
門田枝里子(2)	微生物	歯周治療前後の歯周炎局所細菌叢の網羅的解析
佐藤　仁美(1)	歯科放射線	加齢による塩味強度の認知低下の要因を探る：脳機能画像による脳活動量の強さと口腔における認知の強さとの関連について
吉川　幸輝 (4)	歯周病	Treponema denticola に対する Porphyromonas gingivalis Hgp44 の付着ドメインの解明
吉田　　航 (2)	歯周病	副甲状腺ホルモン製剤の全身投与および中性自己組織化ペプチドの局所応用がラットの歯周組織欠損の治癒に及ぼす影響
渡辺　豪士(3)	口腔顎顔面外科	McCune-Albright症候群モデル疾患特異的iPS細胞の樹立およびその応用

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト大学院生研究助成　研究成果報告書

所属長名　石原　和幸

研究代表者
所属・職名　微生物大学院 3 年　　氏名　門田　枝里子

研究課題名：歯周治療前後の歯周炎局所細菌叢の網羅的解析

研究分担者

所属	歯周病学講座	職名	准教授	氏名	富田　幸代
所属	歯周病学講座	職名	教授	氏名	齋藤　淳
所属	微生物学講座	職名	教授	氏名	石原　和幸
所属		職名		氏名	
所属		職名		氏名	

1．研究の概要

慢性歯周炎は感染症であり、その成立には歯肉縁下マイクロバイオームのディスバイオーシスが関わることが示唆されているが、その詳細については未だ明らかにされていない。本研究では次世代シークエンサーを用い、歯周基本治療による歯肉縁下マイクロバイオームの変化と、遺伝子発現を網羅的に解析することにより、病態の改善または骨吸収に関わるマイクロバイオームを明らかにするとともに、病態形成に関わる機能遺伝子の解明を行うことを目的としている。

2．取組状況

東京歯科大学千葉歯科医療センターを受診した慢性歯周炎患者 8 名の同意の下、歯肉縁下プラークを採取した。3 名の対象者は、歯周基本治療（スケーリング・ルートプレーニング）後のマイクロバイオームの解析まで終了している。

今後は被験者数を増やし、歯周病原性マイクロバイオームへの移行に関わる菌群について解析を進めるとともに遺伝子発現の解析も行う予定である。

3．本事業の成果

歯周炎部位に歯周基本治療を行うと、3 例中 2 例では 2 週間後には大きなマイクロバイオームの変化が認められた。しかし、4～6 週後には一部健常部に認められる菌種の増加が認められるものの、治療前のマイクロバイオームに類似した組成に戻る傾向が認められた。Red complex が主要な菌種として認められた症例においても同様な結果が認められたが、歯周基本治療から 4～6 週後のマイクロバイオーム組成には、健常部にみられる菌種の増加は認められなかった。これらの結果は、歯周炎部位のマイクロバイオームは、物理的に除去によっても組成の変化を起こしづらくなっていることを示している。

【業績】＊当該年度に限る。

1. 雑誌論文
2. 総説・解説
3. 図書
4. 学会発表

門田枝里子，富田幸代，齋藤淳，石原和幸
「慢性歯周炎病巣のマイクロバイオーム解析」
第 300 回東京歯科大学学会総会，平成 29 年 10 月 21 日，東京都，歯科学報, 117:414, 2017

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト大学院生研究助成　研究成果報告書

所属長名　後藤　多津子

研究代表者
所属・職名　歯科放射線学講座　大学院　氏名　佐藤　仁美

研究課題名：加齢による塩味強度の認知低下の要因を探る：
脳機能画像による脳活動量の強さと口腔における認知の強さとの関連について

研究分担者

所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名

1．研究の概要

加齢に伴い塩味の認知閾値が上昇し、60～70 歳代に顕著となることが報告されている(大和田ら　日衛誌 1972)。閾値が上昇し塩味を感じにくくなると、おいしく食べるために塩分摂取量が増加し、高血圧症などの生活習慣病のリスクが高まる。末梢では舌の味蕾の減少が知られているが、中枢における因子は不明な点が多い。そこで我々は、加齢に伴う塩味の認知低下は末梢と中枢の双方の機能低下によるとの仮説をたてた。仮説の解明のために今年度は高齢者の比較対象となる 20 歳代の健常者を対象としデータの取得、解析を行った。

2．取組状況

末梢（舌）で感じる塩味の強さを計測する intensity meter と、脳活動の強さを計測する脳機能画像 functional MRI (fMRI) のためのオリジナルシステムを構築した。また予備実験を重ね、解析方法も確立した。次に、被験者として 20～30 歳代の男女 21 人（男 8 人、女 13 人）をリクルートし、被験者それぞれに適合する口腔内装置を作製し検査を行った。舌で感じた主観的な塩味強さは 0.001M で 1.3、0.3M で 5.4、0.5M で 7.5 あった（n＝21 人）。fMRI 撮像は 18 人が終了した。現在、日本歯科放射線学会での発表に向けてデータ解析を進め、準備を行っている。

3．本事業の成果

fMRI において最も困難で時間を要する実験系の確立ができ、脳活動が抽出された。20～30 歳代の健常な若者において、塩味溶液の濃度と舌で認知した塩味の強さとは正の相関（$R^2 = 0.64$）を示した。また、fMRI によって、塩味を認知する際の島皮質や視床の活動の広さと強さを抽出することができた。今後、被験者を増やし脳活動における定量解析を進め、末梢と中枢の関連について検討を続ける。また高齢者の撮像も開始し、加齢による機能低下について解明する予定である。

【業績】＊当該年度に限る。
1. 雑誌論文
2. 総説・解説
3. 図書
4. 学会発表

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト大学院生研究助成　研究成果報告書

所属長名　齋藤　淳

研究代表者　吉川　幸輝
所属・職名　歯周病学・レジデント

氏名　吉川　幸輝

研究課題名：*Treponema denticola* に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着ドメインの解明

研究分担者

所属	歯周病学講座	職名	教授	氏名	齋藤　淳
所属	微生物学講座	職名	教授	氏名	石原　和幸
所属	微生物学講座	職名	講師	氏名	国分　栄仁
所属	微生物学講座	職名	助教	氏名	菊池　有一郎
所属	歯周病学講座	職名	助教	氏名	今村　健太郎
所属	歯周病学講座	職名	助教	氏名	喜田　大智

1．研究の概要

主要な歯周病原細菌である *Porphyromonas gingivalis* および *Treponema denticola* は，慢性歯周炎において高頻度に検出される菌群 'red complex' に分類される。*T. denticola* は *P. gingivalis* と共凝集することにより，デンタルプラークに定着し，その病原性を発現する。*P. gingivalis* が産生するシステインプロテアーゼである Arg-gingipain (Rgp) は，歯周組織破壊の他に，赤血球凝集能や本菌の線毛形成に重要な役割を果たしている。RgpA は，プロテアーゼドメイン，赤血球凝集/付着ドメインによって構成されている。近年，この赤血球凝集/付着ドメインの一部である Hgp44 が *T. denticola* との共凝集において重要な付着因子であることが報告された。しかしながら，その Hgp44 どの部分が共凝集に関連しているかは明らかにされていない。本研究では *T. denticola* に対する *P. gingivalis* Hgp44 の付着ドメインを明らかにすることを目的とした。

2．取組状況

P. gingivalis ATCC 33277 の Hgp44（アミノ酸配列 1-419）を含むプラスミドベクターをテンプレートとし，PCR 法にて増幅後，self ligation し，各 Hgp44 の一部を含むプラスミドを作製した。これらを *Escherichia coli* に形質転換し，リコンビナントタンパク質（r-Hgp44: 1-419，r-Hgp44$_1$: 1-124，r-Hgp44$_2$: 1-199，r-Hgp44$_3$: 1-316，r-Hgp44$_4$: 199-419，r-Hgp44$_5$: 124-198，r-Hgp44$_6$: 199-316）を精製した。発現は SDS-PAGE および immunoblotting で確認した。各 r-Hgp44 を用いた *T. denticola* ATCC 35405 への付着は，ELISA にて評価した。Coaggregation assay にて，r-Hgp44$_6$ が両菌の共凝集に及ぼす影響を評価した。走査型電子顕微鏡および共焦点レーザー顕微鏡にて両菌のバイオフィルム形成に及ぼす影響を評価した。

3．本事業の成果

SDS-PAGE の結果，r-Hgp44 の各フラグメントは，目的の分子量であることを確認し，immunoblotting で，単一のバンドとして認めた。ELISA では，r-Hgp44$_6$ と *T. denticola* の付着はコントロールに比較して有意に高かった。Coaggregation assay の結果，r-Hgp44$_6$ は コントロールに比較して *P. gingivalis* と *T. denticola* の共凝集を阻害した。走査型電子顕微鏡，共焦点レーザー顕微鏡による解析の結果，r-Hgp44$_6$ はバイオフィルム形成を阻害した。以上の結果より，Hgp44 において *T. denticola* との付着に関わる主たるドメインは，アミノ酸配列の199-316 間に存在することが明らかになった。

【業績】＊当該年度に限る。

1. 雑誌論文

Yoshikawa K, Sekino J, Imamura K, Ota K, Kita D, Saito A.
In vitro effect of mouthrinse containing essential oils on proliferation and migration of gingival epithelial cells.
Phytotherapy Research 30(7):1113-1118, 2016.

Okamoto-Shibayama K, Sekino J, Yoshikawa K, Saito A, Ishihara K.
Antimicrobial susceptibility profiles of oral Treponema species.
Anaerobe 48:242-248. 2017.

2. 総説・解説

3. 図書

4. 学会発表

吉川幸輝，喜田大智，今村健太郎，青木栄人，勢島　典，齋藤　淳.
Treponema denticola に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着ドメインの解明.
日本歯科保存学会 2017 年度春季学術大会（第 146 回），青森市，平成 29 年 6 月 9 日
日本歯科保存学会 2017 年度春季学術大会（第 146 回）プログラムおよび講演抄録集，p.xxxvi, 158.

吉川幸輝，喜田大智，菊池有一郎，国分栄仁，山下慶子，北村友里恵，今村健太郎，
齋藤　淳，石原和幸.
Treponema denticola に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着の特性.
第 304 回東京歯科大学学会（総会），東京都千代田区，平成 29 年 10 月 21 日，歯科学報 117: 414, 2017.

吉川幸輝，喜田大智，今村健太郎，勢島　典，齋藤　淳.
Treponema denticola に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着の特性.
日本歯科保存学会 2017 年度秋季学術大会(第 147 回)，盛岡市，平成 29 年 10 月 27 日
日本歯科保存学会 2017 年度秋季学術大会（第 147 回）プログラムおよび講演抄録集，
p.xliii, 158.

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト大学院生研究助成　研究成果報告書

所属長名　齋藤　淳

研究代表者　勢島　典
所属・職名　歯周病学講座

氏名　吉田　航

研究課題名：副甲状腺ホルモン製剤の全身投与および中性自己組織化ペプチドの局所応用がラットの歯周組織欠損の治癒に及ぼす影響

研究分担者

所属	歯周病学講座	職名	教授	氏名	齋藤　淳
所属	歯周病学講座	職名	講師	氏名	勢島　典
所属	歯周病学講座	職名	助教(診療教員)	氏名	備前島　崇浩
所属	歯周病学講座	職名	レジデント	氏名	武内　崇博
所属	歯周病学講座	職名	大学院	氏名	松上　大亮

1．研究の概要

副甲状腺ホルモン (PTH) は一般的に骨粗鬆症治療薬として使用されており，骨形成促進作用が明らかにされている。また，歯周組織再生療法の足場材として化学合成由来の自己組織化ペプチド (SAP) ハイドロゲルの研究が行われており，pH が中性領域である中性自己組織化ハイドロゲル (SPG-178) を本研究で使用する。本研究は PTH の間歇的全身投与と SPG-178 の局所応用の併用による歯周組織治癒の影響を検討することを目的とする。

2．取組状況

in vitro では，走査型電子顕微鏡 (SEM) を用いて SPG-178 の微細構造の観察を行った。in vivo では，10 週齢の Wistar 系雄性ラットの上顎第一臼歯近心に規格化欠損 (幅 2.0 mm×長さ 2.0 mm×深さ 1.7 mm) を形成後，根面をルートプレーニングし，外科的に歯周組織欠損を作成した。欠損内に SPG-178 を応用した群と Unfilled 群に分け，各々に PTH 全身投与・非投与の計 4 群に設定した。術後 2，4 週齢で屠殺後に組織切片を作成し H-E 染色，PCNA 染色にて観察を行い，マイクロ CT を用いて新生骨様構造の骨梁構造解析を行った。

3．本事業の成果

SEM で観察した結果，細胞外マトリックス (ECM) と類似した微細な網目状構造が認められた。術後 4 週齢における骨梁構造解析での Unfilled 群間の比較では，PTH 非投与群と比較し PTH 投与群では骨体積率 (BV/TV) が有意に大きな値を示した ($p<0.05$)。術後 2，4 週齢における骨梁構造解析では，PTH 非投与・Unfilled 群と比較して PTH 投与群・SPG-178 応用群では，BV/TV が有意に大きな値を示した ($p<0.05$)。H-E 染色では，術後 4 週齢での PTH 投与・SPG-178 応用群が他の群と比較し，もっとも多くの新生骨様構造が認められた。術後 2 週齢での PCNA 染色では，PTH 非投与・Unfilled 群と比較し，PTH 投与・SPG-178 併用群で PCNA 陽性細胞率が有意に大きな値を示した。($p<0.01$)。
以上のことから PTH の全身投与と SPG-178 の局所応用の併用は早期での歯槽骨治癒が促進することが示唆された。

【業績】＊当該年度に限る。

1. 雑誌論文
2. 総説・解説
3. 図書
4. 学会発表

1) Takeuchi, T., Yoshida, W., Suzuki, E., Bizenjima, T., Seshima, F., Kinumatsu, T., Saito, A.
Elucidation of periodontal healing mechanism following application of a self-assembling peptide nanofiber hydrogel
National Symposium Osteology Japan 2017, June 4th, 2017, Tokyo
Program & Abstracts p.19.

2) Takeuchi, T., Yoshida, W., Suzuki, E., Bizenjima, T., Seshima, F., Kinumatsu, T., Saito, A.
Investigating the healing mechanism of surgical periodontal defect following application of a self-assembling peptide nanofiber hydrogel
American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September 9-12th, 2017, Boston, USA
AAP 103rd Annual Meeting On-Site Program, p55

3) 武内崇博，松上大亮，吉田　航，備前島崇浩，難波　崇，齋藤　淳
自己組織化ペプチドハイドロゲル応用における歯周組織治癒メカニズムの解明
日本歯周病学会 60 周年記念京都大会，平成 29 年 12 月 16 日，京都市
日本歯周病学会会誌 59(秋季特別号); 201, 2017.

平成 29 年度　顎骨疾患プロジェクト大学院生研究助成　研究成果報告書

所属長名
柴原　孝彦　印

研究代表者　渡邊　豪士
所属・職名　口腔顎顔面外科学講座
大学院

氏名
渡邊　豪士　印

研究課題名：McCune-Albright 症候群モデル疾患特異的 iPS 細胞の樹立およびその応用

研究分担者

所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名

1．研究の概要

McCune-Albright 症候群（MAS）は、線維性骨異形成症（FD）、カフェオレ斑および思春期早発症を主症状とする稀な疾患で、*GNAS1* 遺伝子の点突然変異によって発症することが知られている。*GNAS1* 遺伝子は GTP 結合タンパク α サブユニット（Gsα）をコードしている。この変異により Gsα が恒常的に活性化により、cAMP の過剰産生を促進することにより種々の病態を発現していると考えられているが、メカニズムは明らかではない。本疾患は体細胞モザイク変異であり、病変部にのみ変異細胞が存在している。一部血液中にも存在することが知られているが、変異細胞を得ることは非常に困難である。FD は未熟な骨形成を伴った線維骨が増生する疾患で、顎骨は好発部位のひとつである。MAS 以外の孤発性の FD においても *GNAS* 遺伝子変異を認めることがわかっている。MAS/FD の病態解明には、変異細胞での解析が必須である。本研究において MAS 患者の末梢血および孤発性の FD 患者の病変部から検体を採取し、sendai virus（SeV）に感染させ、iPS 細胞を樹立する。また、CRISPR/Cas9 を用いてゲノム編集を行い、変異遺伝子（Arg201His）を正常 iPS 細胞株（NiPS）に導入することにより *GNAS1* 変異 iPS 細胞も合わせて作製する。

2．取組状況

⑴ 遺伝子編集の方法を以下の方法で行った。① 2 か所の guide RNA(gRNA)配列を CRISPR design（ http://crispr.mit.edu/ ）を用いて選択。② ①で選択した gRNA を pSpCas9n(BB)(PX460) ベクターに組み込んだ。③ ターゲティングベクターは薬剤耐性遺伝子を挟む形で 5' 側に exon7 の相同領域を、3' 側には codon 201 アルギニンをヒスチジンに置換した exon 8-10 を含む相同領域を設計した。④ ②および③で作製したベクターをエレクトロポレーション（ 950 V / 2 ms / 2 pulses ）により正常 iPS 細胞（NiPS）に導入し、薬剤選択培地（puromycin 含有培地）で培養後、コロニーを単離する。現在、24 クローン中 2 クローンにおいて 2 本の染色体のうちの一方にのみ *GNAS1* 遺伝子の変異が挿入された、ヘテロ *GNAS1* 変異 iPS 細胞の樹立を確認している。今後、再度エレクトロポレーションを行いホモ *GNAS1* 変異 iPS 細胞の樹立を試みる。

⑵ FD 患者の病変部骨組織より線維芽細胞を遊走させ初代培養を行った。その後、Sev 感染させ iPS 細胞様コロニーの単離培養を行っている。今後、ゲノム DNA を抽出し変異の存在を確認する予定である。

３．本事業の成果

【業績】＊当該年度に限る。

1. 雑誌論文:なし
2. 総説・解説：なし
3. 図書：なし
4. 学会発表

1. K.WATANABE, N.MORITA, H.OGURA, S.ONODERA, A.YAMAGUCHI, T.SHIBAHARA, T.AZUMA : Establishment of iPS cells of McCune-Albright syndrome model using CRISPR/CAS 9.
   2017 年 11 月 18 日, 19 日 第 65 回 国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会
   昭和大学旗の台キャンパス

③東京歯科大学研究ブランディング事業 Travel Award 受賞者名及び報告書

American Association for Dental Research, Annual meeting、Fort Lauderdale, Fla., USA - March 21-24, 2018　発表者への Travel Award

1．四ツ谷　護　講師（ｸﾗｳﾝﾌﾞﾘｯｼﾞ補綴学講座）

NG2 Potentiates Prechondroblastic Cell Signaling During Mandibular Condylar Cartilage Development

応募者１名、受賞者に 15 万円の旅費支援

平成 28 年度　顎骨疾患プロジェクト研究助成　研究成果報告書

所属長名　東　俊文

研究代表者
所属・職名　助教　　氏名　小野寺　晶子

研究課題名：疾患 iPS 細胞を用いた顎骨移植への応用への検討

研究分担者

所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名
所属	職名	氏名

１．研究の概要：人間の基本的生活を支えるロ腔機能の維持には顎骨組織の安定が必須であるが、顎骨疾患の発生によりこれらの機能が障害される。そのため病態解明は重要であるが遺伝性顎骨疾患は症例が少なく病態解明が困難である。PTCH1 を原因遺伝子とする Gorlin 症候群は治療困難な多発性の角化嚢胞性歯原性腫瘍（KCOT）を高率に発症し、患者 QOL の著しい低下をきたす。摘出術などの治療後もしばしば再発するがそのメカニズムは不明である。そこで申請者は Gorlin 症候群患者由来 iPS 細胞を樹立し、KCOT 発症メカニズムを明らかにし治療法開発、再発抑止法の開発を目指す。本研究で得られる結果は細胞生物学分野に有意義な情報を提供し、顎骨疾患再生医療、歯科医学の発展に非常に意義があると考える。

２．取組状況：2D における FIT 法、ヘッジホッグを用いた骨芽細胞分化での遺伝子発現、石灰化の確認は終了しており、現在 3D における検討を始めている。また case.1 患者由来 iPS 細胞に対し、遺伝子編集技術 CRISPR-Cas9 法を用いて遺伝子正常化:Revertant (Rev)-iPS 細胞の樹立を行っている。今後はまた由来が iPS 細胞なので他の組織を含むテラトーマ形成・癌形成の危険性の検討を行うために長期で移植マウス・ラットを飼育する。以上の確認の後、ラットに顎骨欠損モデルを作製し、顎骨における骨組織の再生の検討を行う予定である。以上の確認の後、ラットに顎骨欠損モデルを作製し、顎骨における骨組織の再生の検討を行うこととする。嚢胞病変再現し疾患メカニズムを解明するため、in vitro で嚢胞病変作製を試みる。Matrigel に懸濁した上皮様分化細胞を免疫不全マウス皮下に移植し in vivo で嚢胞形成を検討しその形態、上皮様構造構成タンパク質発現の違いを明らかにする。

３．本事業の成果：ヘッジホッグを用いた骨芽細胞分化誘導法(Kanke et al. Stem Cell Reports, 2014)に従って Gorlin-iPSC を培養したところ、コントロール iPSC と比べて、石灰化の亢進が認められた。その際、初期の骨芽細胞分化マーカーである *RUNX2* の発現はコントロール iPSC よりも上昇し、中期から後期の分化マーカーである *SP7* と *BGLAP* の発現は低下していた。Hh シグナル関連分子の発現を解析すると、コントロール iPSC では抑制型 GLI3 タンパク質のみが検出されたが、Gorlin-iPSC では、抑制型 GLI3 タンパク質と活性型 GLI3 タンパク質の両方が検出された。*PTCH1* 変異による下流シグナルの異常をさらに検索するために RNA-seq 解析を行ったところ、Gorlin-iPSC においては、転写因子 *FOXO1*、*ID4*、*CDX1* の発現がコントロール iPSC と比べて有意に上昇していた。また、Gorlin-iPSC において石灰化亢進因子である *EIF2AK3*、*CD276*、*PTK2B*、

[3 月 24 日～4 月 1 日]
第 5 学年エレクティブスタディ引率　（詳細は別紙にて報告）

最後に、年度末の忙しい時期に、このような出張の機会を与えてくださった佐藤　亨教授、顎骨疾患プロジェクト Travel Award に関してご指導いただいた山口　朗教授、齋藤　淳国際交流部長に厚く御礼申し上げます。今後も、学外との共同研究体制を継続しながら、講座内の研究体制の発展や後輩の育成に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。　（記：四ツ谷　護）

３．次世代研究者育成のための基礎・臨床融合カンファレンスの開催

平成 29 年度若手サイエンスアカデミー開催記録

発表日	氏名	講座	発表課題名
2017/4/4	海老澤明宏	歯科矯正学	歯科矯正用アンカースクリューを用いた上顎前方牽引における生物力学的検討 3次元有限要素解析
2017/4/25	渋川義幸	生理学	最近の研究成果について
2017/5/9	中村　貴	生化学講座	アミノ酸代謝酵素によるカルシウム恒常性維持機構の解析
2017/6/27	三友啓介	歯内療法学	鎖骨頭蓋異形成症における蝶形骨形成障害の病態の解明
2017/7/4	石井武展	歯科矯正学	フルバスタチン局所応用による骨増生に伴う上顎歯列側方拡大限界量の増加
2017/7/25	田中亜生	小児歯科学	象牙質細胞の感覚受容機能の獲得に関する発生学的研究
2017/8/22	小田嶋彩乃	口腔科学研究セ	mouse iPS細胞から神経提細胞誘導と網羅的解析
2017/10/3	鈴木瑛一	歯周病学	iPS細胞から骨細胞への分化過程を制御する遺伝子群の機能的解析
2017/10/24	斎藤暁子	生化学	鎖骨糖御遺骨異形成症由来iPS細胞を用いたRUNX2機能不全と核膜形態異常の関連の検討
2017/11/7	渡邉素子	歯科放射線学	男女における甘味認知機能の差異～fMRIを用いて～
2017/12/5	岡村将宏	オーラルメディシ	薬剤関連顎骨壊死における副甲状腺ホルモンであるテリパラチドの適時・適量投与による新規治療法の開発
2018/1/23	勝見吉晴	口腔病態外科学	口腔外科領域における3Dプリンターの臨床応用
2018/2/6	岡村将宏	オーラルメディシ	薬剤関連顎骨壊死における副甲状腺ホルモンであるテリパラチドの適時・適量投与による新規治療法の開発
2018/2/27	佐藤仁美	歯科放射線学	加齢変化に伴う塩味認知機能の変化(仮)
2018/3/6	吉川幸輝	歯周病学	Identification of a specific domain of Porphyromonas gingivalis Hgp44 responsible for adhesion to Treponema denticola
2018/3/27	吉田　航	歯周病学	副甲状腺ホルモン製剤の全身投与および自己組織化ペプチドの局所応用がラットの歯周組織欠損の治癒に及ぼす影響

４．東京歯科大学研究ブランディング事業共催セミナー等開催実績

１．第 415 回大学院セミナー

日時：平成 29 年 4 月 20 日（木）19：30～

場所：東京歯科大学 水道橋校舎本館 第 2 講義室

演題：Saving Teeth: Advances in Periodontal and Bone Regeneration

講師：University of Maryland School of Dentistry Division of Periodontics
Professor Mark A. Reynolds

２．第 417 回大学院セミナー

日時：平成 29 年 5 月 10 日（水）18：00～

場所：東京歯科大学 水道橋校舎西棟 ラウンジ

演題：シェーグレン症候群疾患モデルを用いた病態機序の解明と新規治療戦略

講師：徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔分子病態学分野 教授
石丸　直澄　先生

３．第 419 回大学院セミナー

日時：平成 29 年 6 月 20 日（火）18：00～

場所：東京歯科大学 水道橋校舎西棟 ラウンジ

演題：骨代謝を司る骨髄間葉系幹細胞の同定と機能解析

講師：松本歯科大学総合歯科医学研究所 講師
溝口　利英　先生

４．科研費講演会

日時：平成 29 年 7 月 13 日（木）18：00～

場所：東京歯科大学 水道橋校舎本館 第 2 講義室

演題：科研費の申請のポイントと戦略-私の応募経験を振り返って-

講師：大阪大学大学院歯学研究科 生化学教室 教授（大阪大学副理事、歯学部副学部長、日本学術振興会・学術システム研究センター専門研究員）
西村　理行　先生

５．第 1 回顎骨疾患プロジェクトセミナー

日時：平成 29 年 9 月 27 日（水）18：00～

場所：東京歯科大学 水道橋校舎本館 第 2 講義室

演題：Wnt シグナルによる骨吸収制御機構

講師：松本歯科大学総合歯科医学研究所硬組織機能解析学教授
小林　泰浩　先生

６．第 421 回大学院セミナー

日時：平成 29 年 11 月 21 日（火）18：00～

場所：東京歯科大学 水道橋校舎西棟 ラウンジ

演題：The Wnt agonist R-spondin 3: an unexpected negative regulator of bone formation

講師：Dept. of Oral Medicine, Infection and Immunity Harvard School of Dental Medicine

永野　健一　先生

７．第 422 回大学院セミナー

日時：平成 29 年 11 月 30 日（木）18：00～

場所：東京歯科大学 水道橋校舎本館 第 2 講義室

演題：分子細胞学的歯周組織再生を考える

講師：広島大学大学院医歯薬保健学研究科 応用生命科学部門 歯周病態学研究室

教授　栗原　英見　先生

８．第 169 回歯科医学教育セミナー

日時：平成 30 年 1 月 29 日（月）18：00～

場所：東京歯科大学 水道橋校舎本館 第 1 講義室

演題：本学における私立大学研究ブランディング事業(文部科学省）の概略と取り組み

講師：東京歯科大学口腔科学研究センター　客員教授　山口　　朗

東京歯科大学生化学講座　教授　東　　俊文

東京歯科大学微生物学講座　教授　石原　和幸

東京歯科大学歯科放射線学講座　教授　後藤多津子

東京歯科大学解剖学講座　教授　阿部　伸一

Ⅴ. 平成 29 年度研究業績

東京歯科大学研究ブランディング事業研究業績

（下線は推進委員会委員、連携研究者、WGメンバー）

英文原著論文

推進委員会委員

山口 朗

1. Ohata Y, Tsuchiya M, Hirai H, Yamaguchi S, Akashi T, Sakamoto K, Yamaguchi A, Ikeda T, Kayamori K: Leukemia inhibitory factor produced by fibroblasts within tumor stroma participates in invasion of oral squamous cell carcinoma. ***PLoS One*** 13:e0191865,2018. doi: 10.1371/journal.pone.0191865.
2. Saito A, Ooki A, Nakamura T, Onodera S, Hayashi K, Hasegawa D, Okudaira T, Watanabe K, Kato H, Onda T, Watanabe A, Kosaki K, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Sakamoto T, Yamaguchi A, Sueishi K, Azuma T: Targeted reversion of induced pluripotent stem cells from patients with human cleidocranial dysplasia improves bone regeneration in rat calvarial bone defect model., ***Stem Cell Res Ther*** 9:12,2018. doi:10.1186/s13287-017-0754-4.
3. Lee JW, Hoshino A, Inoue K, Saito T, Uehara S, Kobayashi K, Ueha U, Matsushima M, Yamaguchi A, Imai Y, Iimura T: The HIV co-receptor CCR5 regulates osteoclast function. ***Nat Commun*** 8:2226, 2017. doi:10.1038/s41467-017-02368-5.
4. Hasegawa D, Shino H, Onodera S, Nakamura T, Saito A, Onda T, Watanabe K, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Kosaki K, Yamaguchi A, Shibahara T, Azuma T: Gorlin syndrome-derived induced pluripotent stem cells are hypersensitive to Hedgehog-mediated osteogenic induction. ***PLoS One*** 31;12(10):e0186879, 2017.
5. Onodera S, Saito A, Hasegawa D, Morita N, Watanabe K, Nomura T, Shibahara T, Ohba S, Yamaguchi A, Azuma T: Multi-layered mutation in hedgehog-related genes in Gorlin syndrome may affect the phenotype. ***PLoS One*** 12:e0184702,2017. doi: 10.1371/journal.pone.0184702.
6. Yukimori A, Oikawa Y, Morita K, Nguyen CTK, Harada H, Yamaguchi, S, Kayamori K, Yamaguchi A, Ikeda T, Sakamoto K: Genetic basis of calcifying cystic odontogenic tumors. ***PLoS One*** 28;12(6):e0180224, 2017. doi: 10.1371/journal.pone.0180224.
7. Ono M, Oshima M, Ogawa M, Sonoyama W, Hara ES, Oida Y, Shinkawa S, Nakajima R, Mine A, Hayano S, Fukumoto S, Kasugai S, Yamaguchi A, Tsuji T, Kuboki T: Practical whole-tooth restoration utilizing autologous bioengineered tooth germ transplantation in a postnatal canine model. ***Sci Rep*** 7:44522,2017. doi: 10.1038/srep44522.
8. Nguyen CTK, Okamura T, Morita K, Miki Y, Izumo T, Kayamori K, Yamaguchi A, Sakamoto K: LAMC2 is a predictive marker for malignant progression of leukoplakia. ***J Oral Pathol Med*** 46:223-231,2017

分子・細胞グループ

推進委員会委員

東　俊文

1. Saito A, Ooki A, Nakamura T, Onodera S, Hayashi K, Hasegawa D, Okudaira T, Watanabe K, Kato H, Onda T, Watanabe A, Kosaki K, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Sakamoto T, Yamaguchi A, Sueishi K, Azuma T: Targeted reversion of induced pluripotent stem cells from patients with human cleidocranial dysplasia improves bone regeneration in rat calvarial bone defect model., ***Stem Cell Res Ther*** 9:12,2018.

doi:10.1186/s13287-017-0754-4.

2. Onodera S, Saito A, Hasegawa D, Morita N, Watanabe K, Nomura T, Shibahara T, Ohba S, Yamaguchi A, Azuma T: Multi-layered mutation in hedgehog-related genes in Gorlin syndrome may affect the phenotype. ***PLoS One*** 15;12(9):e0184702, 2017. doi: 10.1371/journal.pone.0184702.
3. Hasegawa D, Shino H, Onodera S, Nakamura T, Saito A, Onda T, Watanabe K, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Kosaki K, Yamaguchi A, Shibahara T, Azuma T: Gorlin syndrome-derived induced pluripotent stem cells are hypersensitive to Hedgehog-mediated osteogenic induction. ***PLoS One*** 31;12(10):e0186879, 2017. doi: 10.1371/journal. pone.0186879.2017
4. Hisanaga Y, Suzuki E, Aoki H, Sato M, Saito A, Saito A, Azuma T: Effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on osteoblastic differentiation of mouse induced pluripotent stem cells in vitro. ***J Periodont Res***. 2017. doi: 10.1111/jre.12511.

新谷誠康

1. Yonezu Y, Shintani S: Relationship between Interdental Spacing and Colonization by Streptococcus mutans in Children. ***Bull Tokyo Dent Coll*** 58:111-116, 2017.
2. Yang L, Tanabe K, Miura T, Yoshinari M, Takemoto S, Shintani S, Kasahara M: Influence of lyophilization factors and gelatin concentration on pore structures of atelocollagen/gelatin sponge biomaterial. ***Dent Mater J*** 36:429-437, 2017.
3. Imai H, Makiguchi T, Arakawa A, Tashiro A, Yonezu T, Shintani S: Alveolar Growth of Japanese Infants -Comparison between Now and 40 Years Ago-. ***Bull Tokyo Dent Coll*** 58:9-18, 2017.
4. Osawa E, Shintani S, Yamamoto H: Histological and Immunohistochemical Observation of the Furcation Area Formation with the Subpulpal Lobus of Rat Molar. ***J Hard Tissue Biol*** 26:149 -156, 2017.

笠原正貴

1. Hirata A, Kasahara M, Matsuura N, Ichinohe T: Remifentanil decreases oral tissue blood flow while maintaining internal carotid artery blood flow during sevoflurane anesthesia in rabbits. ***J Vet Med Sci*** 2017. doi:10.1292/jvms.17-0319.
2. Kishimoto T, Matsuura N, Kasahara M, Ichinohe T: Effect of topical anesthesia using an adhesive patch and anesthetic solution. ***Anesth Prog*** 64: 73-79, 2017.
3. Yang L, Tanabe K, Miura T, Yoshinari M, Takemoto S, Shintani S, Kasahara M: Influence of lyophilization factors and gelatin concentration on pore structures of atelocollagen/gelatin sponge biomaterial. ***Dent Mater J*** 36: 429-437, 2017.
4. Tanabe K, Miura T, Yang L, Kasahara M, Tsukagoshi E, Yoshinari M: The effect of dexamethasone on the proliferation and osteoblastic differentiation of human mesenchymal stem cells treated with fluvastatin. ***J Oral Tissue Eng*** 14:151-156, 2017.

研究分担者

柴原孝彦

1. Watanabe M, Watanabe A, Takano N, Saito C, Shibahara T: Morphologic Evaluation for Safe Le Fort I Osteotomy in Cleft Lip and Palate. ***Cleft Palate Craniofac J.*** 1:1055665618757368,2018, doi:10.1177/1055665618757368.
2. Yanamoto S, Umeda M, Kioi M, Kirita T, Yamashita T, Hiratsuka H, Yokoo S, Tanzawa H, Uzawa N, Shibahara T, Ota Y, Kurita H, Okura M, Hamakawa H, Kusukawa J, Tohnai I: Multicenter retrospective study of cetuximab plus platinum-based chemotherapy for recurrent or metastatic oral squamous cell carcinoma. ***Cancer Chemother Pharmacol.*** 81:549-554,

2018. doi: 10.1007/s00280-018-3531-x. Epub 2018 Jan 30.

3. Hasegawa D, Ochiai-Shino H, Onodera S, Nakamura T, Saito A, Onda T, Watanabe K, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Kosaki K, Yamaguchi A, Shibahara T, Azuma T: Gorlin syndrome-derived induced pluripotent stem cells are hypersensitive to hedgehog-mediated osteogenic induction. ***PLoS One.*** 12:e0186879, 2017. doi: 10.1371/journal.pone.0186879.
4. Shibahara T: Oral cancer -diagnosis and therapy-. ***Clin Calcium.*** 27:1427-1433, 2017. doi: CliCa171014271433.
5. Onodera S, Saito A, Hasegawa D, Morita N, Watanabe K, Nomura T, Shibahara T, Ohba S, Yamaguchi A, Azuma T: Multi-layered mutation in hedgehog-related genes in Gorlin syndrome may affect the phenotype. ***PLoS One.*** 212:e0184702,2017. doi: 10.1371/journal.pone.0184702.
6. Takano M, Kasahara K, Sugahara K, Watanabe A, Yoshida S, Shibahara T: Erratum to: Usefulness and capability of three-dimensional, full high-definition movies for surgical education. ***Maxillofac Plast Reconstr Surg.*** 39:28, 2017. doi: 10.1186/s40902-017-0124-2.
7. Ikawa H, Koto M, Takagi R, Ebner DK, Hasegawa A, Naganawa K, Takenouchi T, Nagao T, Nomura T, Shibahara T, Tsuji H, Kamada T: Prognostic factors of adenoid cystic carcinoma of the head and neck in carbon-ion radiotherapy: The impact of histological subtypes. ***Radiother Oncol.*** 123:387-393, 2017. doi: 10.1016/j.radonc.2017.04.026.
8. Takano M, Kasahara K, Sugahara K, Watanabe A, Yoshida S, Shibahara T: Usefulness and capability of three-dimensional, full high-definition movies for surgical education. ***Maxillofac Plast Reconstr Surg.*** 39:10,2017. doi: 10.1186/s40902-017-0107-3.
9. Kakuya T, Mori T, Yoshimoto S, Watabe Y, Miura N, Shoji H, Onidani K, Shibahara T, Honda K: Prognostic significance of gene amplification of ACTN4 in stage I and II oral tongue cancer. ***Int J Oral Maxillofac Surg.*** 46:968-976,2017. doi: 10.1016/j.ijom.2017.03.001.
10. Ohkubo M, Sugiyama T, Ohira M, Yamamoto M, Iguchi T, Shibahara T, Takano N, Ishida R: Swallowing Rehabilitation Affects Period of Hospitalization after Surgery for Tongue Cancer. ***Bull Tokyo Dent Coll.*** 58:19-26,2017. doi: 10.2209/tdcpublication.
11. Yoneda T, Hagino H, Sugimoto T, Ohta H, Takahashi S, Soen S, Taguchi A, Nagata T, Urade M, Shibahara T, Toyosawa S: Erratum to: Antiresorptive agent-related osteonecrosis of the jaw: Position Paper 2017 of the Japanese Allied Committee on Osteonecrosis of the Jaw. ***J Bone Miner Metab.*** 35:20,2017. doi: 10.1007/s00774-017-0816-9.
12. Yoneda T, Hagino H, Sugimoto T, Ohta H, Takahashi S, Soen S, Taguchi A, Nagata T, Urade M, Shibahara T, Toyosawa S: Antiresorptive agent-related osteonecrosis of the jaw: Position Paper 2017 of the Japanese Allied Committee on Osteonecrosis of the Jaw. ***J Bone Miner Metab.*** 35:6-19,2017. doi: 10.1007/s00774-016-0810-7.

恩田健志

1. Akiko Saito, Akio Ooki, Takashi Nakamura, Shoko Onodera, Kamichika Hayashi, Daigo Hasegawa, Takahito Okudaira, Katsuhito Watanabe, Hiroshi Kato, Takeshi Onda, Akira Watanabe, Kenjiro Kosaki, Ken Nishimura, Manami Ohtaka, Mahito Nakanishi, Teruo Sakamoto, Akira Yamaguchi, Kenji Sueishi, Toshifumi Azuma: Targeted reversion of induced pluripotent stem cells from patients with human cleidocranial dysplasia improves bone regeneration in a rat calvarial bone defect model. ***Stem Cell Research & Therapy.*** doi: 10.1186/s13287-017-0754-4. 2018
2. Daigo Hasegawa, Hiromi Ochiai-Shino, Shoko Onodera, Takashi Nakamura, Akiko Saito, Takeshi Onda, Katsuhito Watanabe, Ken Nishimura, Manami Ohtaka, Mahito Nakanishi,

Kenjiro Kosaki, Akira Yamaguchi, Takahiko Shibahara, Toshifumi Azuma: Gorlin syndrome-derived induced pluripotent stem cells are hypersensitive to hedgehogmediated osteogenic induction. ***PLOS ONE***. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0186879, 2017.

3. Yukio Watabe, Takeshi Nomura, Takeshi Onda, Takashi Yakushiji, Nobuharu Yamamoto, Hitoshi Ohata, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara: Malignant transformation of oral leukoplakia with a focus on low-grade dysplasia. ***Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology,*** 28(1).26-29.2016.

渡邉豪士

1. Akiko Saito, Akio Ooki, Takashi Nakamura, Shoko Onodera, Kamichika Hayashi, Daigo Hasegawa, Takahito Okudaira, Katsuhito Watanabe, Hiroshi Kato, Takeshi Onda, Akira Watanabe, Kenjiro Kosaki, Ken Nishimura, Manami Ohtaka, Mahito Nakanishi, Teruo Sakamoto, Akira Yamaguchi, Kenji Sueishi, Toshifumi Azuma: Targeted reversion of induced pluripotent stem cells from patients with human cleidocranial dysplasia showed corrected osteoblastic differentiation both in vitro and in vivo. ***Stem Cell Res Ther*** 2018; 9: 12. doi: 10.1186/s13287-017-0754-4
2. Daigo Hasegawa, Hiromi Ochiai-Shino, Shoko Onodera, Takashi Nakamura, Akiko Saito, Takeshi Onda, Katsuhito Watanabe, Ken Nishimura, Manami Ohtaka, Mahito Nakanishi, Kenjiro Kosaki, Akira Yamaguchi, Takahiko Shibahara, Toshifumi Azuma: Gorlin syndrome-derived induced pluripotent stem cells are hypersensitive to hedgehog-mediated osteogenic induction. ***PLoS One***. 12: e0186879,2017. doi:10.1371/journal.pone.0186879
3. Onodera S, Saito A, Hasegawa D, Morita N, Watanabe K, Nomura T, Shibahara T, Ohba S, Yamaguchi A, Azuma T: Multi-layered mutation in hedgehog-related genes in Gorlin syndrome may affect the phenotype. ***PLoS One***. 12:e0184702, 2017. doi:10.1371/journal.pone.0184702

末石研二

1. Tachiki C, Nishii Y, Takaki T, Sueishi K.: Condition-specific Quality of Life Assessment at Each Stage of Class III Surgical Orthodontic Treatment –A Prospective Study. ***Bull Tokyo Dent Coll***. 59:1-14, 2018. doi: 10.2209/tdcpublication.2016-0042.
2. Ishii T, Ruiz-Torruella M, Ikeda A, Shindo S, Movila A, Mawardi H, Albassam A, Kayal RA, Al-Dharrab AA, Egashira K, Wisitrasameewong W, Yamamoto K, Mira AI, Sueishi K, Han X, Taubman MA, Miyamoto T, Kawai T.: OC-STAMP promotes osteoclast fusion for pathogenic bone resorption in periodontitis via up-regulation of permissive fusogen CD9. FASEB J. 2018 Mar 13:fj201701424R. doi: 10.1096/fj.201701424R.
3. Saito A, Ooki A, Nakamura T, Onodera S, Hayashi K, Hasegawa D, Okudaira T, Watanabe K, Kato H, Onda T, Watanabe A, Kosaki K, Nishimura K, Ohtaka M, Nakanishi M, Sakamoto T, Yamaguchi A, Sueishi K, Azuma T.: Targeted reversion of induced pluripotent stem cells from patients with human cleidocranial dysplasia improves bone regeneration in a rat calvarial bone defect model. Stem Cell Res Ther. 2018 Jan 22;9(1):12. doi: 10.1186/s13287-017-0754-4.
4. Kim H, Sakamoto T, Yamaguchi H, Sueishi K.: Evaluation of Chewing Movement in Skeletal Class III Patients with Orthognathic Treatment. Bull Tokyo Dent Coll. 58:213-221, 2017.

石井武展

1. Nagano S, Shimojima R, Ishii T, Sueishi K: Histological response in dental pulp of accelerate tooth movement using operaodontal ligament distraction osteogenesis in Dogs. ***Orthodontic waves.*** 2017 (in press).

2. Ishii T, Ruiz-Torruella M, Ikeda A, Shindo S, Movila A, Mawardi H, Albassam A,Kayal RA, Al-Dharrab AA, Egashira K, Wisitrasameewong W, Yamamoto K, Mira AI, Sueishi K, Han X, Taubman MA, Miyamoto T, Kawai T. : OC-STAMP promotes osteoclast fusion for pathogenic bone resorption in periodontitis via up-regulation of permissive fusogen CD9. ***FASEB J.*** 13:fj201701424R,2018. doi: 10.1096/fj.201701424R.

鈴木瑛一

1. Seshima F, Aoki H, Takeuch T, Suzuki E, Irokawa D, Makino-Oi A, Sugito H, Tomita S, Saito A.: Clinical evaluation of periodontal regenerative therapy with enamel matrix derivative in the treatment of intrabony defects: a two-year prospective study. ***BMC Res Notes*** 10:256, 2017
2. Hisanaga Y, Suzuki E, Aoki H, Sato M, Saito A, Saito A, Azuma T.: Effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on osteoblastic differentiation of mouse induced pluripotent stem cells in vitro. ***J Periodontal Res*** 53:240-249, 2018

青木栄人

1. Clinical evaluation of periodontal regenerative therapy with enamel matrix derivative in the treatment of intrabony defects: a two-year prospective study. ***BMC Res Notes*** 10:256, 2017
2. Hisanaga Y, Suzuki E, Aoki H, Sato M, Saito A, Saito A, Azuma T.: Effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on osteoblastic differentiation of mouse induced pluripotent stem cells in vitro. ***J Periodontal Res*** 2017. doi: 10.1111/jre.12511.

佐藤正敬

3. Hisanaga Y, Suzuki E, Aoki H, Sato M, Saito A, Saito A, Azuma T.: Effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on osteoblastic differentiation of mouse induced pluripotent stem cells in vitro. ***J Periodontal Res*** 2017. doi: 10.1111/jre.12511.

感染制御ラボ

推進委員会委員

石原和幸

1. Ota K, Kikuchi Y, Imamura K, Kita D, Yoshikawa K, Saito A, Ishihara K: SigCH, an extracytoplasmic function sigma factor of *Porphyromonas gingivalis* regulates the expression of cdhR and hmuYR. ***Anaerobe*** 43:82-90, 2017.
2. Morita M, Iwasaki R, Sato Y, Kobayashi T, Watanabe R, Oike, T, Nakamura S, Keneko Y, Miyamoto K, Ishihara K, Iwakura Y, Ishii, K, Matsumoto M, Nakamura M, Kawana H, Nakagawa T, Miyamoto T: Elevation of pro-inflammatory cytokine levels following anti-resorptive drug treatment is required for osteonecrosis development in infectious osteomyelitis. ***Sci Rep*** 7: 46322, 2017. doi: 10.1038/srep46322.
3. Fujise K, Kikuchi Y, Kokubu E, Okamoto-Shibayama K, Ishihara K: Effect of extracytoplasmic function sigma factors on autoaggregation, hemagglutination, and cell surface properties of *Porphyromonas gingivalis*. ***PLoS One*** 12: e0185027, 2017. doi: 10.1371/journal.pone.018502.
4. Okamoto-Shibayama K, Sekino J, Yoshikawa K. Saito A, Ishihara K: Antimicrobial susceptibility profiles of oral *Treponema* species. ***Anaerobe*** 48: 242-248, 2017.
5. Okamoto-Shibayama K, Kikuchi Y, Kokubu E, Ishihara K: Possible involvement of surface antigen protein 2 in the morphological transition and biofilm formation of *Candida albicans.* ***Med Mycol J*** 58:*E139-E143,* 2017. doi: 10.3314/mmj.17-00008.

6. Kokubu E, Inoue T, Ishihara K: Response of epithelial cells infected by *Treponema denticola*. ***Oral Dis*** 24: 14-18, 2018. doi: 10.1111/odi.12794.
7. Harada R, Kokubu E, Kinoshita H, Yoshinari M, Ishihara K, Kawada, E: Takemoto S. Corrosion behavior of titanium in response to sulfides produced by *Porphyromonas gingivalis*. ***Dent Mater*** 34: 183-191. doi: 10.1016/j.dental.2017.10.004.
8. Udagawa S, Katagiri S, MaekawaS, Takeuchi Y, Komazaki R, Ohtsu A, Sasaki N, Shiba T, Watanabe K, Ishihara K, Sato N, Miyasaka N, Izumi Y: Effect of *Porphyromonas gingivalis* infection in the placenta and umbilical cord in pregnant mice with low birth weight. ***Acta Odontol Scand*** doi: 10.1080/00016357.2018.1426876 (in press).

村松　敬

1. Sako S, Kobayashi F, Aida N, Furusawa M, Muramatsu T: Response of porcine epithelial rests of Malassez to stimulation by interleukin-6. ***Int Endod J*** (in press)
2. Ide F, Muramatsu T, Kikkuchi K, Kusama K: Solving the remaining mysteries. ***J Oral Pathol Med*** (in press)
3. Ide F, Kikkuchi K, Sakashita H, Muramatsu T, Kusama K: Unusual findings in common peripheral ossifying fibromas: transepithelial elimination and epithelial inclusion. ***Histopathol*** 70:834-837, 2017.
4. Ide F, Kikkuchi K, Kusama K, Muramatsu T: An old report of idiopathic gingival papillokeratosis with crypt formation. ***Oral Surg, Oral Med, Oral Pathol, Oral Radiol*** 123: 515, 2017.

齋藤　淳

1. Ota K, Kikuchi Y, Imamura K, Kita D, Yoshikawa K, Saito A, Ishihara K: SigCH, an extracytoplasmic function sigma factor of *Porphyromonas gingivalis* regulates the expression of *cdhR* and *hmuYR*. ***Anaerobe*** 43:82-90, 2017.
2. Ogata Y, Nakayama Y, Tatsumi J, Kubota T, Sato S, Nishida T, Takeuchi Y, Onitsuka T, Sakagami R, Nozaki T, Murakami S, Matsubara N, Tanaka M, Yoshino T, Ota J, Nakagawa T, Ishihara Y, Ito T, Saito A, Yamaki K, Matsuzaki E, Hidaka T, Sasaki D, Yaegashi T, Yasuda T, Shibutani T, Noguchi K, Araki H, Ikumi N, Aoyama Y, Kogai H, Nemoto K, Deguchi S, Takiguchi T, Yamamoto M, Inokuchi K, Ito T, Kado T, Furuichi Y, Kanazashi M, Gomi K, Takagi Y, Kubokawa K, Yoshinari N, Hasegawa Y, Hirose T, Sase T, Arita H, Kodama T, Shin K, Izumi Y, Yoshie H: Prevalence and risk factors for peri-implant diseases in Japanese adult dental patients. ***J Oral Sci*** 59:1-11, 2017.
3. Kakuta E, Nomura Y, Morozumi T, Nakagawa T, Nakamura T, Noguchi K, YoshinariN, Fukaya C, Sekino S, Numabe Y, Sugano N, Ito K, Kobayashi H, Izumi Y, Takai H, Ogata Y, Takano S, Minabe M, Makino-Oi A, Saito A, Abe Y, Sato S, Suzuki F, Takahashi K, Sugaya T, Kawanami M, Hanada N, Takashiba S, Yoshie H: Assessing the progression of chronic periodontitis using subgingival pathogen levels: a 24-month prospective multicenter cohort study. ***BMC Oral Health*** 17:46, 2017, doi: 10.1186/s12903-017-0337-x.
4. Irokawa D, Takeuchi T, Noda K, Goto H, Egawa M, Tomita S, Sugito H, Nikaido M, Saito A: Clinical outcome of periodontal regenerative therapy using collagen membrane and deproteinized bovine bone mineral: a 2.5-year follow-up study. ***BMC Research Notes*** 10:102, 2017,doi: 10.1186/s13104-017-2426-y.
5. Irokawa D, Okubo N, Nikaido M, Shimizu H, Konobu H, Matsui T, Fujita T, Goto H, Takeuchi T, Ishii Y, Saito A: Periodontal regenerative therapy of intrabony defects using deproteinized bovine bone mineral in combination with collagen barrier membrane: A multicenter prospective case-series study. ***Int J Periodont Rest Dent*** 37:393-401, 2017.

6. Seshima F, Aoki H, Takeuchi T, Suzuki E, Irokawa D, Makino-Oi A, Sugito H, Tomita S, Saito A: Periodontal regenerative therapy with enamel matrix derivative in the treatment of intrabony defects: a prospective two-year study. ***BMC Research Notes*** 10:256, 2017, doi: 10.1186/s13104-017-2572-2.
7. Okamoto-Shibayama K, Sekino J, Yoshikawa K, Saito A, Ishihara K: Antimicrobial susceptibility profiles of oral Treponema species. ***Anaerobe*** 48:242-248, 2017.
8. Nomura S, Morozumi T, Nakagawa T, Sugaya T, Kawanami M, Suzuki F, Takahashi K, Abe Y, Sato S, Makino-Oi A, Saito A, Takano S, Minabe M, Nakayama Y, Ogata Y, Kobayashi H, Izumi Y, Sugano N, Ito K, Sekino S, Numabe Y, Fukaya C, Yoshinari N, Fukuda M, Noguchi T, Kono T, Umeda M, Fujise O, Nishimura F, Yoshimura A, Hara Y, Nakamura T Noguchi K, Kakuta E, Hanada N, Takashiba S, Amitani Y, Yoshie H et al.: Site-level progression of periodontal disease during a follow-up period. ***PLoS One*** 2017, https://doi.org/10.1371/journal.pone.0188670.
9. Hisanaga Y, Suzuki E, Aoki H, Sato M, Saito A, Saito A, Azuma T: Effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on osteoblastic differentiation of mouse induced pluripotent stem cells in vitro. ***J Periodontal Res*** 53:240-249. doi: 10.1111/jre.12511.

澁川義幸

1. Kojima Y, Kimura M, Higashikawa A, Kono K, Ando M, Tazaki M, Shibukawa Y: Potassium currents activated by depolarization in odontoblasts. ***Front Physiol*** 8: Article 1078, 2017. doi: doi.org/10.3389/fphys.2017.01078.
2. Satou R, Sato M, Kimura M, Ishizuka Y, Tazaki M, Sugihara N, Shibukawa Y: Temporal Expression Pattern of Clock Genes and Aquaporin 5/Anoctamin 1 in Rat Submandibular Gland Cells. ***Front Physiol*** 8: Article 320, 2017. doi: 10.3389/fphys.2017.00320.
3. Shiozaki Y, Sato M, Kimura M, Sato T, Tazaki M, Shibukawa Y: Ionotropic P2X ATP receptor channels mediate purinergic signaling in mouse odontoblasts. ***Front Physiol*** 8: Article 3, 2017. doi: 10.3389/fphys.2017.00003.

研究分担者

喜田大智

1. Kita D, Kinumatsu T, Yokomizo A, Tanaka M, Egawa M, Makino-Oi A, Tomita S, Saito A.: Clinical effect of a dentifrice containing three kinds of bactericidal ingredients on periodontal disease: a pilot study in patients undergoing supportive periodontal therapy. ***BMC Res Notes*** 11:116, 2018. doi: 10.1186/s13104-018-3216-x.
2. Ota K, Kikuchi Y, Imamura K, Kita D, Yoshikawa K, Saito A, Ishihara K.: SigCH, an extracytoplasmic function sigma factor of *Porphyromonas gingivalis* regulates the expression of *cdhR* and *hmuYR*. ***Anaerobe*** 43:82-90, 2017.

木村麻記

1. Kojima Y, Kimura M, Higashikawa A, Kono K, Ando M, Tazaki M, Shibukawa Y: Potassium Currents Activated byDepolarization in Odontoblasts. ***Front Physiol***, 8:1078,2017. doi: 10.3389/fphys.2017.01078
2. Satou R, Sato M, Kimura M, Ishizuka Y, Tazaki M, Sugihara N, Shibukawa Y: Temporal expression patterns of clock genes and aquaporin 5/anoctamin 1 in rat submandibular gland cells. ***Front Physiol***, 8:320, 2017.doi: 10.3389/fphys.2017.00320
3. Shiozaki Y, Sato M, Kimura M, Sato T, Tazaki M, Shibukawa Y: Ionotropic P2X ATP receptor channels mediate purinergic signaling in mouse odontoblasts. ***Front Physiol***, 8: Article 3, 2017. doi: 10.3389/fphys.2017.00003.

小島祐貴

1. Kojima Y, Kimura M, Higashikawa A, Kono K, Ando M, Tazaki M, Shibukawa Y: Potassium Currents Activated by Depolarization in Odontoblasts. ***Front Physiol***. 19;8:1078, 2017. doi: 10.3389/fphys.

国分栄仁

1. Kokubu E, Inoue T, Ishihara K.: Response of epithelial cells infected by *Treponema denticola*. Oral Dis. 2018;24:14-18. doi: 10.1111/odi.12794.
2. Okamoto-Shibayama K, Kikuchi Y, Kokubu E, Ishihara K: Possible involvement of surface antigen protein 2 in the morphological transition and biofilm formation of *Candida albicans*. ***Med Mycol J***. 58:E139-E143, 2017.
3. Fujise K, Kikuchi Y, Kokubu E, Okamoto-Shibayama K, Ishihara K: Effect of extracytoplasmic function sigma factors on autoaggregation, hemagglutination, and cell surface properties of *Porphyromonas gingivalis*. ***Plos One***. 12: e0185027, 2017. doi: 10.1371/journal.pone.0185027
4. Harada R, Kokubu E, Kinoshita H, Yoshinari M, Ishihara K, Kawada E, Takemoto S.: Corrosion behavior of titanium in response to sulfides produced by *Porphyromonas gingivalis*. Dent Mater. 2017 pii:S0109-5641(17)30157-4. doi: 10.1016/j.dental.2017.10.004.

柴山和子

1. Okamoto-Shibayama K, Sekino J, Yoshikawa K, Saito A, Ishihara K.: Antimicrobial susceptibility profiles of oral Treponema species. ***Anaerobe***. 48:242-248, 2017. doi: 10.1016/j.anaerobe.2017.10.005
2. Fujise K, Kikuchi Y, Kokubu E, Okamoto-Shibayama K, Ishihara K.: Effect of extracytoplasmic function sigma factors on autoaggregation, hemagglutination, and cell surface properties of Porphyromonas gingivalis. ***PLoS One***. 12(9):e0185027, 2017. doi: 10.1371/journal.pone.0185027
3. Okamoto-Shibayama K, Kikuchi Y, Kokubu E, Ishihara K.: Possible Involvement of Surface Antigen Protein 2 in the Morphological Transition and Biofilm Formation of Candida albicans. ***Med Mycol J***. 58(4):E139-E143, 2017. doi: 10.3314/mmj.17-00008

菊池有一郎

1. Okamoto-Shibayama K, Kikuchi Y, Kokubu E, Ishihara K: Possible involvement of surface antigen protein 2 in the morphological transition and biofilm formation of *Candida albicans*. ***Med Mycol J***. 58:E139-E143, 2017.
2. Fujise K, Kikuchi Y, Kokubu E, Okamoto-Shibayama K, Ishihara K: Effect of extracytoplasmic function sigma factors on autoaggregation, hemagglutination, and cell surface properties of *Porphyromonas gingivalis*. ***Plos One***. 12: e0185027, 2017. doi: 10.1371/journal.pone.0185027

ファブラボ

推進委員会委員

後藤多津子

1. Baba A, Goto TK, Ojiri H, Takagiwa M, Hiraga C, Okamura M, Hasegawa S, Okuyama Y, Ogino N, Yamauchi H, Kobashi Y, Yamazoe S, Munetomo Y, Mogami T, Nomura T: CT Imaging Features of Antiresorptive agent-Related Osteonecrosis of the Jaw/ Medication-Related Osteonecrosis of the Jaws. ***Dentomaxillofac Radiol***, 47:20170323, 2018, doi: 10.1259/dmfr.20170323.
2. Yeung WKA, Goto TK, Leung WK: Affective value, intensity and quality of liquid tastants/food discernment in the human brain: An activation likelihood estimation meta-analysis. ***Neuroimage*** 169:189-199. 2017.

3. Yeung WKA, Goto TK, Leung WK: Brain responses to stimuli mimicking dental treatment among non-phobic individuals: a meta-analysis. ***Oral Dis*** 2017. doi: 10.1111/odi.12819.
4. Wakoh M, Sasaki Y, Otonari-Yamamoto M, Goto TK, Ogane S, Matsushima J, Nakatani Y: Imaging Findings in AIDS-related Oral Kaposi's Sarcoma. ***Bull Tokyo Dent Coll*** 58, 145-154, 2017.
5. Yeung WKA, Goto TK, Leung WK: At the Leading Front of Neuroscience: A Bibliometric Study of the 100 Most-Cited Articles. ***Front Hum Neurosci*** 11:363, 2017. doi: 10.3389*/fnhum*. 00363.
6. Hsung TC, Lo J, Chong MM, Goto TK, Cheung LK: Orbit Segmentation by Surface Reconstruction with Automatic Sliced Vertex Screening. ***IEEE Trans on Biomed Eng*** 2017. doi: 10.1109/TBME.2017.2720184.
7. Yeung WKA, Goto TK, Leung WK: The Changing Landscape of Neuroscience Research, 2006-2015: A Bibliometric Study. ***Front Neurosci*** 2017. doi:10.3389/fnins.2017.00120.
8. Yeung WKA, Goto TK, Leung WK: Basic taste processing recruits bilateral anteroventral and middle dorsal insulae: An activation likelihood estimation meta-analysis of fMRI studies. ***Brain Behav*** 7(4):e00655, 2017. doi: 10.1002/brb3.655
9. Yeung WKA, Goto TK, Leung WK: A bibliometric review of research trends in neuroimaging. ***Curr Sci*** 112:725-734,2017. doi:10.18520/cs/v112/i04/725-734.

片倉　朗

1. Michiyoshi Kouno, Akihiro Nishiyama, Masaki Minabe, Naohiko Iguchi, Kenichiro Ukichi, Takeshi Nomura, Akira Katakura, Shinichi Takahashi: Retrospective analysis of the clinical response of palmoplantar pustulosis after dental infection control and dental metal removal. ***J. Dermatol*** 2017:1-4,2017. doi:10.1111/1346-8138.13751.
2. Mira Kin, Takeshi Nomura, Shuji Namiki, Yoshihiro Takeyasu, Takeo Shibui, Yasuhiro Kizu, Akira Katakura: Biomechanical analysis of maxillary prosthodontic reconstrucyion using implants after resection for maxillary cancer. ***J Oral Maxillofac Surg Med Pathol*** 29:156-162, 2017.
3. Mitsuyoshi Ohshima、Keisuke Sugahara、Kiyohiro Kasahara and Akira Katakura: Metabolomic analysis of the saliva of Japanese patients with oral squamous cell carcinoma. ***Oncol Rep*** 37 2727-2734, 2017. doi:10.3892/ or.2017.5561.
4. Katakura Akira, Nishiyama Akihiro, Sakai Katsuhiko and Nomura Takeshi: The Role of a Community Medicine Support Hospital Attached to a School of Dentistry.口腔顎顔面外傷 16(1)9-13,2017
5. Y.Yajima, M.Kawaguchi, M.Yoshikawa, M.Okubo, E.Tsukagoshi, K.Sato, A.Katakura: The effect of 2,3-dimercapto-1-propanesulfonic acid (DMPS) and meso-2,3,-dimercaptosuccinin acid (DMSA) on the nephrotoxicity in the mouse during repeated cisplatin (CDDP) treatments. ***J Pharmacol Sci*** 134:108-115, 2017.
6. Teruhide Hoshino, Masahito Yamamoto, Kiyohiro Kasahara, Akira Katakura: Comparison of age-related morphological changes in the masseter muscles of senescence-accelerated mouse (SAM). ***J Oral Maxillofac Surg Med Pathol*** 30:44-49, 2018.

吉成正雄

1. Harada R, Kokubu E, Kinoshita H, Yoshinari M, Ishihara K, Kawada E, Takemoto S: Corrosion behavior of titanium in response to sulfides produced by *Porphyromonas gingivalis*. ***Dent Mater*** 2017. doi:10.1016/j.dental.2017.10.004.
2. Suzuki K, Takano T, Takemoto S, Ueda T, Yoshinari M, Sakurai K: Influence of grade and surface topography of commercially pure titanium on fatigue properties. ***Dent Mater J*** 2017 doi: 10.4012/dmj.2017-125.

3. Yang L, Tanabe K, Miura T, Yoshinari M, Takemoto S, Shintani S, Kasahara M: Influence of lyophilization factors and gelatin concentration on pore structures of atelocollagen/gelatin sponge biomaterial. ***Dent Mater J*** 36:429-437,2017.
4. Kida K, Tanabe K, Sasaki H, Furuya Y, Miura T, Yoshinari M, Yajima Y: Release properties of atelocollagen-gelatin complexes as carriers for local administration of fluvastatin. ***Dent Mater J*** 36:408-414,2017.
5. Odaka K, Matsunaga S, Kasahara M, Nakano T, Yoshinari M, Abe S.: Alignment of biological apatite crystallites in peri-implant bone of beagles. ***Mater Trans*** 58:107-112,2017.
6. Miura T, Egawa M, Ito T, Eguro T, Tanabe K, Yoshinari M: Debridement effect on periodontal pathogen *Porphyromonas Gingivalis* cultured on titanium by application of atmospheric-pressure plasma. ***J Biomedical Science and Engineering*** 10: 51-59,2017.

阿部伸一

1. Rodríguez-Vázquez JF, Yamamoto M, Abe S, Katori Y, Murakami G: Development of the human incus with special reference to the detachment from the chondrocranium to be transferred into the middle ear. ***Anat Rec*** 2018, doi: 10.1002/ar.23832.
2. Hirouchi H, Kitamura K, Yamamoto M, Odaka K, Matsunaga S, SakiyamaK, Abe S: Developmental characteristics of secondary cartilage in the mandibular condyle and sphenoid bone in mice. ***Arc Oral Biol*** 89:84-92, 2018, doi: 10.1016/j.archoralbio.2017.12.027.
3. Jin, ZW, Cho KH, Jang HS, Murakami G, Rodríguez-Vázquez JF, Yamamoto M, Abe S: Coccygeal body revisited: an immunohistochemical study using donated elderly cadavers. ***Anat Rec*** 300:1826-1837, 2017.
4. Nara M, Kitamura K, Yamamoto M, Nagakura R, Matsunaga S, Hinata N, Abe S: The developmental mechanism of muscle-tendon-bone complex in fetal soft palate. ***Arc Oral Biol*** 82:71-79, 2017.
5. Fujiseki M, Yamamoto M, Ubaidus S, Shinomiya T, Abe S, Tazaki M, Yamamoto H: Localization and expression patterns of TRP channels in submandibular gland development. ***Arc Oral Biol*** 74:46-50, 2017.
6. Yamamoto M, Kitamura K, Kasahara M, Serikawa M, Katsumura S, Yoshimoto T, Matsubayashi T, Odaka K, Matsunaga S, Abe S: Histological study of the developing pterygoid process of the fetal mouse sphenoid. ***Anat Sci Int*** 92:364-372, 2017.
7. Yamatmoto M, Kojyo U, Yanagisawa N, Mitomo K, Takayama T, Sakiyama K, Abe S: Morphology and relationships of the biceps brachii and brachialis with the musculocutaneous nerve. ***Surg Radiol Anat*** 2017. doi: 10.1007/s00276-017-1919-7.
8. Kobayashi K, Cho KH, Yamamoto M, Mitomo K, Murakami G, Abe S: Tree of vater-pacinian corpuscles in the human finger and thumb: a comparison between the late fetal stage and old age. ***Surg Radiol Anat*** 39, 2017. doi: 10.1007/s00276-017-1894-z.
9. Shiraishi Y, Jin ZW, Mitomo K, Yamamoto M, Murakami G, Abe H, Abe S: Fetal development of the human gluteus maximus muscle with special reference to its fascial insertion. ***Folia Morphologica*** 2017. doi: 10.5603/FM.a2017.0060.
10. Hirano-Kawamoto A, Honkawa Y, Kobayashi Y, Murakami G, Abe S, Katori Y: Enteric neurons of the esophagus: an immunohistochemical study using donated elderly cadavers. ***Surg Radiol Anat*** 39:477-484, 2017.
11. Kitamura K, Cho KH, Jang HS, Murakami G, Yamatmoto M, Abe S: Distance between intramuscular nerve and artery in the extraocular muscles: a preliminary immunohistochemical study using elderly human cadavers. ***Surg Radiol Anat*** 39:3-9, 2017

12. Yamauchi M, Yamamoto M, Kitamura K, Morita S, Ryotaro N, Matsunaga M, Abe S: Morphological examination and elucidation of the muscle fiber characteristics of suboccipital muscles. ***Anat Sci Int*** 2017 (in press).
13. Sugahara K, Katsumi Y, Koyachi M, Koyama Y, Matsunaga S, Odaka K, Abe S, Takano M, Katakura A: Novel condylar repositioning method for 3D-printed models. ***Maxillofac Plast Reconstr Surg*** 40:4,2018. doi: 10.1186/s40902-018-0143-7.
14. Takano N, Takizawa H, Wen P, Odaka K, Matsunaga S, Abe S: Stochastic prediction of apparent compressive stiffness of selective laser sinstered lattice structure with geometrical imperfection and uncertainty in material property. ***Int J Mech Sci*** 134:347-356,2017.
15. Odaka K, Matsunaga S, Kasahara M, Nakano T, Yoshinari M, Abe S. Alignment of biological apatite crystallites in peri-implant bone of beagles. ***Mater Trans*** 58:107-112, 2017.

松永　智

1. Sugahara K, Katsumi Y, Koyachi M, Koyama Y, Matsunaga S, Odaka K, Abe S, Takano M, Katakura A: Novel condylar repositioning method for 3D-printed models. ***Maxillofac Plast Reconstr Surg*** 40:4,2018. doi: 10.1186/s40902-018-0143-7.
2. Nara M, Kitamura K, Yamamoto M, Nagakura R, Mitomo K, Matsunaga S, Abe S: Developmental mechanism of muscle-tendon-bone complex in the fetal soft palate. ***Arch Oral Biol*** 82:71-78, 2017.
3. Takano N, Takizawa H, Wen P, Odaka K, Matsunaga S, Abe S: Stochastic prediction of apparent compressive stiffness of selective laser sinstered lattice structure with geometrical imperfection and uncertainty in material property. ***Int J Mech Sci*** 134:347-356, 2017.
4. Odaka K, Matsunaga S, Kasahara M, Nakano T, Yoshinari M, Abe S: Alignment of biological apatite crystallites in peri-implant bone of beagles. ***Mater Trans*** 58:107-112, 2017.

研究分担者

小高研人

1. Kento Odaka, Satoru Matsunaga, Masaaki Kasahara, Takayoshi Nakano, Masao Yoshinari, Shinichi Abe: Alignment of Biological Apatite Crystallites in Peri-Implant Bone of Beagles. ***Materials Transactions***, 58:107-112, 2017

菅原圭亮

1. Sugahara K, Katsumi Y, Koyachi M, Koyama Y, Matsunaga S, Odaka K, Abe S, Takano M, Katakura A.: Novel condylar repositioning method for 3D-printed models. ***Maxillofac Plast Reconstr Surg.*** 5:40(1):4, 2018. doi: 10.1186/s40902-018-0143-7
2. Takano M, Kasahara K, Sugahara K, Watanabe A, Yoshida S, Shibahara T.: Usefulness and capability of three dimensional, full high-definition movies for surgical education. ***Maxillofac Plast Reconstr Surg.*** 2017 Aug 16;39(1):28. doi: 10.1186/s40902-017-0124-2. eCollection 2017 Dec.
3. Ohshima M, Sugahara K, Kasahara K, Katakura A.: Metabolomic analysis of the saliva of Japanese oral squamous cell carcinoma patients. ***Oncol Rep.*** 37(5):2727-2734, 2017. doi: 10.3892/or.2017.5561.

小谷地雅秀

1. Koyachi M, Sugahara K, Koyama Y, Katsumi Y, Hoshino T, Nishiyama A, Bessho H, Kasahara K, Takano M, Shibahara T, Katakura A: Clinical study of pediatric patients with oral and maxillofacial trauma in our hospital over a 2-year period. ***Oral Science in Japan 2017（43-44）***
2. Sugahara K, Katsumi Y, Koyachi M, Koyama Y, Matsunaga S, Odaka K, Abe S, Takano M,

Katakura A: Novel condylar repositioning method for 3D-printed models. ***Maxillofacial Plastic and Reconstructive Surgery*** 5:41(1):4, 2018. doi: 10.1186/s40902-018-0143-7.

中島一憲

1. Takeda T, Kawakami Y, Konno M, Matsuda Y, Nishino M, Suzuki Y, Kawano Y, Nakajima K, Ozawa T, Kondo Y and Sakatani K : PFC Blood Oxygenation Changes in Four Different Cognitive Tasks. ***Adv Exp Med Biol*** 977: 199-204, 2017.
2. Kawakami Y, Takeda T, Konno M, Suzuki Y, Kawano Y, Ozawa T, Kondo Y, and Sakatani K: Relationships Between Gum Chewing and Stroop Test: A Pilot Study. ***Adv Exp Med Biol*** 977: 221-226, 2017.
3. Kuwahara R, Tomita R, Ogawa N, Nakajima K, Takeda T, Uehara H,Yamanobe T: Crystallization and hardening of poly(ethylene-co-vinyl acetate) mouthguards during routine use. ***Sci Rep***. 7:44672,2017. doi: 10.1038/srep44672.

澁井武夫

1. Kin M, Nomura T, Namiki S, Takeyasu Y, Shibui T, Kizu Y, Katakura A: Biomechanical analysis of maxillary prosthodontic reconstruction using implants after resection for maxillary cancer. ***J Oral Maxillofaci Surgery, Medicine, and Pathology***, 29: 156-162, 2017

音成実佳

1. Otonari-Yamamoto M, Imoto K. Differences in signal intensities of temporomandibular joint (TMJ) effusion on fluid-attenuated inversion recovery (FLAIR) images. ***Oral Radiology*** 2018.doi.org/10.1007/s11282-018-0317-0

和文原著論文

分子・細胞グループ

推進委員会委員

新谷誠康

1. 辻野啓一郎、山本絢子、荒井亮、新谷誠康：複数の小臼歯先天欠如症例の矯正治療に際して小臼歯の自家移植を行った1例. *小児口腔外科* 27:6-11, 2017.
2. 五味暁憲、辻野啓一郎、大串圭太、鈴木奈穂、布施亜由美、福島圭子、武者篤、小杉謙介、倉持真理子、吉田みずき、新谷誠康、横尾聡：当口腔保健センターにおける外来局所麻酔下小手術の適応基準の妥当性. *障害者歯科* 38：198−202, 2017.

研究分担者

柴原孝彦

1. 森川貴迪, 小杉彩歌, 別所央城, 野村武史, 片倉朗, 柴原孝彦: 蛍光光学機器による舌扁平上皮癌ならびに白板症の解析.*日本口腔科学会雑誌* 66:273-282, 2018
2. 森川貴迪, 別所央城, 小坂井絢子, 小杉彩歌, 柴原孝彦: 口腔粘膜観察用光学機器 IllumiScan による口腔扁平上皮癌ならびに口腔扁平苔癬の解析.*歯科学報* 117:383-392, 2018
3. 村山雅人, 高田満, 有泉高晴, 藤本侑子, 佐々木研一, 柴原孝彦: 知覚神経活動電位導出法(SNAP)を用いた下歯槽神経、舌神経損傷の診断と対応. *口腔顎顔面外傷* 16:51-58, 2018
4. 菅原圭亮, 太尾英子, 別所央城, 関根理予, 大野啓介, 片倉朗, 柴原孝彦: 解析ソフトを用いた光学機器による口腔粘膜蛍光観察. *日本口腔診断学会雑誌* 30:168-175, 2017
5. 森川貴迪, 太尾英子, 別所央城, 藥師寺孝, 野村武史, 小野寺晋志, 内野福生, 高野伸夫, 柴原孝彦: 口腔扁平上皮癌患者における Imaging biomarker としての FDG PET/CT の有用性. *日本口腔腫瘍学会誌* 29:23-35, 2017

6. 渡部幸央, 鬼谷薫, 松本暢久, 林宰央, 森川貴迪, 恩田健志, 藥師寺孝, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦: 口腔扁平上皮癌の予後予測における術前末梢血リンパ球数・単球数比の有用性に関する単施設後ろ向き研究. *日本口腔外科学会雑誌* 63:185-192, 2017

恩田健志

1. 渡部幸央, 鬼谷薫, 松本暢久, 林宰央, 森川貴迪, 恩田健志, 藥師寺孝, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦: 口腔扁平上皮癌の予後予測における術前末梢血リンパ球数・単球数比の有用性に関する単施設後ろ向き研究, *日本口腔外科学会雑誌* 63(4).185-192.2017.

感染制御ラボ

推進委員会委員

村松　敬

1. 半場秀典、中村圭喜、二階堂徹、村松敬、古澤成博、田上順次：ヒト小臼歯における脱灰とマイクロクラックの進行の検討－マイクロCTを用いたアブフラクションモデルによる解析－. *日本歯科保存学会誌* 60(2):89-95, 2017.

ファブラボ

推進委員会委員

片倉　朗

1. 櫻井薫、平野浩彦、菊谷武、片倉朗、山崎裕、飯島勝矢、吉田光由、戸原玄、渡邊裕：後期高齢者の口腔機能を改善する診療ガイドラインに関する研究－オーラルフレイル概念を基軸にした検討－. *日本歯科医学会誌* 36 :38-42, 2017
2. 菅原圭亮、太尾英子、別所央城、関根理予、大野啓介、片倉朗、柴原孝彦：解析ソフトを用いた光学機器による口腔粘膜蛍光観察. *日本口腔診断学会雑誌* 30(2):168-175, 2017

吉成正雄

1. 柴多浩一、吉谷正純、上林毅、川村良、吉成正雄：チタンへの超親水処理後の水中保存が骨芽細胞の動態に及ぼす影響. *日本口腔インプラント学会誌* 30(3):200-209, 2017. doi https://doi.org/10.11237/jsoi.30.200.
2. 三嶋直之、栗山壮一、柴垣博一、吉成正雄、早川徹：紫外線照射チタンの親水性の経時的変化が細胞接着タンパク質吸着に与える影響. *日本口腔インプラント学会誌*30(2): 86-93, 2017. doi https://doi.org/10.11237/jsoi.30.86

臨床論文および症例報告

分子・細胞グループ

推進委員会委員

新谷誠康

1. Tsujino K, Shintani S: International Partial Pulpotomy for Treatment of Immature Permanent Maxillary Incisor with Talon Cusp. ***Bull Tokyo Dent Coll***. 58: 247-253, 2017.
2. 辻野啓一郎、櫻井敦朗、荒井亮、大多和由美、佐藤秋絵、新谷誠康：上顎中切歯が双生歯および歯内歯を併発した Brachmann-de Lange 症候群の 1 例. *障害者歯科* 38:30-35, 2017.

研究分担者

柴原孝彦

1. Takeshi Onda, Kamichika Hayashi, Naoki Shiraishi, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara.: A Case of Verruciform Xanthoma with a Equivocal Exfoliative Cytological Diagnosis. ***Bull***

Tokyo Dent. Coll. 2018.in press.

2. Ogane S, Watanabe A, Takano N, Shibahara T: Case of Inverted Supernumerary Tooth in Nasal Cavity. ***Bull Tokyo Dent Coll.*** 2017;58:255-258. doi: 10.2209/tdcpublication.2016-0040.
3. Migita M, Shigematsu S, Ohata H, Shibahara T: Carcinoma of Maxillary Gingiva with Non-specific Cervical Lymph Node Swelling. ***Bull Tokyo Dent Coll.*** 2017;58:125-131. doi: 10.2209/tdcpublication.2016-1800.
4. 林宰央, 恩田健志, 柴野正康, 大金覚, 小澤夏生, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦: 根尖病巣が咀嚼筋痛のトリガーとなった線維筋痛症の 1 例. 歯科学報 117:473-479, 2017
5. 林宰央, 恩田健志, 松本暢久, 藥師寺孝, 柴原孝彦: オーラルジスキネジアに伴う難治性潰瘍に対するオーラルアプライアンス治療の 1 例. 老年歯科医学 32:17-22, 2017

恩田健志

1. Takeshi Onda, Kamichika Hayashi, Naoki Shiraishi, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara. A Case of Verruciform Xanthoma with a Equivocal Exfoliative Cytological Diagnosis. ***Bulletin of Tokyo Dental College***.2018.in press.
2. 林宰央，恩田健志，柴野正康，大金覚，藥師寺孝，大畠仁，柴原孝彦: 多発性口腔粘膜腫瘤を伴った結節性硬化症の 1 例, 有病者歯科医療.26(5).367-372.2018.
3. 林宰央, 恩田健志, 柴野正康, 大金覚, 小澤夏生, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦: 根尖病巣が咀嚼筋痛のトリガーとなった線維筋痛症の 1 例, 歯科学報 117(6).473-479.2017.
4. 林宰央, 恩田健志, 松本暢久, 藥師寺孝, 柴原孝彦: オーラルジスキネジアに伴う難治性潰瘍に対するオーラルアプライアンス治療の 1 例, 老年歯科医学 32(1).17-22.2017.

末石研二

1. Nojima K, Onoda M, Nishii Y, Sueishi K.: Orthodontic Treatment for Bloch-Sulzberger Syndrome in Patient with Cleft Lip and Palate. Bull Tokyo Dent Coll. 58:259-267, 2017. doi: 10.2209/tdcpublication.2016-0051.
2. 諸星貴大, 末石研二：切歯歯根吸収を伴う上下顎犬歯埋伏症例の矯正治療.歯科学報 117：327-338、2017.
3. 大木章生, 西井康, 末石研二, 高木多加志, 山倉大紀:歯科矯正用アンカースクリューを用いた臼歯部喪失を伴う成人過蓋咬合症例. 歯科学報 117：231-242、2017.
4. 大塚亜理沙, 野嶋邦彦, 諸星華奈子, 西井康, 末石研二, 渡邊章, 成田真人, 高野伸夫, 石崎憲：SARPE を併用した成人唇顎口蓋裂症例の包括的歯科治療. 歯科学報 117：221-230、2017.
5. 有泉大, 末石研二, 山本雅絵, 高木多加志：多分割 Le Fort I 型骨切り術併用上下顎移動術を行った開咬 2 例の術後 5 年経過. 日本顎変形症学会雑誌 27：34-46、2017.

感染制御ラボ
推進委員会委員
齋藤　淳

1. Egawa M, Inagaki S, Tomita S, Saito A: Connective tissue graft for gingival recession in mandibular incisor area: a case report. ***Bull Tokyo Dent Coll*** 58:155-162, 2017.
2. Suzuki E, Aoki H, Tomita S, Saito A. Improvement in oral health-related quality of life by periodontal treatment: a case report on elderly patient with chronic periodontitis. ***Bull Tokyo Dent Coll*** 58:163-170, 2017.
3. Tomita S, Uekusa T, Hosono M, Kigure T, Sugito H, Saito A: Periodontist-dental hygienist collaboration in periodontal care for chronic periodontitis: an 11-year case report. ***Bull Tokyo Dent Coll*** 58:177-186, 2017.

4. Makino-Oi A, Ishii Y, Makino K, Kondo A, Uekusa T, Ishizuka Y, Tomita S, Saito A: Treatment of severe chronic periodontitis with surgical and prosthetic intervention; A 9-year follow-up case report. ***Bull Tokyo Dent Coll*** 58:237-246, 2017.

ファブラボ
推進委員会委員
片倉朗

1. Keisuke Sugahara, Kazuhiro Ito, Yoshiharu Katsumi, Masayuki Takano, Chikara Saito, Akira Katakura: A Case of Mandibular Malunited Fracture Treated Using Iliac Particulate Cancellous Bone and Mallow Graft.*日本口腔診断学会雑誌* 30:65-71, 2017
2. 西山明宏、菅原圭亮、星野照秀、見明康雄、片倉朗：7本の過剰歯を有した1例. *日本口腔診断学会雑誌* 30(3):307-310, 2017

阿部伸一

1. 下尾嘉昭、阿部伸一、櫻庭実、渡辺多恵、中山一久、上杉崇史、蛭田賢：上顎切除後の血管柄付き腓骨皮弁に骨移植を追加してガイデッドサージェリーにてインプラント治療を行った1例. *日本口腔インプラント学会誌*, 30:210-216, 2017.

研究分担者
菅原圭亮

1. 菅原圭亮、伊藤和宏、勝見吉晴、高野正行、齊藤力、片倉朗: 腸骨 PCBM 移植術を併用し再手術を行った下顎骨変治骨折の 1 例, 日本口腔診断学会雑誌　第 30 巻　第 1 号　65-71　　2017 年

中島一憲

1. Nakajima K, Takeda T, Nishino M, Matsuda Y, Saito M, Suzuki Y, Kawano Y, Katano K: Effect of Mouthguard on Concussion Reduction or Privention. ***Int J Sport Dent*** 10:47-49, 2017.

澁井武夫

1. 髙野伸夫、齋藤寛一、大金覚、林宰央、恩田健志、渡邊章、成田真人、澁井武夫、藥師寺孝 : 顎骨の腫瘍性疾患 歯原性腫瘍 1. 良性上皮性歯原性腫瘍（エナメル上皮腫）小児歯科臨床 22（8）63-65、2017
2. 髙野伸夫、齋藤寛一、大金覚、林宰央、恩田健志、渡邊章、成田真人、澁井武夫、藥師寺孝：顎骨の腫瘍性疾患 歯原性腫瘍 2. 良性上皮性間葉混合性歯原性腫瘍と良性間葉制歯原性腫瘍（セメント質骨形成線維腫）、小児歯科臨床 22（9）62-64、2017
3. 澁井武夫：顎変形症手術における下顎頭のポジショニング、臨床矯正ジャーナル 33（10）67-75、2017

総説及び解説論文

分子・細胞グループ
新谷誠康

1. 新谷誠康：低ホスファターゼ症－歯科医師が鍵を握る骨系統疾患. 日本一般臨床医矯正研究会, 28：47-54, 2017.
2. 本間宏実、新谷誠康：Question44 保護者による仕上げ磨きは何歳まで行えばよいでしょうか？. 歯界展望別冊 臨床のヒント Q&A, 141-143, 2017.
3. 新谷誠康：Question45 感染根管乳歯について、抜去すべきか保存可能かを決める際の要点について教えてください. 歯界展望別冊 臨床のヒント Q&A, 144-146, 2017.
4. 辻野啓一郎、新谷誠康：Question46 シーラントはどのようなタイミングで進めるべきでしょうか？. 歯界展望別冊 臨床のヒント Q&A, 147-149, 2017.

5. 桜井敦朗、新谷誠康：Question47 治療を嫌がる子どもには、どのように対応すればよいのでしょうか？. 歯界展望別冊 臨床のヒント Q&A, 150-152, 2017.
6. 新谷誠康 : 乳歯の異常 : 1 歳になったのですが、歯が生えてきません. 小児外科, 49 : 14-16, 2017.

笠原正貴

1. 笠原正貴：漢方を知る. 日本歯科医師会雑誌, 69:1143-1151, 2017.

研究分担者

柴原孝彦

1. 恩田健志, 柴原孝彦: 特集　頭頸部腫瘍　　3.歯原性腫瘍の臨床. 病理と臨床 36.312-317.2018
2. 森川貴迪, 柴原孝彦: 薬剤関連顎骨壊死の現状. 日本歯科評論 77:111-118. 2017
3. 中谷泰志, 柴原孝彦, 川口浩司: 一般社団法人口腔がん撲滅委員会. 【小さな気づきが人生を変える　口腔がんから患者さんを守れ!】 なぜ、口腔がんを早期発見できないと深刻なのか. 歯科衛生士 41:48-49, 2017
4. 中谷泰志, 柴原孝彦, 川口浩司: 一般社団法人口腔がん撲滅委員会. 【小さな気づきが人生を変える　口腔がんから患者さんを守れ!】 放置された口腔内の問題もがんの要因に. 歯科衛生士 41:50-51, 2017
5. 中谷泰志, 柴原孝彦: 一般社団法人口腔がん撲滅委員会. 【小さな気づきが人生を変える　口腔がんから患者さんを守れ!】 データで比べてわかる日本は"口腔がん後進国"!? 歯科衛生士 41:44-47, 2017
6. 柴原孝彦: 臨床のヒント Q&A　口腔外科系　智歯抜去は、どのようなときに専門機関へ送るべきでしょうか(Q&A). 歯科学報 117:132-135, 2017
7. 柴原孝彦: 【頭頸部癌学-診断と治療の最新研究動向-】 頭頸部癌の検査・診断　口腔癌検診の現状　早期発見の試み. 日本臨床 75 巻増刊 2 頭頸部癌学 282-286, 2017
8. 柴原孝彦: 【臨床のヒント Q&A】 (Question 58)智歯抜去は、どのようなときに専門機関へ送るべきでしょうか?(Q&A/特集). 歯界展望 別冊臨床のヒント Q&A 188-191, 2017

感染制御ラボ

推進委員会委員

石原和幸

1. Ishihara K. : New approach for studying mobile genes using metagenomic analysis. Oral Dis 24: 494-496, 2017. doi: 10.1111/odi.12640.
2. 石原和幸：*Treponema denticola* の病原性因子. 日歯周誌.（in press）

齋藤　淳

1. Tomita S, Saito A: Periodontal abscess: a review and the role of antimicrobial therapy. ***Curr Oral Health Rep*** 4:294-300, 2017.
2. 齋藤淳：糖尿病と歯周病. 成人病と生活習慣病, 47(4):525-530, 2017.
3. 富田幸代, 齋藤淳 : 歯周外科治療を行う前に～もう一度歯周基本治療を見直す～. 日本歯科医師会雑誌, 70, 366-375, 2017.

研究分担者

桜井敦朗

1. 桜井敦朗、新谷誠康: 治療を嫌がる子どもには、どのように対応すればよいのでしょうか？, 歯界展望 別冊臨床のヒント Q&A 150-152, 2017.
2. 櫻井敦朗、新谷誠康: 日本のむし歯予防の現状と問題点, 教育と医学 65(6): 526-533, 2017.

菊池有一郎

1. 菊池有一郎 : ECF シグマ因子を介する *P. gingivalis* の歯周病原性制御機構、細胞、49、555-558、ニュー・サイエンス社 2017

ファブラボ
推進委員会委員
後藤多津子

1. 後藤多津子:うま味による脳賦活:ヒトfunctional MRI による研究. 日本味と匂学会誌, Vol.24 No.2 PP.77-80 2017 年8月.
2. 後藤多津子 : 歯科用コーンビーム CT 画像の撮影と読影診断のポイント. 東京都歯科医師会雑誌, 2017 年 8 月号 p365−371.
3. 山口朗、東俊文、石原和幸、片倉朗、後藤多津子、齊藤淳、澁川義幸、新谷誠康、松永智、村松敬、吉成正雄：基調講演：顎骨疾患プロジェクトの現状と今後の展望. 歯科学報 117（4）p271−279, 2017 年 8 月号.
4. 後藤多津子：【歯内療法領域の画像診断-歯科用 CBCT の適切な運用と解剖学・病理学的知識を整理する】画像診断のいま－口内法エックス線画像と歯科用コーンビーム CT－. 日本歯科評論 vol. 77, 通巻 893 号, p30-36, 2017 年 3 月号.
5. 後藤多津子：Dental FabLab による治療効果の 3 次元的シミュレーションを活用した治療方針の決定と包括的な口腔機能の回復(新規プロジェクト解説), 歯科学報 116 巻 4 号 P265-267.
6. 片倉朗 : 特集 がん患者さんと歯科衛生士 これだけは知っておきたい がんの基礎知識. デンタルハイジーン 37:260-261, 2017.

片倉　朗

1. 山口朗, 東俊文, 石原和幸, 片倉朗, 後藤多津子, 齋藤淳, 澁川義幸, 新谷誠康, 松永智, 村松敬, 吉成正雄：平成 28 年度 東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ 基調講演 顎骨疾患プロジェクトの現状と今後の展望. 歯科学報 117(4) 271-279, 2017.
2. 片倉朗（著）:「骨活」しましょう. 月間糖尿病ライフさかえ 57(7): 22, 2017, 公益社団法人日本糖尿病学会, 2017.
3. 片倉朗（執筆）: 老年歯科医学の教育の充実 Enhance Education for Gerodontology. 老年歯科医学 32(2): 63, 2017, 巻頭言 一般社団法人日本老年歯科医学会, 東京, 2017.

吉成正雄

1. 吉成正雄：中性フッ化物の応用がインプラント周囲炎を増悪させる可能性. 日口腔インプラント誌 2017; 30(3):182-190. DOI https://doi.org/10.11237/jsoi.30.182.
2. 吉成正雄：材料学からみたインプラント治療の未来予測. 日口腔インプラント誌. 2017; 30(2): 47-56, DOI https://doi.org/10.11237/jsoi.30.47.

阿部伸一

1. 阿部伸一：嚥下にかかわる解剖と X 線像. ***CLINICAL REHABILITATION***, 27:2-5, 2018.
2. Chang WJ, Abe S, Kamakura S, Huang RY, Chen JW.: Bioengineering materials in dental application. ***BioMed Res Int***, 2017. (on line) ,doi.org/10.1155/2017/2135036
3. Abe S.: Oral Anatomy, ***Clin Calcium***, 27:1351-1356, 2017.

単行図書

推進委員会委員
山口　朗

1. 山口朗、栢森高 : 病理組織診断. 最新口腔外科学, 67-70, 医歯薬出版株式会社2017（共著）

分子・細胞グループ
推進委員会委員
新谷誠康

1. 新谷誠康（分担執筆）: 小児歯科学 第5版、第6編 心身障害児及び全身疾患児への歯科的対応，19章 歯科治療上注意すべき小児の全身疾患，．先天性疾患，1.遺伝子異常，⑴先天性外胚葉異形成症，⑵骨形成不全症，⑶鎖骨頭蓋骨異形成症（鎖骨頭蓋異骨症），⑷先天性表皮水泡症，⑸筋ジストロフィー症. 医歯薬出版株式会社, 389-396, 2017.

笠原正貴

1. 笠原正貴：13章 全身麻酔薬. 現代歯科薬理学第6版, 127-133, 医歯薬出版株式会社2018（共著）
2. 笠原正貴：22章 救急用薬物. 現代歯科薬理学第6版, 241-245, 医歯薬出版株式会社2018（共著）
3. 笠原正貴：35章 歯科における漢方薬. 現代歯科薬理学第6版, 394-397, 医歯薬出版株式会社2018（共著）

研究分担者
柴原孝彦

1. Takeshi Onda, Kamichika Hayashi, Shoichi Sekikawa, Yukio Watabe, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara: Odors of Oral Cancer Cells: Potential Use in Oral Cancer Diagnosis. (共著) ***Oral science in Japan*** 2017.13-14.2018.
2. Kamichika Hayashi, Takeshi Onda, Satoru Ogane, Masayasu Shibano, Takashi Kamio, Hitoshi Ohata, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara: A Case Report: Oral Appliance Therapy for a Severe Ulcerative Stomatitis of the Oral Dyskinesia Patient. (共著) ***Oral science in Japan*** 2017.55-56.2018.
3. Kamichika Hayashi, Takeshi Onda, Satoru Ogane, Masayasu Shibano, Takashi Kamio, Hitoshi Ohata, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara: A Case of Mandibular Osteomyelitis in an Elderly Person during Tocilizumab Treatment. (共著) ***Oral science in Japan*** 2017.51-52.2018.
4. Kamichika Hayashi, Takeshi Onda, Satoru Ogane, Masayasu Shibano, Takashi Kamio, Hitoshi Ohata, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara: A Case of Cheilitis Granulomatosa Suspected of Dentntal Focal Infection. (共著) ***Oral science in Japan*** 2017.53-53.2018.

恩田健志

1. Takeshi Onda, Kamichika Hayashi, Shoichi Sekikawa, Yukio Watabe, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara: Odors of Oral Cancer Cells: Potential Use in Oral Cancer Diagnosis.(共著), ***Oral science in Japan 2017***.13-14.2018.
2. Kamichika Hayashi, Takeshi Onda, Satoru Ogane, Masayasu Shibano, Takashi Kamio, Hitoshi Ohata, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara.: A Case Report: Oral Appliance Therapy for a Severe Ulcerative Stomatitis of the Oral Dyskinesia Patient.(共著) ,***Oral science in Japan 2017***.55-56.2018.
3. Kamichika Hayashi, Takeshi Onda, Satoru Ogane, Masayasu Shibano, Takashi Kamio, Hitoshi Ohata, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara.: A Case of Mandibular Osteomyelitis in an Elderly Person during Tocilizumab Treatment.(共著) ,***Oral science in Japan 2017***.51-52.2018.
4. Kamichika Hayashi, Takeshi Onda, Satoru Ogane, Masayasu Shibano, Takashi Kamio,

Hitoshi Ohata, Nobuo Takano, Takahiko Shibahara.: A Case of Cheilitis Granulomatosa Suspected of Dentntal Focal Infection.(共著), ***Oral science in Japan 2017***.53-53.2018.

感染制御ラボ
推進委員会委員
石原和幸

1. 奥田克爾, 石原和幸: *Porphyromonas, Prevotella, Aggregatibacter, Treponema denticol*a. 病原細菌・ウイルス図鑑, 新居志郎, 倉田毅, 林英生, 本田武司, 小田紘, 松本明編. 268-271, 437-40, 452-454, 北海道出版会, 札幌, 2017（共著）

村松　敬

1. 古澤成博、村松敬：第五版 保存修復学21（田上純次、奈良陽一郎、山本一世、斎藤隆史 監修） 第7章 修復の前準備, 第14章 合着・接着. 永末書店京都市, 2017年3月

齋藤　淳

1. 齋藤淳（分担執筆）：「糖尿病と歯周病」. 糖尿病における multimorbidity（松岡健平 編）, 南山道, 東京, 2017, pp272-277.
2. 松久保隆, 齋藤淳, 松久保／櫻井美和（編著）：歯科医師・歯科衛生士のための超音波デブライドメント. 一世出版, 東京, 2017.
3. 齋藤淳（編集, 分担執筆）：「クラウンのマージンはどこに設定すればよいのでしょうか」（齋藤淳）,「歯周ポケットの深さによる臨床での対応について, わかりやすく教えてください」（齋藤淳）,「歯周病患者への咬合調整について教えてください」（衣松高志, 齋藤淳）,「ビスフォスフォネート系薬剤を服用している患者での SRP は, どのようにそればよいのでしょうか」（大井麻子, 齋藤淳）,「歯肉退縮に関する, 予後因子や補綴前の配慮について教えてください」（勢島典, 齋藤淳）,「トライセクション後のクラウンの形態に関して, 何に配慮し, 具体的にどのような形態にすればよいのでしょうか」（石井善仁, 齋藤淳）,「超音波スケーラーは導入すべきでしょうか。また, どのような場合に使用すべきでしょうか。」（大井麻子, 齋藤淳）,「歯周病による抜歯の基準は, どのような考えればよいのでしょうか」（勢島典, 齋藤淳）,「歯周ポケット内の細菌検査を行うことで, 治療方針は変わるのでしょうか」（喜田大智, 齋藤淳）. 臨床のヒント Q & A（東京歯科大学歯科学報編集部編）, 医歯薬出版, 東京, 2017, p37-40, 105-108, 109-113, 114-118, 122-124, 125-127, 128-130, 131-134.
4. 齋藤淳：「慢性歯周炎」,「侵襲性歯周炎」,「歯周膿瘍」. 1336 専門家による私の治療 2017-18 年度版（猿田享男, 北村惣一郎　監修）, 日本医事新報社, 東京, 2017, p1431-1434.
5. 齋藤淳（編著）：新やさしい説明, 上手な治療. 細菌から体を守るプラークコントロール. 永末書店, 京都, 2017.

ファブラボ
推進委員会委員
後藤多津子

1. 後藤多津子（共同執筆）：新歯科放射線学 第 2 版. 医学情報社, 2017 年 3 月 30 日
2. 後藤多津子（共同執筆）：歯科放射線 第6版. 医歯薬出版株式会社, 2018年.

片倉　朗

1. 片倉朗（著分担), 柴原孝彦（監修）: かかりつけ歯科医からはじめる口腔がん検診 Step1・2・3（韓国語版）. 医歯薬出版, 東京, 2017.
2. 片倉朗（著分担), 夏目長門, 池上由美子（編集代表）: 治療を支える がん患者の口腔ケア. 医学書院出版, 東京, 2017.

3. 片倉朗（著分担），下野正基，山根源之（監修）: 新編 口腔外科病理診断アトラス. 医歯薬出版株式会社，東京, 2017.
4. 片倉朗（執筆者）: すぐひける、現場で役立つ歯科衛生士のためのポケット版最新歯科用語辞典. クインテッセンス出版株式会社第 1 版 2016 年，文京区, 2017.
5. 片倉朗（著分担），猿田享男，北村惣一郎（監修）: 1336 専門家による私の治療 2017-18 年度版 口腔乾燥症，口臭症，口唇裂・口蓋裂. 日本医事新報社，東京, 2017.
6. 片倉朗，菅原圭亮（執筆者）: 多職種連携で活用！ポケット版歯科衛生士のための医療用語・福祉用語. 医歯薬出版株式会社，東京, 2017.
7. 片倉朗（著分担），中川洋一（編著者）: 5 分で読める！知りたい全身疾患 29 Topic 迫りくる超高齢者の急増. 株式会社デンタルダイヤモンド社，東京, 2017.
8. 片倉朗（著分担）: 歯界展望別冊 臨床のヒント Q&A, Question 59, Question 60. 医歯薬出版株式会社，東京, 2017.
9. 片倉朗（委員）: 歯科診療における HIV HBV HCV 感染予防対策 Q&A. 公益社団法人日本歯科医師会 HIV 感染予防対策 Q&A 改定作業委員会, 2017.
10. 片倉朗，菅原圭亮（著）: どこをみる？なにがわかる？口腔粘膜疾患識別ガイド［実践編］. The Journal of Dental Hygienist 41(4): 46-56, 2017，クインテッセンス出版株式会社，東京, 2017.
11. 片倉朗，菅原圭亮（著）: どこをみる？なにがわかる？口腔粘膜疾患識別ガイド［知識編］. The Journal of Dental Hygienist 41(6): 29-40, 2017，クインテッセンス出版株式会社，東京, 2017.

吉成正雄

1. 吉成正雄（単著）: インプラント材料 Q&A 臨床の疑問に答える－マテリアル編. 医歯薬出版株式会社 2017.
2. 吉成正雄（単著）: インプラント材料Q&A 臨床の疑問に答える－クリニカル編. 医歯薬出版株式会社2017.

阿部伸一

1. 阿部伸一，山本将仁（共著）: 歯・顎骨の発生 知っておきたい顎・歯・口腔の画像診断. 14-17，秀潤社，東京, 2017.
2. 阿部伸一（共著）: 嚥下器官－嚥下運動関連の解剖学－. 新よくわかる顎口腔機能. 14-17，医歯薬出版株式会社，東京, 2017.
3. 松永智、阿部伸一、井出吉信（分担執筆）: 口腔インプラント学 第3版. 31-64，医歯薬出版株式会社, 2017.

招待講演・シンポジウム

推進委員会委員

山口　朗

1. 東俊文、小野寺晶子、齋藤暁子、中村貴、大庭伸介、小崎健次郎、山口朗、柴原孝彦 : iPS 細胞を用いた顎骨疾患病態解明へのアプローチ. 第59回歯科基礎医学会総会学術大会アップデートシンポジウム, 2017年9月16日，松本歯科大学
2. 山口朗 : PTHの骨形成促進作用における基礎研究の展開. 第7回骨・軟骨フロンティア, 2017年11月11日，ベルサール八重洲（東京駅八重洲口）

分子・細胞グループ

推進委員会委員

東　俊文

1. 東俊文、小野寺晶子、齋藤暁子、中村貴、大庭伸介、小崎健次郎、山口朗、柴原孝彦 : iPS 細胞を用いた顎骨疾患病態解明へのアプローチ. 第59回歯科基礎医学会総会

学術大会アップデートシンポジウム, 2017年9月16日, 松本歯科大学

新谷誠康

1. 新谷誠康 : 低ホスファターゼ症－歯科医が関わる骨系統疾患－. 講演, 東京都板橋区歯科医師会講演会, 2018 年 2 月 14 日, 東京
2. 新谷誠康 : 小児歯科の知識、アップデートしていますか？. 講演, 沖縄県歯科医師会, 平成 29 年度歯科医療従事者技術向上支援研修会, 2018 年 1 月 21 日, 那覇
3. 新谷誠康 : 歯科からみた低ホスファターゼ症－小児科と小児歯科の連携のために－. シンポジウム, 第 2 回千葉県小児臨床カンファレンス 低ホスファターゼ症シンポジウム, 2018 年 1 月 14 日, 千葉
4. 新谷誠康 : 齲蝕と間違えやすいエナメル質形成不全. 教育講演, 第 35 回日本小児歯科学会九州地方会, 2017 年 11 月 19 日, 佐賀
5. 新谷誠康 : 小児の歯科診療－大学で習ったこと、習わなかったこと－. 講演, 第 70 回栃木県歯科医学会, 2017 年 11 月 3 日, 宇都宮
6. 新谷誠康 : 歯の形成不全 MIH を知っていますか？. 講演, 第 12 回千葉県学校歯科保健研究大会, 2017 年 11 月 2 日, 千葉
7. 新谷誠康 : 若手歯科医師に伝えたい小児歯科治療の考え方. 第 4 回若手支援セミナー. 講演, 日本大学歯学部同窓会・東京歯科大学同窓会, 2017 年 10 月 22 日, 東京
8. 新谷誠康 : もう一度確認したい小児歯科 2－乳歯の歯内療法から保隙、咬合誘導まで－. 講演, 東京都杉並区学校歯科医会講演会, 2017 年 10 月 16 日, 東京
9. 新谷誠康 : 低ホスファターゼ症－歯科医師が鍵を握る骨系統疾患－. 講演, 平成 29 年度日本一般臨床医矯正研究会例会, 2017 年 9 月 10 日, 東京
10. 新谷誠康 : 歯の形成不全 : 知っておきたいこと、やっておきたいこと シンポジウム 3「かかりつけ小児歯科医が伝えたい歯科のトピックス」. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017 年 7 月 1 日, 大阪
11. 新谷誠康 : 安心確実な小児歯科臨床－齲蝕に関連した治療について－「小児歯科を極める」. 講演, 第 35 回日本顎咬合学会, 2017 年 6 月 11 日, 東京
12. 新谷誠康 : 5 歳児の歯科健診－見逃しては行けないこと、見て見ぬ振りをしても許されること. 講演, 東京都中野区歯科医師会学術講演会, 2017 年 4 月 25 日, 東京
13. 新谷誠康 : 歯科医師が関わる骨系統疾患～低ホスファターゼ症を中心に. 講演, 千葉県小児歯科医会学術講演会, 2017年4月9日, 千葉
14. 笠原正貴 : 特別講演・薬理学講座の今後の展開. 第303回東京歯科大学学会・例会, 2017年6月3日, 東京歯科大学

研究分担者

柴原孝彦

1. 柴原孝彦: 薬剤関連顎骨壊死についての最新ポジションペーパー(会議録)、核医学 54 巻 Suppl. Page S159
2. 柴原孝彦: 口腔インプラント治療の光と影　最近の偶発症、特に下歯槽神経損傷の実態. 日本口腔インプラント学会学術大会抄録集 47 回 Page np9
3. 柴原孝彦: 顎骨壊死ポジションペーパー2016　インプラント埋入の是非を考える、日本口腔インプラント学会誌 (0914-6695)30 巻 3 号 Page E133-E134
4. 柴原孝彦: 見逃してはならない!　口腔がん. 日本顎咬合学会誌: 咬み合わせの科学 (1346-8111)37 巻特別号 Page44
5. 柴原孝彦: 他科領域のマイクロサージェリーに学ぶ 歯科・口腔外科医の立場から、日本眼科学会雑誌 (0029-0203)121 巻臨増 Page60

石井武展

1. 石井武展: The 9th Technical Seminar for Maxillofacial Studies. 2018 年 3 月 17 日-18 日、Wink Aichi.

2. 石井武展: Class II 症例に対する診断と治療 : Class II 症例に対する術後後戻りへのメネージメント. 第 3 回冬期口腔外科臨床研究会. 2018 年 2 月 15 日-17 日、ホテルルーセントタカミヤ、山形
3. 石井武展: 第 33 回口唇口蓋裂チームアプローチ研究会 : 口蓋形成術(Perko 法)の実際、2018 年 1 月 17 日、慶應義塾大学病院

感染制御ラボ
推進委員会委員
石原和幸

1. 石原和幸 : 口腔フローラと全身疾患との関わり 口腔細菌とアテローム性動脈硬化症. 第19回日本臨床腸内微生物学会, 2017年8月27日, 東京都

齋藤　淳

1. Saito A.: Forum: Advances in Dental Aesthetic. 1st IIUM International Dental Conference, Oct. 7, 2017, Kuantan, Malaysia, Program p.7.
2. Saito A.: Periodontal regeneration: current approach and prospects of novel biological treatment. 1st IIUM International Dental Conference, Oct. 8, 2017, Kuantan, Malaysia, Program p.8.

澁川義幸

1. 澁川義幸 : なぜ歯が痛くなるのかー痛みのメカニズム、健康は口から歯から嚥下からー. 特定非営利活動法人 日本歯科保存学会 無料公開講座, 2017 年 10 月 28 日, 東京都.
2. 澁川義幸 : 口腔と TRP チャネル. 岩手医科大学歯学研究科特別セミナー, 2017 年 7 月 18 日, 盛岡市.
3. 澁川義幸 : 象牙質／歯髄複合体に生じる歯痛の分子細胞基盤 : 最新の知見から. 2017 年度 日本歯内療法学会 研修会, 2017 年 3 月 19 日, 千葉市.
4. 澁川義幸 : 味覚と美味しさの科学. 杉並区 学校歯科講演会, 2017 年 3 月 10 日, 杉並区.
5. 澁川義幸 : 加齢現象からみた臨床口腔生理 : 老年医歯科学を理解する高齢者の生理機能変化. 平成 28 年度 群馬県地域医療介護総合確保基金事業 講演会, 2017 年 1 月 29 日, 前橋市.
6. 澁川義幸 : 食育における味覚の基礎. 板橋区 学校歯科講演会, 2017 年 2 月 23 日, 板橋区.
7. 澁川義幸 : 加齢現象からみた臨床口腔生理 : 老年医歯科学を理解する高齢者の生理機能変化. 平成 28 年度 群馬県地域医療介護総合確保基金事業 講演会, 2017 年 1 月 29 日, 前橋市.

ファブラボ
推進委員会委員
後藤多津子

1. 山口朗、東俊文、石原和幸、後藤多津子 :「私立大学研究ブランディング事業」. 2018.1.29, 東京。
2. 後藤多津子 : ヒトのうま味認知における脳機能ネットワークの全脳解析－functional MRI study－. うま味研究助成成果発表会, 2018.1.19, 東京.
3. 後藤多津子 : 「世界をめざす日本人歯科医師に伝えたい秘訣」. 九州大学歯学研究院大学院特別講義「細胞生物学特論」, 2017.12.22, 福岡.
4. 後藤多津子 :「日本の歯学を世界一にするために」. 九州大学歯学部創立 50 周年記念シンポジウム, 世界で活躍する同窓生, 2017.11.3, 福岡.

5. 後藤多津子：高解像 3D MRI を用いた非侵襲的で規格的な顎変形症の形態と機能診断：下顎側方偏位症例について．第 76 回日本矯正歯科学会学術大会 サテライトセミナー, 2017.10.18, 札幌.
6. 後藤多津子：歯科用コーンビーム CT 有効活用のポイント．東京都歯科医師会, 2017.9.3, 東京.
7. 後藤多津子:「脳機能解析によるグルタチオンの基本味増強の検証」．コク研究会 公開シンポジウム, 2017.8.25, 東京.
8. 後藤多津子：4D画像で体内を診る－アゴ、顔、脳機能－．入試ガイダンス・オープンキャンパス模擬講義, 2017.8.6, 東京.
9. 後藤多津子：歯内療法における歯科用コーンビームCTの活用．日本歯内療法学術大会シンポジウム（日韓合同）, 7.22-23.2017, 東京.
10. 後藤多津子：おいしさの脳内認知機構．東京医科歯科大学咬合機能矯正学分野, 7.19.2017. 東京.
11. 後藤多津子:3DMRIで下顎側方偏位症例の形態と機能を診る．日本顎変形症学会, 教育講演, 2017.6.15-16, 東京.
12. 後藤多津子:「うま味と脳：うま味が脳を育てる」「うま味による脳賦活：ヒトfMRIによる研究」．うま味研究会 公開シンポジウム, 2017年6月9日, 東京.
13. Emmanuelle Courtiol, Alfred Fontanini, Jon H. Kaas, Roberto Vincis, Tazuko K. Goto, Donald A. Wilson.: 'Chemosensory thalamus' .
14. Tazuko K. Goto,: Connectivity between insular cortex and thalamus in humans and taste intensity. April 25-29, 2017, AChemS, FL, USA.
15. 後藤多津子：東京歯科大学女性活躍推進委員会 特別講演, 2017.6.6, 東京.
16. 後藤多津子：デンタル&パノラマで診た病変のCT画像のあれこれ．東歯浅草歯科医師会, 2017.5.23, 東京.
17. 後藤多津子：東京歯科大学口科研センターワークショップ. 2017.2.21, 東京.
18. 後藤多津子：九州大学歯学研究院大学院特別講義「細胞生物学特論」「日本人歯科医師がグローバルに活躍するための3つの秘訣」. 2017.1.13, 福岡.

吉成正雄

1. 吉成正雄：アバットメント／上部構造と軟組織の関係を紐解く．デンタルコンセプト 21, 2017 年 6 月 18 日, 東京.
2. 吉成正雄：歯科材料とフッ化物応用（シンポジウム2：フッ化物応用に対する新しい認識）．第66回日本口腔衛生学会総会, 2017年6月1日, 山形市.

阿部伸一

1. 阿部伸一：幼児・学童期から高齢者に至る“咀嚼・嚥下機能の獲得と衰え”－サルコペニアとオーラルフレイルを考える－．東京慈恵会医科大学 NST（栄養サポート）セミナー, 2017 年 1 月 27 日, 東京慈恵会医科大学大学 1 号館 5 階講堂, 港区.
2. 阿部伸一:摂食嚥下に関する口腔解剖学．口腔医科学会学術講演会, 2017年10月15日, 東京大学鉄門講堂, 文京区.

研究分担者

笠原正彰

1. 笠原正彰：ヒト顎骨におけるナノ構造特性研究、第 626 回理工懇談会、2017 年 12 月 15 日、ホテルグランドヒル市ヶ谷
2. 笠原正彰：ヒト顎骨におけるナノ構造特性研究、日本歯科理工学会関東地方会夏期セミナー、2017 年 8 月 9 日、湘南国際村 IPC 生産性国際交流センター

学会発表（一般講演）

推進委員会委員
山口　朗

1. 森田純晴、松永智、森石武史、阿部伸一、山口朗：アフリカツメガエル長管骨の造血は骨芽細胞性ニッチ優位に維持されている．第 37 回日本骨形態計測学会，2017 年 6 月 23 日，大阪国際会議場
2. 松永智、是澤和人、小高研人、吉成正雄、飯村忠浩、山口朗、中野貴由、阿部伸一：ヒト歯科インプラント周囲顎骨における構造特性．第 37 回日本骨形態計測学会，2017 年 6 月 24 日，大阪国際会議場
3. 李智媛、上原俊介、小林泰浩、山口朗、今井祐記、飯村忠浩：HIV 治療標的分子 CCR5 の破骨細胞機能分化における必須の機能－CCR5 を標的とした HIV 治療は骨吸収性疾患に対してもメリットをもたらす可能性がある．第 35 回日本骨代謝学会学術集会，2017 年 7 月 28 日，ホテル日航福岡

分子・細胞グループ
推進委員会委員
東　俊文

1. 久永幸乃，　鈴木瑛一，青木栄人，佐藤正敬，東俊文，齋藤淳：エナメルマトリックスタンパク質とアテロコラーゲンスポンジの併用がマウスiPS細胞の分化に及ぼす影響．第60回春季日本歯周病学会学術大会, 5月12日，福岡市
2. 木村基善，新谷誠康，東俊文：Wnt/β-catenin経路活性化による歯胚由来象牙芽細胞前駆細胞のDMP1発現上昇メカニズムの解明．第55回日本小児歯科学会, 5月25日，北九州市
3. 中村貴，久保亜紀子，本田紗綾子，山本陽子，東俊文，末松誠：シスタチオニンβ合成酵素はVDRと細胞種特異的に複合体を形成することで標的遺伝子の発現を制御する．第35回日本骨代謝学会学術集会, 2017年7月29日，福岡市
4. 小野寺晶子，東俊文，齋藤暁子，長谷川大悟，片倉朗，野村武史，小崎健次郎，鄭雄一，大庭伸介：Gorlin症候群患者由来iPS細胞の骨芽細胞分化能の異常とその分子メカニズム．第35回日本骨代謝学会学術集会, 2017年7月27日，福岡市
5. 齋藤暁子，大木章生，中村貴，小野寺晶子，篠宏美，長谷川大悟，小崎健次郎，恩田健志，渡邊 章，柴原孝彦，末石研二，東俊文：鎖骨頭蓋骨異形成症患者由来iPS細胞の解析と骨組織分化との関連の検討．第35回日本骨代謝学会学術集会，2017年7月27日，福岡市
6. Hisanaga Y, Suzuki E, Aoki H, Sato M, Saito A, Saito A, Azuma T: In vitro effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on differentiation of mouse induced pluripotent stem cells. American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September, Boston
7. 荻原有記，小田嶋彩乃，星野立樹，小野寺晶子，齋藤暁子，一戸達也，東俊文：Effects of FGF8 and KSR on odontoblast differentiation of mouse iPS cells．第59回歯科基礎医学会学術大会, 2017年9月16日，塩尻市
8. 木村基善，新谷誠康，東俊文：WntシグナルとFGF8による歯原性間葉系細胞の象牙芽細胞分化における役割．第59回歯科基礎医学会学術大会, 2017年9月16日，塩尻市
9. 森田奈那，長谷川大悟，浮地賢一郎，高橋愼一，東俊文，野村武史：Gorlin症候群患者由来iPS細胞の上皮分化誘導．第62回日本口腔外科学会, 2017年10月20日，京都市
10. Morita N, Onodera S, Hasegawa D, Watanabe K, Ogura H, Nomura T, Azuma T: Epidermal differentiation from Gorlin Syndrome- induced pluripotent stem cells. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November, Tokyo
11. Watanabe K, Morita N, Ogura H, Onodera S, Yamaguchi A, Shibahara T, Azuma T:

Establishment of iPS cells of McCune-Albright syndrome model using CRISPR / CAS 9. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November, Tokyo

12. Ogura H, Ishii T, Morita N, Watanabe K, Onodera S, Sueishi K, Azuma T: Investigation of Apert syndrome with disease-specific iPS cells. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November 18th, Tokyo

新谷誠康

1. 大多和由美、吉田みずき、辻野啓一郎、櫻井敦朗、福田謙一、新谷誠康、池田正一：障がい者の日帰り全身麻酔下歯科治療に関するアンケート. 第 34 回日本障害者歯科学会, 2017 年 10 月 28 日, 福岡
2. 久保周平、野俣裕、音琴三郎、小川冬樹、難波哲夫、松本桂、西川貴美江、新谷誠康：当障害者歯科診療所における鋳造歯冠修復物の生存率について. 第 34 回日本障害者歯科学会, 2017 年 10 月 28 日, 福岡
3. 布施亜由美、鈴木奈穂、福島圭子、倉持真理子、小田嶋彩乃、萩原綾乃、平田淳司、征矢学、五味暁憲、大串圭太、黒田真右、辻野啓一郎、新谷誠康：静脈内鎮静法施行中に管理困難となった 7 例の検討. 第 34 回日本障害者歯科学会, 2017 年 10 月 28 日, 福岡
4. 布施亜由美、鈴木奈穂、福島圭子、武者篤、大串圭太、辻野啓一郎、新谷誠康：口腔内管理および口腔ケア指導により口腔粘膜炎の重篤化を防ぐことができたエベロリムス服用患者の 1 例. 第 34 回日本障害者歯科学会, 2017 年 10 月 28 日, 福岡
5. 辻野啓一郎、五味暁憲、大串圭太、征矢学、鈴木奈穂、布施亜由美、福島圭子、新谷誠康：埋伏した双生歯小臼歯に対し外科的挺出を行った自閉スペクトラム症の 1 例. 第 34 回日本障害者歯科学会, 2017 年 10 月 28 日, 福岡
6. 大串圭太、征矢学、黒田英孝、倉持真理子、鈴木奈穂、布施亜由美、福島圭子、黒田真右、辻野啓一郎、新谷誠康、一戸達也：当地域口腔保健センターでの日帰り全身麻酔システムの構築. 第 34 回日本障害者歯科学会, 2017 年 10 月 29 日, 福岡
7. 五味暁憲、辻野啓一郎、大串圭太、鈴木奈穂、布施亜由美、福島圭子、武者篤、宮久保満之、倉持真理子、吉田みずき、新谷誠康、横尾聡：知的能力障害がある患者の歯根嚢胞に対し開窓術を施行し継続管理した 1 例. 第 34 回日本障害者歯科学会, 2017 年 10 月 29 日, 福岡
8. Yang L, Miura T, Tanabe K, Takemoto S, Yoshinari M, Kasahara M, Shintani S: An easy method to fabricate Atelocollagen/Gelatin sponge biomaterial with lyophilization technique., 第 15 回日本再生歯科医学会大会, 2017 年 10 月 21 日, 大阪
9. Arai T, Sakurai A, Homma H, Nagai N, Shintani S: The developmental process of oral microbiome in Japanese infants.z 10. The developmental process of oral microbiome in Japanese infants. 26th IAPD (International Association of Paediatric Dentistry), 2017 年 10 月 7 日, Santiago, Chile.
10. Takana A, Shibukawa Y, Ishikawa N, Kitamura K, Yamamoto H, Shintani S: The immunohistochemical studies on odontoblasts as sensory receptor during tooth development. 26th IAPD (International Association of Paediatric Dentistry), 2017 年 10 月 6 日, Santiago, Chile.
11. Kimura M, Azuma T, Shintani S: The function of Wnt signal pathway and FGF8 in differentiation of dental mesenchymal cells into odontoblast. 26th IAPD (International Association of Paediatric Dentistry), 2017 年 10 月 6 日, Santiago, Chile.
12. 荒井亮、太田大聖、秋元佐和子、辻野啓一郎、新谷誠康：上顎正中過剰埋伏歯の三次元的位置の検討. 第 32 回日本小児歯科学会関東地方会, 2017 年 10 月 1 日, 松戸
13. 木村基善、東俊文、新谷誠康：Wnt/β−catenin 経路と FGF8 共刺激による歯原性間葉系細胞による象牙芽細胞文化作用の検討. 第 59 回歯科基礎医学会, 2017 年 9 月 17 日,

松本

14. 大沢枝里、山本仁、新谷誠康、ラット臼歯における髄下葉を伴った根分岐部形成の免疫組織学的観察. 第 26 回硬組織再生生物学会, 2017 年 8 月 19 日, 岡山
15. 八若保孝、内川喜盛、香西克之、早崎治明、飯沼光生、清水武彦、佐藤昌史、藤原卓、新谷誠康、中村光一、高崎千尋、木本茂成：日本小児歯科学会主催 CBT 問題作成ワークショップの実施. 第 36 回日本歯科医学教育学会, 2017 年 7 月 29 日, 松本
16. 桜井敦朗、本間宏実、冨永早紀、田代紋子、辻野啓一郎、新谷誠康：被虐待児童の口腔内所見～長期にわたる歯科治療を行った一例～. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017 年 7 月 1 日, 大阪
17. 田代紋子、米津卓郎、熊澤海道、櫻井敦朗、新谷誠康：1 歳 6 か月および 3 歳時における齲蝕罹患要因に関する研究－特に授乳法と口腔の健康管理に関する因子について－. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017 年 6 月 30 日, 大阪
18. 冨永早紀、辻野啓一郎、櫻井敦朗、新谷誠康：歯科大学病院小児歯科における初診患者の実態－東京都心と千葉県下の大学病院の比較－. 第 64 回日本小児保健協会学術集会, 2017 年 6 月 30 日, 大阪
19. 木村基善、東俊文、新谷誠康：wnt シグナル経路と FGF8 の相互作用による象牙芽細胞分化機序の検討. 第 303 回東京歯科大学学会例会, 2017 年 6 月 3 日, 東京
20. Yang L, Tanabe K, Miura T, Yoshinari M, Takemoto S, Shintani S, Kasahara M: Fluvastatin-loaded atellocollagen/gelatin sponge promotes bone regeneration in calvarial bone defects. 第 303 回東京歯科大学学会例会, 2017 年 6 月 3 日, 東京
21. 兼元妙子、櫻井敦朗、今井裕樹、藥師寺仁、新谷誠康：中国上海市における幼稚園児の生活習慣が齲蝕罹患リスクにもたらす影響（Influence of Lifestyle Factors on Risk of Dental Caries among Children Living in Urban China.）. 第 55 回日本小児歯科学会, 2017 年 5 月 25 日, 小倉
22. 安部晴美、永井由美子、今井裕樹、眞木吉信、新谷誠康：幼稚園におけるフッ化物洗口実施に向けた保護者の意識調査（Attitude survey of fluoride mouth rinsing in kindergardens for parents.）. 第 55 回日本小児歯科学会, 2017 年 5 月 25 日, 小倉
23. 木村基善、東俊文、新谷誠康：Wnt/β-catein 活性経路による歯胚由来象牙芽細胞前駆細胞の DMP1 発現上昇メカニズムの解明（The role of wnt/b-catein signaling pathway in Dmp1 expression of tooth germ-derived odontoblast progenitor cells.）. 第 55 回日本小児歯科学会, 2017 年 5 月 25 日, 小倉
24. 冨永早紀、岩田美奈子、小鹿裕子、山本絢子、米倉智子、櫻井敦朗、辻野啓一郎、大多和由美、新谷誠康：2013～2015 年の東京都心における小児歯科初診患者実態調査（Survey of acutual condition of new patients in a dental college hospital in Tokyo from 2013 to 2015.）. 第 55 回日本小児歯科学会, 2017 年 5 月 26 日, 小倉
25. 東野晴美、櫻井敦朗、秋元佐和子、荒井涼、本間宏実、熊澤海道、今井裕樹、辻野啓一郎、米津卓郎、新谷誠康：千葉県下の大学病院小児歯科における初診患者実態調査（A survey of acutual condition of new patients visiting the pediatric dental clinic of the dental college hospital in Chiba Prefecture.）. 第 55 回日本小児歯科学会, 2017 年 5 月 26 日, 小倉
26. 今井裕樹、辻野啓一郎、新谷誠康：根尖性歯周炎に罹患した歯内歯（上顎側切歯）を治療後に長期観察した 1 例（Long-term observation of the dens in dente (maxillary lateral incisor). ）. 第 55 回日本小児歯科学会, 2017 年 5 月 26 日, 小倉
27. 本間宏実、櫻井敦朗、髙野紗弥佳、新谷誠康：交通外傷による上顎 4 切歯喪失後に長期の歯科的対応を行った 1 例（Acase of treatment of a child who lost four maxillary incisors due to the traffic injury.）. 第 55 回日本小児歯科学会, 2017 年 5 月 26 日, 小倉
28. 大澤枝里、山本仁、新谷誠康：ラット臼歯における髄下葉を伴った根分岐部形成の

組織学的、免疫学的観察（Immunohistochemical studies on the subpulpal lobe formation of rat molar.）. 第55回日本小児歯科学会, 2017年5月26日, 小倉

笠原正貴

1. Yang L, Yoshinari M, Miura T, Tanabe K, Takemoto S, Kasahara M, Shintani S: An easy method to fabricate atelocollagen/gelatin biomaterial with lyophilization technique、第15回日本再生歯科医学会大会, 2017年10月21日, 大阪歯科大学
2. Yang L, Tanabe K, Miura T, Yoshinari M, Takemoto S, Shintani S, Kasahara M: Fluvastatin-loaded atelocollagen/gelatin sponge promotes bone regeneration in calvarial bone defects. 第303回東京歯科大学学会・例会, 2017年6月3日, 東京歯科大学
3. 池上良、高橋有希、佐藤亨、笠原正貴、村松敬、岡田尚巳：重症乳児型低ホスファターゼ症モデルマウスに対する酵素補充遺伝子治療の顎骨・歯への治療効果. 第303回東京歯科大学学会・例会, 2017年6月3日, 東京歯科大学

研究分担者

柴原孝彦

1. 山村哲生, 柴野正康, 藥師寺孝, 柴原孝彦: 下顎骨に発生した良性線維性組織球腫の1例(会議録).日本口腔内科学会雑誌 (2186-6147)23 巻 2 号 Page170(2017.12)
2. 恩田健志, 林宰央, 松本暢久, 関川翔一, 柴原孝彦: 口腔癌細胞の臭気を利用した口腔がん診断の可能性. 日本口腔内科学会雑誌 23 巻 2 号 Page163-164(2017.12)
3. 松本暢久, 恩田健志, 林宰央, 関川翔一, 柴原孝彦: 口腔白板症組織および舌扁平上皮癌組織における PDE5 タンパク質の発現異常(会議録). 日本口腔内科学会雑誌 (2186-6147)23 巻 2 号 Page162(2017.12)
4. 井本大智, 大野啓介, 片倉朗, 高野正行, 齊藤力, 柴原孝彦: 診断に苦慮した IgG4 関連 Mikulicz 病の 1 例(会議録). 日本口腔内科学会雑誌 (2186-6147)23 巻 2 号 Page148-149(2017.12)
5. 山田祥, 柴野正康, 藤本侑子, 藥師寺孝, 大畠仁, 高木多加志, 柴原孝彦: 口蓋に発生した軟骨腫の 1 例(会議録). 日本口腔内科学会雑誌 (2186-6147)23 巻 2 号 Page134(2017.12)
6. 齋藤暁子, 大木章生, 澤田隆, 中村貴, 小野寺晶子, 長谷川大悟, 小崎健次郎, 恩田健志, 渡邊章, 柴原孝彦, 末石研二, 東俊文: 鎖骨頭蓋骨異形成症特異的 iPS 細胞由来の骨芽細胞における細胞核形態異常(会議録).日本骨代謝学会学術集会プログラム抄録集 (1349-0761)35 回 Page181(2017.07)
7. 本田健太郎, 齋藤寛一, 三條祐介, 木所亮, 大金覚, 野村武史, 片倉朗, 柴原孝彦, 高野伸夫: 当科口腔癌手術患者に対する術後合併症に関する検討　周術期口腔機能管理を含めた支持療法の有用性について. 日本口腔ケア学会雑誌 11 巻 3 号 Page170(2017.04)
8. 辛麻由, 加藤禎彬, 小山拓洋, 布施俊, 住吉美咲, 西山明宏, 関根理予, 大野啓介, 吉田秀児, 高木亮, 菅原圭亮, 別所央城, 山本信治, 渡邊章, 笠原清弘, 高野正行, 齊藤力, 柴原孝彦, 片倉朗: 東京歯科大学水道橋病院口腔外科における 2016 年度初診患者の臨床的検討(会議録). 歯科学報 (0037-3710)117 巻 5 号 Page419
9. 山田祥, 高木多加志, 山本雅絵, 大畠仁, 柴原孝彦: 顎変形症患者における外科的矯正治療前後の顎関節の変化についての検討(会議録). 歯科学報 117 巻 5 号 Page419
10. 村山雅人, 小石沢理央, 前山恵里, 有泉高晴, 藤本侑子, 西山明宏, 佐々木研一, 矢島安朝, 柴原孝彦: インプラント治療における偶発症・続発症とそのリカバリー 口腔インプラント関連手術によって引き起こされた下歯槽神経障害の検討と対応. Japanese Journal of Maxillo Facial Implants (1347-894X)16 巻 3 号 Page166
11. 森川貴迪, 小坂井絢子, 小杉彩歌, 別所央城, 野村武史, 柴原孝彦: 早期舌癌の治療における新規光学機器を用いた切除範囲の設定. 日本癌治療学会学術集会抄録集 55

回 Page O38-5

12. 松本高明, 西井康, 大山莉奈, 村上沙也加, 小倉弘之, 鍛代秀人, 草場岳, 立木千恵, 野嶋邦彦, 末石研二, 高木多加志, 柴原孝彦: 顔面非対称症例における外科的矯正治療による顎骨の変化(第 2 報)　前頭面での検討. 日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集 76 回 Page265
13. 村上沙也加, 西井康, 大山莉奈, 松本高明, 草場岳, 小倉弘之, 鍛代秀人, 立木千恵, 野嶋邦彦, 末石研二, 高木多加志, 柴原孝彦: 顔面非対称症例における歯軸の検討術前術後の歯軸傾斜(会議録). 日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集 76 回 Page264
14. 大山莉奈, 西井康, 松本高明, 村上沙也加, 小倉弘之, 鍛代秀人, 草場岳, 立木千恵, 野嶋邦彦, 末石研二, 高木多加志, 柴原孝彦: 顔面非対称症例における術前術後の顎骨の移動様相(第 1 報)　軸面での検討. 日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集 76 回 Page264
15. 東俊文, 小野寺晶子, 齋藤暁子, 中村貴, 大庭伸介, 小崎健次郎, 山口朗, 末石研二, 柴原孝彦: 骨疾患の病態解明と新たな治療法開発への基礎的アプローチ iPS 細胞を用いた顎骨疾患病態解明へのアプローチ. Journal of Oral Biosciences Supplement (2187-2333)2017 巻 Page112
16. 鬼谷薫, 角屋貴則, 三浦奈美, 庄司広和, 柴原孝彦, 本田一文: ACTN4 の遺伝子増幅は Stage I/II 期舌がんの予後予測マーカーである(英語). 日本癌学会総会記事 (0546-0476)76 回 Page P-1291
17. 住吉美咲, 大野啓介, 井本大智, 渡邊章, 柴原孝彦: 鼻腔に近接した上顎両側の逆生埋伏歯の 1 例(会議録/症例報告). 小児口腔外科 (0917-5261)27 巻 2 号 Page100
18. 角屋貴則, 左右, 林宰央, 柴野正康, 恩田健志, 成田真人, 大畠仁, 高木多加志, 柴原孝彦: 小児に認めた腺腫様歯原性腫瘍の一例(会議録/症例報告). 小児口腔外科 (0917-5261)27 巻 2 号 Page75
19. 恩田健志, 林宰央, 関川翔一, 松本暢久, 益田遼, 柴原孝彦: 舌扁平上皮癌組織における長寿遺伝子 Sirt1 の発現異常(会議録). 老年歯科医学 (0914-3866)32 巻 2 号 Page247
20. 林宰央, 恩田健志, 大金覚, 松本暢久, 藥師寺孝, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦: オーラルジスキネジアに伴う難治性潰瘍に対するオーラルアプライアンス治療の 1 例. 老年歯科医学 (0914-3866)32 巻 2 号 Page208-209
21. 小石沢理央, 西山明宏, 有泉高晴, 前山恵里, 藤本侑子, 村山雅人, 佐々木研一, 片倉朗, 矢島安朝, 柴原孝彦: 本学急性期神経機能修復外来患者の過去 6 年間における臨床的検討. 口腔顎顔面外傷 (1347-9903)16 巻 2 号 Page87
22. 関川翔一, 小坂井絢子, 齋藤寛一, 大金覚, 高野正行, 野村武史, 片倉朗, 柴原孝彦, 高野伸夫: 東京歯科大学口腔がんセンターにおける患者動向　10 年間の臨床的検討. 歯科学報 (0037-3710)117 巻 3 号 Page263
23. 益田遼, 奥平貴人, 左右, 岩本昌士, 森川貴迪, 成田真人, 高木多加志, 柴原孝彦: 東京歯科大学千葉病院における過去 6 年間の入院手術症例の臨床的検討. 歯科学報 (0037-3710)117 巻 3 号 Page262
24. 中島啓, 矢野尚, 明石良彦, 鷲見正美, 國分克寿, 橋本和彦, 関根理予, 柴原孝彦, 松坂賢一, 橋本貞充, 井上孝: 臼後部に発生した腫瘤を腺様嚢胞癌と診断した一例. 歯科学報 (0037-3710)117 巻 3 号 Page261
25. 恩田健志, 林宰央, 関川翔一, 松本暢久, 益田遼, 柴原孝彦: 舌扁平上皮癌組織における長寿遺伝子 Sirt1 の発現異常. 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 28 回 Page220
26. 林宰央, 恩田健志, 大金覚, 小澤夏生, 藥師寺孝, 高野伸夫, 柴原孝彦: オーラルジス

キネジアに伴う難治性潰瘍に対するスプリント療法の 1 例. 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 28 回 Page193

27. 永井佐代子, 山村哲生, 別所央城, 柴原孝彦, 片倉朗: 下顎切痕から側頭窩におよぶ軟組織に再発したエナメル上皮腫の 1 例. 日本口腔科学会雑誌 (0029-0297)66 巻 2 号 Page190
28. 林宰央, 恩田健志, 関川翔一, 松本暢久, 大金覚, 小澤夏生, 神尾崇, 藥師寺孝, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦; 抗がん剤誘発口内炎に対するラットを用いた治療薬の探索. 日本口腔科学会雑誌 (0029-0297)66 巻 2 号 Page174
29. 神尾崇, 松本暢久, 林宰央, 恩田健志, 藥師寺孝, 高木多加志, 柴原孝彦, 澁井武夫: FDM 方式 3D プリンタの歯科口腔外科領域への応用と課題. 日本口腔科学会雑誌 (0029-0297)66 巻 2 号 Page172
30. 松本暢久, 林宰央, 恩田健志, 関川翔一, 益田遼, 小澤夏生, 白石尚基, 柴原孝彦: 口腔扁平上皮癌細胞における PDE5 の機能解析(会議録). 日本口腔科学会雑誌 (0029-0297)66 巻 2 号 Page147
31. 大野啓介, 前山恵里, 関根理予, 小坂井絢子, 太尾英子, 菅原圭亮, 別所央城, 高野正行, 齊藤力, 野村武史, 片倉朗, 柴原孝彦: 口腔蛍光観察装置と画像解析ソフトを使用した口腔粘膜疾患の診断方法. 日本口腔科学会雑誌 (0029-0297)66 巻 2 号 Page112
32. 石原和幸, 新谷誠康, 斎藤淳, 村松敬, 柴原孝彦, 秋山泰, 山下喜久, 岸川浩, 大木貴博, 瀬田 範行: メタゲノム解析による口腔細菌叢病原性解析. 歯科学報 (0037-3710)117 巻 4 号 Page288-289
33. 林宰央, 恩田健志, 重野健一郎, 大金覚, 成田真人, 藥師寺孝, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦: 当科における陳旧性顎関節脱臼症例の検討. 日本顎関節学会雑誌 (0915-3004)29 巻 Suppl. Page116
34. 重野健一郎, 音成実佳, 大畠仁, 林宰央, 恩田健志, 柴原孝彦, 坂本春生: MRI T2 mapping を用いた変形性顎関節症患者における下顎頭骨形態および骨髄異常の経時的変化の検討. 日本顎関節学会雑誌 (0915-3004)29 巻 Suppl. Page112
35. 鬼谷薫, 吉本世一, 三浦奈美, 庄司広和, 加藤健, 柴原孝彦, 本田一文: 次世代シーケンサーによる血中循環腫瘍細胞(CTCs)の遺伝子変異プロファイリング.日本分子腫瘍マーカー研究会プログラム・講演抄録 37 回 Page65-66
36. 村上沙也加, 西井康, 大山莉奈, 松本高明, 草場岳, 小倉弘之, 鍛代秀人, 立木千恵, 野嶋邦彦, 末石研二, 高木多加志, 柴原孝彦: 顔面非対称症例における歯軸の検討 術前術後の歯軸傾斜. 日本顎変形症学会雑誌 27 巻 2 号 Page146
37. 神尾崇, 翁長欣子, 小郷直之, 山本雅絵, 成田真人, 藥師寺孝, 高木多加志, 柴原孝彦: 顎矯正手術後に顔貌はどのように変化するか?(第 2 報) 顎顔面軟組織形態の長期経時変化の評価. 日本顎変形症学会雑誌 (0916-7048)27 巻 2 号 Page145
38. 小郷直之, 山本雅絵, 成田真人, 神尾崇, 高木多加志, 柴原孝彦: オトガイ形成術前後における硬軟組織形態変化の三次元的評価. 日本顎変形症学会雑誌 (0916-7048)27 巻 2 号 Page126
39. 菅原圭亮, 太尾英子, 勝見吉晴, 小山侑, 小谷地雅秀, 別所央城, 笠原清弘, 渡邊章, 高野正行, 齊藤力, 柴原孝彦, 片倉朗: 下顎枝矢状分割術での異常骨折(Bad split)症例の検討. 日本顎変形症学会雑誌 (0916-7048)27 巻 2 号 Page107
40. 小谷地雅秀, 西山明宏, 菅原圭亮, 渡邊章, 笠原清弘, 高野正行, 柴原孝彦, 片倉朗: Skeletal Class II 不正咬合者における顎矯正手術後の下唇知覚障害について. 日本顎変形症学会雑誌 (0916-7048)27 巻 2 号 Page106
41. 和田朗, 渡邊章, 大野啓介, 関根理予, 吉田秀児, 菅原圭亮, 笠原清弘, 高野正行, 片倉朗, 齊藤力, 柴原孝彦: 外科矯正手術における術中出血量に関する臨床統計的検討. 日本顎変形症学会雑誌 (0916-7048)27 巻 2 号 Page106

42. 柳本惣市, 梅田正博, 桐田忠昭, 山下徹郎, 平塚博義, 横尾聡, 丹沢秀樹, 鵜澤成一, 柴原孝彦, 太田嘉英, 栗田浩, 大倉正也, 浜川裕之, 楠川仁悟, 藤内祝: (一社)日本口腔腫瘍学会共同研究員会ワーキング・グループ 1「分子標的薬」再発・転移口腔癌におけるセツキシマブ併用化学療法の有効性に関する多施設共同観察研究. 頭頸部癌 (1349-5747)43 巻 2 号 Page202
43. 鬼谷薫, 角屋貴則, 森泰昌, 吉本世一, 渡部幸央, 三浦奈美, 庄司広和, 柴原孝彦, 本田一文: ACTN4 の遺伝子増幅は Stage I/II 期舌がんの予後予測マーカーである. 日本分子腫瘍マーカー研究会誌 32 巻 Page17-18(2017.03)

恩田健志

1. 角屋貴則, 左右, 林宰央, 柴野正康, 恩田健志, 成田真人, 大畠仁, 高木多加志, 柴原孝彦: 小児に認めた腺腫様歯原性腫瘍の一例, 第 29 回日本小児口腔外科学会学術大会、2017 年 11 月（新潟市）小児口腔外科 27 巻 2 号 Page75.
2. 白石尚基,恩田健志,林宰央,松本暢久,関川翔一,渡部幸央,高野伸夫,柴原孝彦: 舌扁平上皮癌組織における HSP90 の発現異常, 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2017年10月（京都）第62回日本口腔外科学会総会・学術大会プログラム・抄録集 P338.
3. 関川翔一,鬼谷薫, 松本暢久,林宰央,恩田健志,野村武史,高野伸夫,柴原孝彦,本田一文: AMBP は口腔扁平上皮癌の細胞浸潤・遊走およびリンパ節転移と関連する, 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会 2017 年 10 月（京都）, 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会プログラム・抄録集 P305.
4. 恩田健志, 林宰央, 松本暢久, 関川翔一, 柴原孝彦: 口腔癌細胞の臭気を利用した口腔がん診断の可能性, 第27回日本口腔内科学会第30回日本口腔診断学会合同学術大会 2017 年 9 月（札幌市）, 第 27 回日本口腔内科学会第 30 回日本口腔診断学会合同学術大会プログラム・抄録集 P175.
5. 松本暢久, 恩田健志, 林宰央,関川翔一, 柴原孝彦: 口腔白板症組織および舌扁平上皮癌組織における PDE5 タンパク質の発現異常, 第 27 回日本口腔内科学会第 30 回日本口腔診断学会合同学術大会 2017 年 9 月（札幌市）, 第 27 回日本口腔内科学会第 30 回日本口腔診断学会合同学術大会プログラム・抄録集 P175.
6. 恩田健志, 林宰央, 関川翔一, 松本暢久, 益田遼, 柴原孝彦: 舌扁平上皮癌組織における長寿遺伝子 Sirt1 の発現異常, 第 28 回日本老年歯科医学会学術大会、2017 年 6 月（名古屋市）, 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 28 回 Page220.
7. 林宰央, 恩田健志, 大金覚, 松本暢久, 薬師寺孝, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦: オーラルジスキネジアに伴う難治性潰瘍に対するオーラルアプライアンス治療の 1 例, 第 28 回日本老年歯科医学会学術大会、2017 年 6 月（名古屋市）, 日本老年歯科医学会総会・学術大会プログラム・抄録集 28 回 Page193.
8. 林宰央, 恩田健志, 関川翔一, 松本暢久, 大金覚, 小澤夏生, 神尾崇, 薬師寺孝, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦: 抗がん剤誘発口内炎に対するラットを用いた治療薬の探索, 第 71 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会、2017 年 4 月（松山市）, 第 71 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会プログラム・抄録集 Page267.
9. 神尾崇, 松本暢久, 林宰央, 恩田健志, 薬師寺孝, 高木多加志, 柴原孝彦, 澁井武夫: FDM 方式 3D プリンタの歯科口腔外科領域への応用と課題, 第 71 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会、2017 年 4 月（松山市）, 第 71 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会プログラム・抄録集 Page265.
10. 松本暢久, 林宰央, 恩田健志, 関川翔一, 益田遼, 小澤夏生, 白石尚基, 柴原孝彦: 口腔扁平上皮癌細胞における PDE5 の機能解析, 第 71 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会、2017 年 4 月（松山市）, 第 71 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会プログラム・抄録集 Page231.

11. 林宰央, 恩田健志, 重野健一郎, 大金覚, 成田真人, 藥師寺孝, 大畠仁, 高野伸夫, 柴原孝彦: 当科における陳旧性顎関節脱臼症例の検討, 第 30 回一般社団法人日本顎関節学会総会･学術大会 2017 年 7 月（横浜市）, 日本顎関節学会雑誌 29 巻 Suppl. Page116
12. 重野健一郎, 音成実佳, 大畠仁, 林宰央, 恩田健志, 柴原孝彦, 坂本春生: MRI T2 mapping を用いた変形性顎関節症患者における下顎頭骨形態および骨髄異常の経時的変化の検討, 第 30 回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会 2017 年 7 月（横浜市）, 日本顎関節学会雑誌 29 巻 Suppl. Page112
13. 恩田健志, 松本暢久, 林宰央, 川上真奈, 柴原孝彦: 擦過細胞診で擬陽性と診断された疣贅型黄色腫の 1 例, 第 26 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会、2017 年 3 月（金沢市）, 第 26 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会プログラム抄録集 P199,2017.
14. 成田真人, 林宰央, 岩本昌士, 森川貴迪, 右田雅士, 恩田健志, 藥師寺孝, 柴原孝彦: 頸部郭清術術後の頸部検出菌種に関する検討, 第 26 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会、2017 年 3 月（金沢市）, 第 26 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会プログラム抄録集 P130,2017.

渡邉豪士

1. K.WATANABE, N.MORITA, H.OGURA, S.ONODERA, A.YAMAGUCHI, T.SHIBAHARA, T.AZUMA：Establishment of iPS cells of McCune-Albright syndrome model using CRISPR/CAS9, 第 65 回国際歯科研究学会日本部会総会・学術大会　昭和大学

石井武展

1. Hiroyuki Ogura, Takenobu Ishii, Nana Morita, Katsuhito Watanabe, Shoko Onodera, Kenji Sueishi, Toshifumi Azuma, : Investigation of Apert syndrome with disease-specific iPS cells. Japanese Association for Dental Research, 2017 年 11 月 18 日-19 日, Showa University.
2. 石井武展、木村絵美子、新倉陽一郎、有泉大、安村敏彦、宮崎晴代、坂本輝雄、末石研二、坂本好昭、貴志和生：Hemifacial microsomia における上顎洞容積の左右比較および検討、第 35 回日本顎顔面外科学会学術集会、2017 年 11 月 16 日-17 日、電気ビル　共創館
3. 新倉陽一郎、坂本輝雄、石井武展、有泉大、末石研二、坂本好昭、貴志和生：第一第二鰓弓症候群に対する外科的治療前後の上下顎三次元形態計測を用いた治療目標設定と評価について、第 35 回日本顎顔面外科学会学術集会、2017 年 11 月 16 日-17 日、電気ビル　共創館
4. Takenobu Ishii, Munetada Ishikawa, Dehwan Choi, Teruo Sakamoto, Kenji Sueishi : THE INCREASE OF MAXILLARY LATERAL EXPANSION LIMIT BY TOPICAL APPLICATION OF FLUVASTATIN. 93rd Congress of the European Orthodontic Society Montreux Switzerland June5-10,2017.
5. Munetada Ishikawa, Takenobu Ishii, Dehwan Choi, Teruo Sakamoto, Kenji Sueishi: Elcidation of the cartilage differentiation control mechanism by fluvastatin application93rd Congress of the European Orthodontic Society Montreux Switzerland June5-10,2017.
6. 木村絵美子、小幡智子、鍛代秀人、石井武展、坂本輝雄、渡邉美貴、柴野正康、吉田秀児、渡辺章、成田真人、中野洋子、高野伸夫、末石研二: 口蓋裂患者における咽頭領域の三次元的検討、第 41 回日本口蓋裂学会総会・学術集会、2017 年 5 月 18 日-19 日、ホテルオークラ東京

鈴木瑛一

1. 久永幸乃, 鈴木瑛一, 青木栄人, 佐藤正敬, 東俊文, 齋藤 淳: エナメルマトリックスタンパク質とアテロコラーゲンスポンジの併用がマウス iPS 細胞の分化に及ぼす影響, 第 60 回春季日本歯周病学会学術大会, 平成 29 年 5 月 12 日, 福岡市, 日本歯周病

学会会誌 59 (春季特別号):136, 2017

2. 鈴木瑛一，篠 宏美，青木栄人，久永幸乃，佐藤正敬，東 俊文，齋藤 淳: 遺伝子改変マウスを使用した骨形成過程における新規転写因子の解明, 第 60 回春季日本歯周病学会学術大会, 平成 29 年 5 月 12 日，福岡市, 日本歯周病学会会誌 59 (春季特別号):138, 2017
3. Aoki H., Suzuki E., Hisanaga Y., Sato M., Onodera S., Shino H., Saito A., Azuma T. and Saito A.: Investigation of the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPS cells generated from *Runx2* homo-deficient mouse. National Symposium Osteology Japan 2017, June 3rd, 2017, Tokyo, Japan. Osteology Japan 2017 On-Site Program, 2017
4. Suzuki E., Aoki H., Hisanaga Y., Sato M., Azuma T. and Saito A.: Identification of key factors in bone formation by using transgenic mice. National Symposium Osteology Japan 2017, June 3rd, 2017, Tokyo, Japan. Osteology Japan 2017 On-Site Program, 2017
5. Suzuki E., Aoki H., Hisanaga Y., Sato A., Azuma T. and Saito A.: Gene Expression Profiles in Bone Formation by Using Transgenic Mice. American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September 10th, 2017, Boston, USA. AAP 103rd Annual Meeting On-Site Program, p55, 2017
6. Hisanaga Y., Suzuki E., Aoki H., Sato M., Saito A., Azuma T. and Saito A.: In vitro effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on differentiation of mouse induced pluripotent stem cells. American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September 10th, 2017, Boston, USA. AAP 103rd Annual Meeting On-Site Program, p55, 2017
7. Aoki H, Suzuki E, Hisanaga Y, Sato M, Azuma T. and Saito A.: Investigating the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPSCs. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November 18th, 2017, Tokyo, Japan. Program & Abstracts, p.91, 2017
8. Suzuki E, Aoki H, Hisanaga Y, Sato M, Nakamura A, Azuma T. and Saito A.: Gene expression profiling during osteogenic differentiation by using transgenic mice. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November 18th, 2017, Tokyo, Japan. Program & Abstracts, p.90, 2017
9. 勢島 典，青木栄人，武内崇博，鈴木瑛一，色川大輔，大井麻子，稲垣 覚，杉戸博記，富田幸代，齋藤 淳: エナメルマトリックスデリバティブを用いた歯周組織再生療法後 2 年の臨床評価, 日本歯周病学会 60 周年記念京都大会, 平成 29 年 12 月 16 日，京都市. 日本歯周病学会会誌 59 (秋季特別号): 203, 2017

青木栄人

1. Aoki H., Suzuki E., Hisanaga Y., Sato M., Onodera S., Shino H., Saito A., Azuma T. and Saito A.: Investigation of the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPS cells generated from *Runx2* homo-deficient mouse. National Symposium Osteology Japan 2017, June 3rd, 2017, Tokyo, Japan. (Poster Presentation Basic Research 部門 優秀賞受賞). Osteology Japan 2017 On-Site Program, 2017
2. Suzuki E., Aoki H., Hisanaga Y., Sato M., Azuma T. and Saito A.: Identification of key factors in bone formation by using transgenic mice. National Symposium Osteology Japan 2017, June 3rd, 2017, Tokyo, Japan. (Poster Presentation Basic Research 部門 最優秀賞受賞). Osteology Japan 2017 On-Site Program, 2017
3. Suzuki E., Aoki H., Hisanaga Y., Sato A., Azuma T. and Saito A.: Gene Expression Profiles in Bone Formation by Using Transgenic Mice. American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September 10th, 2017, Boston, USA. AAP 103rd Annual Meeting On-Site Program, p55, 2017

4. Hisanaga Y., Suzuki E., Aoki H., Sato M., Saito A., Azuma T. and Saito A.: In vitro effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on differentiation of mouse induced pluripotent stem cells. American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September 10th, 2017, Boston, USA. AAP 103rd Annual Meeting On-Site Program, p55, 2017
5. Aoki H, Suzuki E, Hisanaga Y, Sato M, Azuma T. and Saito A.: Investigating the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPSCs. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November 18th, 2017, Tokyo, Japan (JADR/GC 学術奨励賞受賞). Program & Abstracts, p.91, 2017
6. Suzuki E, Aoki H, Hisanaga Y, Sato M, Nakamura A, Azuma T. and Saito A.: Gene expression profiling during osteogenic differentiation by using transgenic mice. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November 18th, 2017, Tokyo, Japan (JADR/GC 学術奨励賞ファイナリスト). Program & Abstracts, p.90, 2017
7. 勢島 典，青木栄人，武内崇博，鈴木瑛一，色川大輔，大井麻子，稲垣 覚，杉戸博記，富田幸代，齋藤 淳: エナメルマトリックスデリバティブを用いた歯周組織再生療法後 2 年の臨床評価，日本歯周病学会 60 周年記念京都大会，平成 29 年 12 月 16 日，京都市，日本歯周病学会会誌 59 (秋季特別号): 203, 2017

佐藤正敬

1. Aoki H., Suzuki E., Hisanaga Y., Sato M., Onodera S., Shino H., Saito A., Azuma T. and Saito A.: Investigation of the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPS cells generated from *Runx2* homo-deficient mouse. National Symposium Osteology Japan 2017, June 3rd, 2017, Tokyo, Japan. (Poster Presentation Basic Research 部門 優秀賞受賞). Osteology Japan 2017 On-Site Program, 2017
2. Suzuki E., Aoki H., Hisanaga Y., Sato M., Azuma T. and Saito A.: Identification of key factors in bone formation by using transgenic mice. National Symposium Osteology Japan 2017, June 3rd, 2017, Tokyo, Japan. (Poster Presentation Basic Research 部門 最優秀賞受賞). Osteology Japan 2017 On-Site Program, 2017
3. Suzuki E., Aoki H., Hisanaga Y., Sato M., Azuma T. and Saito A.: Gene Expression Profiles in Bone Formation by Using Transgenic Mice. American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September 10th, 2017, Boston, USA. AAP 103rd Annual Meeting On-Site Program, p55, 2017
4. Hisanaga Y., Suzuki E., Aoki H., Sato M., Saito A., Azuma T. and Saito A.: In vitro effect of the combined use of enamel matrix derivative and atelocollagen sponge scaffold on differentiation of mouse induced pluripotent stem cells. American Academy of Periodontology 103rd Annual Meeting, September 10th, 2017, Boston, USA. AAP 103rd Annual Meeting On-Site Program, p55, 2017.
5. Aoki H, Suzuki E, Hisanaga Y, Sato M, Azuma T. and Saito A.: Investigating the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPSCs. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November 18th, 2017, Tokyo, Japan (JADR/GC 学術奨励賞受賞). Program & Abstracts, p.91, 2017
6. Suzuki E, Aoki H, Hisanaga Y, Sato M, Nakamura A, Azuma T. and Saito A.: Gene expression profiling during osteogenic differentiation by using transgenic mice. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, November 18th, 2017, Tokyo, Japan (JADR/GC 学術奨励賞ファイナリスト). Program & Abstracts, p.90, 2017

森田奈那

1. 森田奈那，長谷川大悟，浮地賢一郎，高橋愼一，東 俊文，野村武史: Gorlin 症候群患者由来 iPS 細胞の上皮分化誘導，第 62 回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会　平成 29 年 10 月 20 日，国立京都国際会館
2. Morita N, Onodera S, Hasegawa D, Watanabe K, Ogura H, Nomura T, Azuma T: Epidermal differentiation from Gorlin Syndrome- induced pluripotent stem cells. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research , 2017/11/19, Showa University
3. Watanabe K, Morita N, Ogura H, Onodera S, Yamaguchi A, Shibahara T, Auzuma T: Establishment of iPS cells of McCune-Albright syndrome model using CRISPR / CAS 9. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research , 2017/11/19 , Showa University
4. Ogura H, Ishii T, Morita M, Watanabe K, Onodera S, Sueishi K, Auzuma T: Investigation of Apert syndrome with disease-specific iPS cells. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research , 2017/11/19 , Showa University

野村武史

1. 森田奈那，長谷川大悟，浮地賢一郎，高橋愼一，東 俊文，野村武史: Gorlin 症候群患者由来 iPS 細胞の上皮分化誘導，第 62 回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会　平成 29 年 10 月 20 日，国立京都国際会館
2. Morita N, Onodera S, Hasegawa D, Watanabe K, Ogura H, Nomura T, Azuma T: Epidermal differentiation from Gorlin Syndrome- induced pluripotent stem cells. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research , 2017/11/19, Showa University

感染制御ラボ

推進委員会委員

石原和幸

1. Numata Y, Okamoto-Shibayama K, Sato T, Miyai-Murai Y, Kikuchi Y, Kokubu E, Ishihara K: Regulation of gene expression by marR-like gene in *Treponema denticola.* 95th International Association for Dental Research (IADR) General Session, 2017 年 3 月 23-26 日, San Francisco, USA.
2. Miyai Y, Okamoto-Shibayama K, Sato T, Numata Y, Ishihara K: Isolation and characterization of Dentipain in *Treponema denticola.* 95th International Association for Dental Research (IADR) General Session, 2017 年 3 月 23-26 日, San Francisco, USA.
3. Yoshikawa K, Ota K, Imamura K, Kita D, Yamashita K, Kitamura Y, Saito A, Ishihara K. Characteriation of adhesion of *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 to *Treponema denticola*. 95th International Association for Dental Research (IADR) General Session, 2017 年 3 月 23-26 日, San Francisco, USA.
4. 宇田川小百合, 片桐さやか, 前川祥吾, 大津杏里, 駒崎利奈, 佐々木直樹, 竹内康雄, 石原和幸, 和泉雄一: *Porphyromonas gingivalis* の感染が妊娠および胎児に及ぼす影響の評価. 第 60 回日本歯周病学会学術大会, 2017 年 5 月 12 日-5 月 13 日, 福岡市.
5. 国分栄仁, 菊池有一郎, 柴山和子, 石原和幸: *Treponema denticola* の細胞侵入に影響する病原因子の解析. 第 90 回日本細菌学会総会, 2017 年 3 月 19 日-21 日, 仙台市.
6. 菊池有一郎, 太田功貴, 柴山和子, 国分栄仁, 齋藤淳, 石原和幸: *Porphyromonas gingivalis* の鉄獲得機構における ECF シグマ因子 PGN_0319 の役割. 第 90 回日本細菌学会総会, 2017 年 3 月 19 日-21 日, 仙台市.
7. 沼田由美, 柴山和子, 佐藤亨, 菊池有一郎, 国分栄仁, 石原和幸: *Treponema denticola* の iron-sulfur cluster-binding protein 調節遺伝子(icbR)の機能解析. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 2017 年 9 月 16-18 日, 松本市.
8. 新居由紀, 菊池有一郎, 柴山和子, 国分栄仁, 新谷誠康, 石原和幸: *Treponema*

denticola 病原因子欠損株における遺伝子発現調節. 第59回歯科基礎医学会学術大会, 2017 年 9 月 16-18 日, 塩尻市.

9. 吉川幸輝, 喜田大智, 菊池有一郎, 国分栄仁, 山下慶子, 北村友里恵, 今村健太郎, 齋藤淳, 石原和幸: *Treponena denticola* に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着の特性. 第 304 回東京歯科大学学会, 2017 年 10 月 21-22 日, 東京.
10. 門田枝里子, 富田幸代, 齋藤淳, 石原和幸: 慢性歯周炎病巣のマイクロバイオーム解析. 第 304 回東京歯科大学学会, 2017 年 10 月 21-22 日, 東京.
11. 根津裕一, 竜正大, 上田貴之, 石原和幸, 櫻井薫: 義歯床用レジンに形成された口腔細菌叢の検討, 2017年12月2−3日, 東京.

村松　敬

1. T.Muramatsu, K.Matsunaga, C.Ito, Nakakogawa, A.Sugiuchi, R.Sako, M.Furusawa.: Response to light compressive force in human cementoblasts *in vitro*. 95th International Association for Dental Research (IADR) General Session, 平成 29 年 3 月 23-26 日, San Francisco, USA.
2. 池上良，高橋有希，佐藤亨，笠原正貴，村松敬，岡田尚巳，：重症乳児型低ホスファターゼ症モデルマウスにおける酵素補充遺伝子療法の顎骨・歯への治療効果. 第 303 回東京歯科大学学会，平成 29 年 6 月 3 日，東京.
3. 半場秀典, 中村圭喜, 石塚久子, 古澤成博, 村松敬：非齲蝕性歯頸部硬組織欠損（NCCL）を有するヒト小臼歯のマイクロ CT 解析. 第 303 回東京歯科大学学会，平成 29 年 6 月 3 日，東京.
4. 中村圭喜，半場秀典，石塚久子，村松敬：S-PRG フィラー含有ペーストのエナメル質脱灰抑制効果. 第 303 回東京歯科大学学会，平成 29 年 6 月 3 日，東京.
5. 関谷紗世，宮吉教仁，淺井知宏，堀内章，山田雅司，藤井理絵，森永一喜，村松敬，古澤成博：日本人における手術用顕微鏡を用いたイスムスを有する症例における歯根端切除術の短期成功率の調査. 第 146 回日本歯科保存学会学術大会，平成 29 年 6 月 8-9 日，青森市
6. 宮吉教仁，山田雅司，関谷紗世，淺井知宏，堀内　章，藤井理絵，森永一喜，村松敬，古澤成博：日本人における手術用顕微鏡を用いた再歯根端切除術の短期予後の調査. 第 38 回日本歯内療法学会，平成 29 年 7 月 22-23 日，東京.
7. 武居純，阿部修，村松敬：感染根管に水酸化カルシウム製剤を応用した際に認められた根尖部石灰化物の形成期間および臨床成績. 第 38 回日本歯内療法学会，平成 29 年 7 月 22-23 日，東京.
8. 杉内亜紀奈，田宮資己，佐野陽祐，村松敬，古澤成博：Lipopolysacchaarde 刺激がヒト歯髄細胞の硬組織形成に及ぼす影響. 第 38 回日本歯内療法学会，平成 29 年 7 月 22-23 日，東京
9. 佐古亮，村松敬，小林史枝，杉内亜紀奈，古澤成博：Interleukin-6 刺激に対するブタ由来 Malassez 上皮遺残細胞の反応. 第 38 回日本歯内療法学会，平成 29 年 7 月 22-23 日，東京.
10. 三友啓介，髙田佳奈，石塚久子，古澤成博，村松敬：高脂肪環境下に LPS 刺激が加わった際の歯髄細胞の反応. 第147回日本歯科保存学会，平成29年10月26-27日，盛岡市.
11. 田宮資己，半場秀典，古澤成博，村松敬：高脂肪飼育したラットに実験的根尖性歯周炎を起こさせた際の変化. 第147回日本歯科保存学会，平成29年10月26-27日，盛岡市.
12. 石塚久子，三友啓介，古澤成博，村松敬：アルカリ環境下でのヒトセメント芽細胞の反応. 第147回日本歯科保存学会，平成29年10月26-27日，盛岡市.

齋藤　淳

1. Saito A, Irokawa D, Takeuchi T, Bizenjima T, Noda K, Egawa M.: Combination GTR with xenogeneic bone-mineral: A 2.5-year follow-up. 95th General Session of the IADR, March 23, 2017, San Francisco, CA, USA. Program Book, p143.
2. Yoshikawa K, Ota K, Imamura K, Kita D, Yamashita K, Kitamura Y, Saito A, Ishihara K.: Characteriation of adhesion of *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 to *Treponema denticola*. 95th General Session of the IADR, March 23, 2017, San Francisco, CA, USA. Program Book, p144.
3. 久永幸乃，鈴木瑛一，青木栄人，佐藤正敬，東俊文，齋藤淳：エナメルマトリックスタンパク質とアテロコラーゲンスポンジの併用がマウス iPS 細胞の分化に及ぼす影響. 第 60 回春季日本歯周病学会学術大会，平成 29 年 5 月 12 日，福岡市博多区，日歯周誌 59（春季特別号）30: 136, 2017.
4. 鈴木瑛一，篠宏美，青木栄人，久永幸乃，佐藤正敬，東俊文，齋藤淳：遺伝子改変マウスを使用した骨形成過程における新規転写因子の解明. 第 60 回春季日本歯周病学会学術大会，平成 29 年 5 月 12 日，福岡市博多区，日歯周誌 59（春季特別号）31: 138, 2017.
5. 鈴木瑛一，勢島典，高山沙織，堀江桃子，長谷川昭子，齋藤淳：臼歯部咬合崩壊を伴う広汎型侵襲性歯周炎に対して包括的治療を行った一症例. 第 60 回春季日本歯周病学会学術大会，平成 29 年 5 月 13 日，福岡市博多区，日歯周誌 59（春季特別号）60: 138, 2017.
6. 両角俊哉，角田衣理加，野村義明，中川種昭，野口和行，原宜興，西村英紀，梅田誠，野口俊英，吉成伸夫，沼部幸博，伊藤公一，和泉雄一，小方頼昌，三邉正人，齋藤淳，佐藤聡，高橋慶壮，川浪雅光，花田信弘，高柴正悟，吉江弘正：歯肉縁下細菌と血清抗体価を用いた慢性歯周炎進行の評価：24 ヵ月多施設前向きコホート研究. 第 60 回春季日本歯周病学会学術大会，平成 29 年 5 月 12 日，福岡市博多区，日歯周誌 60（春季特別号）40: 145, 2017.
7. 久永幸乃，鈴木瑛一，青木栄人，佐藤正敬，齋藤淳，東俊文：エナメルマトリックスタンパク質とアテロコラーゲンスポンジの併用がマウス iPS 細胞の骨芽細胞分化に及ぼす影響. 第 303 回東京歯科大学学会・例会，平成 29 年 6 月 3 日，東京都千代田区，歯科学報 117: 81, 2017.
8. Suzuki E, Aoki H, Hisanaga Y, Sato M, Azuma T, Saito A: Identification of key factors in bone formation by using transgenic mice. Osteology Japan 2017（第 2 回），平成 29 年 6 月 3 日-4 日，東京都文京区, Osteology Japan Abstract, p.18.
9. Aoki H, Hisanaga Y, Sato M, Azuma T, Saito A: Investigation of the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPS cells generated from *Runx2* homo-deficient mouse. Osteology Japan 2017（第 2 回），平成 29 年 6 月 3 日-4 日，東京都文京区, Osteology Japan Abstract, p.19.
10. Takeuchi T, Yoshida W, Suzuki E, Bizenjima T, Seshima F, Saito A: Elucidation of periodontal healing mechanism following application of a self-assembling peptide nanofiber hydrogel. Osteology Japan 2017（第 2 回），平成 29 年 6 月 3 日-4 日，東京都文京区, Osteology Japan Abstract, p.19.
11. 吉川幸輝，喜田大智，今村健太郎，青木栄人，勢島典，齋藤淳：*Treponema denticola* に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着ドメインの解明. 日本歯科保存学会 2017 年度春季学術大会（第 146 回），平成 29 年 6 月 9 日，青森市，日本歯科保存学会 2017 年度春季学術大会（第 146 回）プログラムおよび講演抄録集, p.xxxvi, 158.
12. 両角俊哉，中川種昭，野口和行，原 宜興，西村英紀，梅田 誠，野口俊英，吉成伸夫，沼部幸博，伊藤公一，和泉雄一，小方頼昌，三邉正人，齋藤淳，佐藤聡，高橋慶壮，川浪雅光，花田信弘，高柴正悟，吉江弘正：歯肉縁下細菌と血清抗体価による慢性歯周

炎進行の予知判定:24 ヵ月多施設前向きコホート研究. 日本歯科保存学会 2017 年度秋季学術大会（第 146 回）, 平成 29 年 6 月 9 日, 青森市, 日本歯科保存学会 2017 年度秋季学術大会（第 146 回）プログラムおよび講演抄録集, p.xxxvii, 174.

13. 吉川幸輝，喜田大智，今村健太郎，勢島典，齋藤淳：*Treponema denticola* に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着の特性. 日本歯科保存学会 2017 年度秋季学術大会（第 147 回）, 平成 29 年 10 月 27 日, 盛岡市, 日本歯科保存学会 2017 年度秋季学術大会（第 147 回）プログラムおよび講演抄録集, xliii,197.
14. 吉川幸輝，喜田大智，菊池有一郎，国分栄仁，山下慶子，北村友里恵，今村健太郎，齋藤淳，石原和幸：*Treponema denticola* に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着の特性, 第 304 回東京歯科大学学会（総会）, 平成 29 年 10 月 21 日, 東京都千代田区歯科学報 117:414, 2017.
15. 門田枝里子，富田幸代，齋藤淳，石原和幸：慢性歯周炎病巣のマイクロバイオーム解析, 第 304 回東京歯科大学学会（総会）, 平成 29 年 10 月 21 日, 東京都千代田区、歯科学報 117:414, 2017.
16. 青木栄人，勢島典，岡村祐利，齋藤淳：歯周病学講座ポストグラデュエートコース第 20 期生による症例提示－広汎型重度慢性歯周炎に対し歯周組織再生療法を行った一症例－. 第 304 回東京歯科大学学会（総会）, 平成 29 年 10 月 22 日, 東京都千代田区歯科学報 117:423, 2017.
17. Suzuki E, Aoki H, Hisanaga Y, Sato M, Nakamura A, Azuma T, Saito A.: Gene expression profiling during osteogenic differentiation by using transgenic mice. The JADR/GC Young Investigator Award Competition Finalist, The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, Nov.18, 2017, 東京都品川区, Program and Abstracts of Papers p17, 90, 2017.
18. Aoki H, Suzuki E, Hisanaga Y, Sato M, Azuma T, Saito A.: Investigating the role of RUNX2 during osteoblastic differentiation using iPSCs. The 65th Annual Meeting of Japanese Association for Dental Research, Nov.18, 2017, 東京都品川区, Program Book p.17, 90, 2017.
19. 衣松高志，喜田大智，田中美希，横溝敦志，木暮隆司，齋藤淳：SPT 期患者における 3 種殺菌成分配合歯磨剤によるセルフケアの有用性. 第 61 回春季日本歯周病学会学術大会, 平成 29 年 12 月 16 日, 京都市, 日歯周誌 59（60 周年記念大会特別号）: 32,190, 2017.
20. 武内崇博，松上大亮，吉田航，備前島崇浩，勢島典，難波崇，齋藤淳：自己組織化ペプチドハイドロゲル応用における歯周組織治癒メカニズムの解明. 第 61 回春季日本歯周病学会学術大会, 平成 29 年 12 月 16 日, 京都市, 日歯周誌 59（60 周年記念大会特別号）: 43,201, 2017.
21. 勢島典，青木栄人，武内崇博，鈴木瑛一，色川大輔，大井麻子，稲垣覚，杉戸博記，富田幸代，齋藤淳：エナメルマトリックスデリバティブを用いた歯周組織再生療法後 2 年の臨床評価. 第 61 回春季日本歯周病学会学術大会, 平成 29 年 12 月 16 日, 京都市, 日歯周誌 59（60 周年記念大会特別号）: 45, 203, 2017.
22. 武内崇博，勢島典，片山明彦，高橋潤一，齋藤淳：受動的萌出遅延を伴う審美障害に対し歯肉弁根尖側移動術による対応を行った一症例. 第 61 回春季日本歯周病学会学術大会, 平成 29 年 12 月 16 日, 京都市, 日歯周誌 59（60 周年記念大会特別号）: 61, 222, 2017.

澁川義幸

1. 大山定男、木村麻記、人見涼露、田崎雅和、小野堅太郎、澁川義幸：象牙質痛は象牙芽細胞と歯髄ニューロンの神経性伝達で生じる. 第 11 回三叉神経領域の感覚－運動統合機構研究会, 平成 29 年 12 月 2-3 日, 吹田市.

2. 井上博之、黒田英孝、石川昂、木村麻記、澁川義幸、田﨑雅和、一戸達也：ラット三叉神経節細胞における P2X7 受容体の電気生理学特性. 第 11 回三叉神経領域の感覚—運動統合機構研究会, 平成 29 年 12 月 2-3 日, 吹田市.
3. 隠田みゆき、木村麻記、佐藤正樹、東川明日香、小島佑貴、田崎雅和、澁川義幸：三叉神経節ニューロンに対するグアヤコールの鎮痛作用. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 平成 29 年 9 月 16-18, 塩尻市, Journal of Oral Bioscience Supplement, 431, 2017.
4. 井上博之、黒田英孝、小島佑貴、重藤玲子、東川明日香、石川昂、木村麻記、佐藤正樹、澁川義幸、田﨑雅和、一戸達也：ラット三叉神経節細胞における P2X7 受容体の発現検索. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 平成 29 年 9 月 16-18, 塩尻市, Journal of Oral Bioscience Supplement, 307, 2017.
5. 小島佑貴、東川明日香、大山定男、河野恭佑、安藤正之、西孝一、黒田英孝、木村麻記、澁川義幸、田﨑雅和：ラット三叉神経節グリア細胞の遅延整流型 K+電流. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 平成 29 年 9 月 16-18, 塩尻市, Journal of Oral Bioscience Supplement, 308, 2017.
6. 東川明日香、小島佑貴、寺島　重藤玲子、井上博之、河野恭佑、安藤正之、黒田英孝、木村麻記、澁川義幸、田﨑雅和：メルケル細胞-神経細胞間コミュニケーション. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 平成 29 年 9 月 16-18, 塩尻市.
7. 寺島-重藤玲子、東川明日香、小島佑貴、井上博之、川口綾、黒田英孝、木村麻記、澁川義幸、田崎雅和、一戸達也：ラット三叉神経節ニューロンにおけるブラジキニン B_1 受容体を介した Ca^{2+}動態の検索. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 平成 29 年 9 月 16-18, 塩尻市.
8. 木村麻記、小島佑貴、東川明日香、大山定男、隠田みゆき、安藤正之、河野恭祐、田崎雅和、澁川義幸：象牙芽細胞における高 pH 感受性 store-operated Ca^{2+} entry（SOCE）. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 平成 29 年 9 月 16-18 日, 塩尻市, Journal of Oral Bioscience Supplement, 298, 2017.
9. 井上博之、黒田英孝、一岡理華、木村麻記、佐藤正樹、澁川義幸、田﨑雅和、一戸達也：ラット三叉神経節細胞におけるP2X7受容体の機能検索. 第303回東京歯科大学学会・例会, 平成29年6月3日, 千代田区.
10. Murakami M, Narita T, Hashimoto S, Shibukawa Y, Sato M: Paracellular fluid secretion and microcirculation in the perfused submandibular gland. 第 94 回日本生理学会, 平成 29 年 3 月 28-30 日, 浜松市, The Journal of Physiological Sciences, 67(1): S97, 2017.
11. Kimura M, Sato M, Kojima Y, Higashikawa A, Shiozaki Y, Satou Y, Shigefuji R, Shimada M, Kuroda H, Ogura K, Mochizuki H, Kouno K, Shibukawa Y, Masakazu Tazaki: Alkali- and ADP-sensitive store-operated Ca^{2+} entry (SOCE) mediated by Ca^{2+} release-activated Ca^{2+} (CRAC) channels in rat odontoblasts. 第94回日本生理学会, 平成29年3月28-30日, 浜松市, The Journal of Physiological Sciences, 67(1): S98, 2017.

研究分担者

木村麻記

1. 木村麻記、小島佑貴、東川明日香、佐藤正樹、澁川義幸、田崎雅和：アルカリ感受性 TRP チャネルを介した反応性修復象牙質形成機構の解明、平成 28 年度東京歯科大学口腔科学研究センターワークショップ、平成 29 年 2 月 21 日、東京都、歯科学報, 117(4):284-286, 2017
2. Maki Kimura, Masaki Sato, Yuki Kojima, Asuka Higashikawa, Yuuta Shiozaki, Ryoichi Satou, Reiko Shigefuji, Miyuki Shimada, Hidetaka Kuroda, Kazuhiro Ogura, Hiroyuki Mochizuki, Kyosuke Kouno, Yoshiyuki Shibukawa, Masakazu Tazaki: Alkali- and ADP-sensitive store-operated Ca^{2+} entry (SOCE) mediated by Ca^{2+} release-activated Ca^{2+} (CRAC) channels in rat odontoblasts. 第 94 回日本生理学会大会，平成 29 年 3 月 28-30

日，浜松市，The Journal of Physiological Sciences, 67(1): 98, 2017

3. 木村麻記、小島佑貴、東川明日香、大山定男、隠田みゆき、安藤正之、河野恭祐、田崎雅和、澁川義幸：象牙芽細胞における高 pH 感受性 store-operated Ca^{2+} entry（SOCE）、第 59 回歯科基礎医学会学術大会、平成 29 年 9 月 16-18 日、塩尻市，Journal of Oral Bioscience Supplement, 298, 2017
4. 隠田みゆき、木村麻記、佐藤正樹、東川明日香、小島佑貴、田崎雅和、澁川義幸：三叉神経節ニューロンに対するグアヤコールの鎮痛作用、第 59 回歯科基礎医学会学術大会、平成 29 年 9 月 16-18，塩尻市, Journal of Oral Bioscience Supplement, 431, 2017
5. 井上博之、黒田英孝、小島佑貴、重藤玲子、東川明日香、石川昂、木村麻記、佐藤正樹、澁川義幸、田崎雅和、一戸達也：ラット三叉神経節細胞における P2X7 受容体の発現検索、第 59 回歯科基礎医学会学術大会、平成 29 年 9 月 16-18、塩尻市、Journal of Oral Bioscience Supplement, 307, 2017
6. 小島佑貴、東川明日香、大山定男、河野恭佑、安藤正之、西孝一、黒田英孝、木村麻記、澁川義幸、田崎雅和：ラット三叉神経節グリア細胞の遅延整流型 K^{+}電流、第 59 回歯科基礎医学会学術大会、平成 29 年 9 月 16-18、塩尻市、Journal of Oral Bioscience Supplement, 308, 2017
7. 東川明日香、小島佑貴、寺島　重藤玲子、井上博之、河野恭佑、安藤正之、黒田英孝、木村麻記、澁川義幸、田崎雅和：メルケル細胞-神経細胞間コミュニケーション、第 59 回歯科基礎医学会学術大会、平成 29 年 9 月 16-18、塩尻市、Journal of Oral Bioscience Supplement, 295, 2017
8. 寺島-重藤玲子、東川明日香、小島佑貴、井上博之、川口綾、黒田英孝、木村麻記、澁川義幸、田崎雅和、一戸達也：ラット三叉神経節ニューロンにおけるブラジキニン B 1 受容体を介した Ca^{2+}動態の検索、第 59 回歯科基礎医学会学術大会、平成 29 年 9 月 16-18、塩尻市、Journal of Oral Bioscience Supplement, 311, 2017
9. Inoue Hiroyuki, Kuroda Hidetaka, Ishikawa Noboru, Kimura Maki, Shibukawa Yoshiyuki, Tazaki Masakazu, Ichinohe Tatsuya: Comparison of electrophysiological properties of P2X7 receptors between neurons and glial cells in rat trigeminal ganglion. 第 95 回日本生理学会大会, 平成 30 年 3 月 28-30 日, 高松市, The Journal of Physiological Sciences, 68(1): 170, 2018
10. Kimura Maki, Higashikawa Asuka, Kojima Yuki, Terashima-Shigefuji Reiko, Inoue Hiroyuki, Nagai Sayoko, Kamata Satomi, Shimada Miyuki, Kuroda Hidetaka, Ogura Kazuhiro, Mochizuki Hiroyuki, Kouno Kyosuke, Ando Masayuki, Shibukawa Yoshiyuki, Tazaki Masakazu: Odontoblasts express plasma membrane Ca^{2+}-ATPase 1 and 4. 第 95 回日本生理学会大会, 平成 30 年 3 月 28-30 日, 高松市, The Journal of Physiological Sciences, 68(1): 149, 2018

桜井敦朗

1. 大多和由美、吉田みずき、辻野啓一郎、櫻井敦朗、福田謙一、新谷誠康、池田正一: 障がい者の日帰り全身麻酔下歯科治療に関するアンケート, 第 34 回日本障害者歯科学会、2017 年 10 月 28 日、福岡国際会議場
2. Takashi Arai, Atsuo Sakurai, Hiromi Homma, Nobuko Nagai, Seikou Shintani: The developmental process of oral microbiome in Japanese infants. The 26th Congress of the International Association of Paediatric Dentistry, 2017 年 10 月 4 日, Santiago, Chile
3. 桜井敦朗、本間宏実、富永早紀、田代紋子、辻野啓一郎、新谷誠康: 被虐待児童の口腔内所見　長期にわたる歯科治療を行った一例, 第64回小児保健協会学術集会、2017 年 7 月 1 日、大阪国際会議場
4. 富永早紀、辻野啓一郎、櫻井敦朗、新谷誠康: 歯科大学病院小児歯科における初診患者の実態調査　東京都心と千葉県下の大学病院の比較, 第 64 回小児保健協会学術集

会、2017 年 6 月 30 日、大阪国際会議場

5. 田代紋子、米津卓郎、熊澤海道、櫻井敦朗、新谷誠康: 1 歳 6 ヵ月児および 3 歳児における齲蝕罹患要因に関する研究　特に授乳法と口腔の健康管理に関わる因子について, 第 64 回小児保健協会学術集会、2017 年 6 月 30 日、大阪国際会議場
6. 本間宏美、桜井敦朗、高野紗弥佳、新谷誠康: 交通外傷による上顎 4 切歯喪失後に長期の歯科的対応を行った 1 例, 第 55 回日本小児歯科学会、2017 年 5 月 26 日、西日本総合展示場
7. 東野美晴、桜井敦朗、秋元佐和子、荒井亮、本間宏実、熊澤海道、今井裕樹、辻野啓一郎、米津卓郎、新谷誠康: 千葉県下の大学病院小児歯科における初診患児実態調査, 第 55 回日本小児歯科学会、2017 年 5 月 26 日、西日本総合展示場
8. 富永早紀、岩田美奈子、小鹿裕子、山本絢子、米倉智子、櫻井敦朗、辻野啓一郎、大多和由美、新谷誠康: 2013～2015 年の東京都心における小児歯科初診患児実態調査, 第 55 回日本小児歯科学会、2017 年 5 月 26 日、西日本総合展示場
9. 兼元妙子、桜井敦朗、今井裕紀、藥師寺仁、新谷誠康、Dong Hongwei、Shi Sizhen: 中国上海市における幼稚園児の生活習慣が齲蝕罹患リスクにもたらす影響, 第 55 回日本小児歯科学会、2017 年 5 月 25 日、西日本総合展示場

永井宣子

1. Takashi Arai, Atsuo Sakurai, Hiromi Homma, Nobuko Nagai, Seikou Shintani: The developmental process of oral microbiome in Japanese infants. The 26th Congress of the International Association of Paediatric Dentistry, 2017 年 10 月 4 日, Santiago, Chile

国分栄仁

1. 国分栄仁、菊池有一郎、柴山和子、石原和幸：Response of epithelial cells infected by *Treponema denticola* 、第 91 回日本細菌学総会・第 14 回日韓国際微生物学シンポジウム、2018 年 3 月 27-29 日、福岡国際会議場、福岡
2. 吉川幸輝、喜田大智、菊池有一郎、国分栄仁、山下慶子、北村友里恵、今村健太郎、齋藤淳、石原和幸：*Treponema denticola* に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着の特性、第 304 回東京歯科大学学会・例会、2017 年 10 月 21 日, 東京歯科大学
3. 新居由紀、菊池有一郎、柴山和子、国分栄仁、新谷誠康、石原和幸 : *Treponema denticola* 病原遺伝子欠損株における遺伝子発現調節、第 59 歯科基礎医学会学術大会・総会、2017 年 9 月 16-18 日、松本歯科大学
4. 沼田由美、柴山和子、佐藤亨、菊池有一郎、国分栄仁、石原和幸 : *Treponema denticola* の iron-sulfur cluster-binding protein 調節遺伝子(*icbR*)の機能解析、第 59 歯科基礎医学会学術大会・総会、2017 年 9 月 16-18 日、松本歯科大学

柴山和子

1. Miyai Y, Okamoto-Shibayama K, Sato T, Numata Y, Ishihara K.: Isolation and Characterization of Dentipain in *Treponema denticola*. 95th General Session and Exhibition of the IADR. March 25th, 2017, San Francisco, USA
2. Numata Y, Okamoto-Shibayama K, Sato T, Miyai-Murai Y, Kikuchi Y, Kokubu E, Ishihara K.: Regulation of Gene Expression by marR-like Gene in *Treponema denticola*. 95th General Session and Exhibition of the IADR. March 24th, 2017, San Francisco, USA
3. 国分栄仁，菊池有一郎，柴山和子，石原和幸: *Treponema denticola* の細胞侵入に影響する病原因子の解析、第 90 回日本細菌学会総会、平成 29 年 3 月 19・20 日、仙台国際センター展示棟
4. 菊池有一郎，太田功貴，柴山和子，国分栄仁，齋藤淳，石原和幸: *Porphyromonas gingivalis* の鉄獲得機構における ECF シグマ因子 PGN_0319 の役割、第 90 回日本細菌学会総会、平成 29 年 3 月 19・20 日、仙台国際センター展示棟

菊池有一郎

1. 国分栄仁、菊池有一郎、柴山和子、石原和幸：Response of epithelial cells infected by *Treponema denticola* 、第 91 回日本細菌学総会・第 14 回日韓国際微生物学シンポジウム、2018 年 3 月 27-29 日、福岡国際会議場、福岡
2. 吉川幸輝、喜田大智、菊池有一郎、国分栄仁、山下慶子、北村友里恵、今村健太郎、齋藤淳、石原和幸：*Treponema denticola* に対する *Porphyromonas gingivalis* Hgp44 の付着の特性、第 304 回東京歯科大学学会・例会、2017 年 10 月 21 日，東京歯科大学
3. 新居由紀、菊池有一郎、柴山和子、国分栄仁、新谷誠康、石原和幸：*Treponema denticola* 病原遺伝子欠損株における遺伝子発現調節、第 59 歯科基礎医学会学術大会・総会、2017 年 9 月 16-18 日、松本歯科大学
4. 沼田由美、柴山和子、佐藤亨、菊池有一郎、国分栄仁、石原和幸：*Treponema denticola* の iron-sulfur cluster-binding protein 調節遺伝子(*icbR*)の機能解析、第 59 歯科基礎医学会学術大会・総会、2017 年 9 月 16-18 日、松本歯科大学

ファブラボ
推進委員会委員
片倉　朗

1. 太尾英子、菅原圭亮、別所央城、松坂賢一、片倉朗：口腔粘膜蛍光観察の病理組織学的検証. 第 3 回口腔粘膜蛍光観察研究会, 2017 年 3 月 11 日，東京.
2. Teruhide Hoshino, Akira Katakura : Can the masseter muscle experience progressive muscle atrophy due to aging?. 95th General Session & Exhibition of the IADR,46th Annual Meeting of the AADR,41st Annual Meeting of the CADR, 2017 年 3 月 25 日, San Francisco.
3. Yoshiharu Katsumi, Kazuhiro Ito, Keisuke Sugahara, Satoru Matsunaga, Kento Odaka, Keisuke Mitomo, Shinichi Abe, Masayuki Takano, Akira Katakura: Technical report of new condyle repositioning method in 3D Model. 95th General Session & Exhibition of the IADR,46th Annual Meeting of the AADR,41st Annual Meeting of the CADR, 2017年3月25日, San Francisco.
4. 辛麻由，加藤禎彬，小山拓洋，布施俊，住吉美咲，西山明宏，関根理予，大野啓介，吉田秀児，高木亮，菅原圭亮，別所央城，山本信治，渡邉章，笠原清弘，髙野正行，齊藤力，柴原孝彦，片倉朗：東京歯科大学水道橋病院口腔外科における 2016 年度初診患者の臨床的検討. 第 304 回東京歯科大学学会(総会), 2017 年 10 月 21-22 日，東京都，歯科学報 117(5); 419，第 304 回東京歯科大学学会(総会)プログラム; 18.
5. 三邉正樹，秋山友里恵，片倉朗，高橋慎一，立川哲郎，河野通良，野村武史：セツキシマブによる口腔癌の治療効果におけるデスモグレイン 3 の関与についての検討. 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2017 年 10 月 20-22 日，京都府，日本口腔外科学会誌 総会特別号(Vol.63); 203.
6. 小谷地雅秀，西山明宏，別所央城，片倉 朗：シリコーンによるオトガイ豊隆部の感染に対してオトガイ形成術を行った 1 例. 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2017 年 10 月 20-22 日，京都府，日本口腔外科学会誌 総会特別号(Vol.63); 242.
7. 前山恵理，大野啓介，住吉美咲，大金覚，別所央城，山本信治，髙野正行，片倉朗，齊藤力，柴原孝彦：当科を受診した口腔がん患者の臨床的検討～Tumor budding による予後予測～. 第 62 回日本口腔外科学会総会･学術大会, 2017 年 10 月 20-22 日，京都府，日本口腔外科学会誌 総会特別号(Vol.63); 225.
8. 小坂井絢子，本田健太郎，関川翔一，齋藤寛一，大金覚，髙野正行，野村武史，片倉朗，柴原孝彦，髙野伸夫：cN0 口腔扁平上皮癌における潜在性頸部リンパ節転移の臨床的検討. 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2017 年 10 月 20-22 日，京都府，日本口腔外科学会誌 総会特別号(Vol.63); 281.

9. 菅原圭亮，太尾英子，別所央城，中島 啓，松坂賢一，片倉朗：口腔粘膜蛍光観察の病理組織学的検証. 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2017 年 10 月 20-22 日, 京都府, 日本口腔外科学会誌 総会特別号(Vol.63); 313.
10. 大金覚，関川翔一，小坂井絢子，齋藤寛一，髙野正行，野村武史，片倉朗，柴原孝彦，髙野伸夫：口腔扁平上皮癌における重複癌の臨床的検討. 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2017 年 10 月 20-22 日, 京都府, 日本口腔外科学会誌 総会特別号(Vol.63); 370.
11. 小石沢理央，西山明宏，村山雅人，前山恵理，藤本侑子，有泉高晴，片倉朗，佐々木研一，柴原孝彦，矢島安朝：本学「急性期神経機能修復外来」開設後 6 年間の手術症例の検討.第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 2017 年 10 月 20-22 日, 京都府, 第 62 回日本口腔外科学会総会・学術大会プログラム・抄録集; 88, 日本口腔外科学会誌 総会特別号(Vol.63); 386.
12. 小石沢理央，西山明宏，村山雅人，前山恵理，藤本侑子，有泉高晴，片倉朗，佐々木研一，柴原孝彦，矢島安朝：本学「急性期神経機能修復外来」開設後 6 年間の手術症例の検討. 第 19 回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会, 2017 年 7 月 29 日, 北海道, 日本口腔顎顔面外傷学会誌 Vol.16, No2 ;87.
13. 井本大智，大野啓介，片倉朗，髙野正行，齊藤力，柴原孝彦：診断に苦慮した IgG4 関連疾患 Mikulicz 病の 1 例. 第 27 回日本口腔内科学会, 第 30 回日本口腔診断学会合同学術大会, 2017 年 9 月 8-9 日, 北海道, 第 27 回日本口腔内科学会, 第 30 回日本口腔診断学会合同学術大会プログラム・抄録集; 161.
14. 太尾英子，菅原圭亮，別所央城，松坂賢一，片倉朗：口腔粘膜蛍光観察装置の病理組織学的検証. 第 27 回日本口腔内科学会, 第 30 回日本口腔診断学会合同学術大会, 2017 年 9 月 8-9 日, 北海道, 第 27 回日本口腔内科学会, 第 30 回日本口腔診断学会合同学術大会プログラム・抄録集; 176.
15. 加藤禎彬，西山明宏，小山侑，太尾英子，大野啓介，柴原孝彦，片倉朗：口蓋部に生じた白板症の 2 例. 第 51 回 NPO 法人日本口腔科学会関東地方会, 2017 年 9 月 30 日, 東京都, 第 51 回 NPO 法人日本口腔科学会関東地方会プログラム・抄録集; 24
16. 和田朗，渡邉章，大野啓介，関根理予，吉田秀児，菅原圭亮，笠原清弘，髙野正行，片倉朗，齊藤力，柴原孝彦：外科矯正手術における術中出血量に関する臨床統計的検討. 第 27 回日本顎変形症学会, 2017 年 6 月 15-16 日, 東京都, 日本顎変形症学会雑誌 27(2).2017; 106.
17. 小谷地雅秀，西山明宏，菅原圭亮，渡邉章，笠原清弘，髙野正行，柴原孝彦，片倉朗：Skeletal Class　不正咬合における顎変形症の下唇知覚障害について. 第 27 回日本顎変形症学会, 2017 年 6 月 15-16 日, 東京都, 日本顎変形症学会雑誌 27(2).2017; 106.
18. 菅原圭亮，太尾英子，勝見吉晴，小山侑，小谷地雅秀，別所央城，笠原清弘，渡邉章，髙野正行，齊藤力，柴原孝彦，片倉朗：下顎枝矢状分割での異常骨折(Bad split)症例の検討. 第 27 回日本顎変形症学会, 2017 年 6 月 15-16 日, 東京都, 日本顎変形症学会雑誌 27(2).2017; 107.
19. 吉田秀児，別所央城，片倉朗：三次元シミュレーションソフトを用いた新たな臨床実習－口腔外科手術の術式の理解のために－. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2017 年 7 月 28-29 日, 長野県, 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集; 97.
20. 別所央城，西山明宏，菅原圭亮，高木亮，笠原清弘，片倉朗：抜歯の教育用シミュレーターの開発. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会・学術大会, 2017 年 7 月 28-29 日, 長野県, 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集; 112.

21. 西山明宏，小谷地雅秀，小石沢理央，前山恵理，有泉高晴，藤本侑子，佐々木研一，柴原孝彦，片倉朗：舌神経損傷症例に神経再生誘導チューブを使用した 1 例. 第 203 回日本口腔外科学会関東支部学術集会, 2017 年 5 月 27 日，東京都，第 203 回日本口腔外科学会関東支部学術集会プログラム・収録集; 10.
22. 関川翔一，小坂井絢子，齋藤寛一，大金覚，髙野正行,野村武史，片倉朗，柴原孝彦，髙野伸夫：東京歯科大学口腔がんセンターにおける患者動向－10 年間の臨床的検討－. 第 303 回東京歯科大学学会(例会), 2017 年 6 月 3 日，東京都，歯科学報 117(3); 263, 第 303 回東京歯科大学学会(総会)プログラム; 22.
23. 星野照秀，小山侑，片倉朗：当科における直接経口抗凝固薬(DOAC)服用患者の歯科小手術に関する検討. 第 37 回日本歯科薬物療法学会学術大会, 2017 年 6 月 17 日，愛知県，第 37 回日本歯科薬物療法学会学術大会プログラム・抄録号; 75，歯科薬物療法学会雑誌 36(2); 75.
24. 大野啓介，前山恵理，関根理予，小坂井絢子，太尾英子，菅原圭亮，別所央城，髙野正行，齊藤力，野村武史，片倉朗，柴原孝彦：口腔蛍光観察装置と画像解析ソフトを使用した口腔粘膜疾患の診断方法. 第 71 回日本口腔科学会学術集会, 2017 年 4 月 26-28 日，愛媛県，第 71 回日本口腔科学会学術集会プログラム・抄録集; 180.
25. 永井佐代子，山村哲生，別所央城，柴原孝彦，片倉朗：下顎切痕から側頭窩におよぶ軟組織に再発したエナメル上皮腫の 1 例. 第 71 回日本口腔科学会学術大会, 2017 年 4 月 26-28 日，愛媛県，第 71 回日本口腔科学会学術集会プログラム・抄録集; 292.
26. Yoshiharu Katsumi, Keisuke Sugawara, Masahide Koyachi, Satoru Matsunaga, Kento Odaka, Keisuke Mitomo, Shinichi Abe, Masayuki Takano, Akira Katakura : Technical report of new condylar repositioning method in 3D Model. 第 3 回日本顎顔面再建先端デジタルテクノロジー学会, 2017 年 11 月 26 日，東京都，第 3 回日本顎顔面再建先端デジタルテクノロジー学会 プログラム・抄録集; 32.

吉成正雄

1. 松永智、是澤和人、小高研人、吉成正雄、飯村忠浩、山口朗、中野貴由、阿部伸一：ヒト歯科インプラント周囲顎骨における構造特性. 第 37 回日本骨形態計測学会, 2017 年 6 月 24 日，大阪国際会議場.
2. 田中健介，染屋智子，笠原正彰，大山貴司，武本真治，吉成正雄，服部雅之：間接修復用コンポジットレジンと牛歯エナメル質との摩耗挙動. 第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 2017 年 10 月 14 日，朱鷺メッセ.
3. 笠原正彰，染屋智子，五十嵐俊男，愛知徹也，市川弘道，吉成正雄，服部雅之：微小領域 X 線回折法を用いたヒト上顎皮質骨の BAp 結晶配向性解明. 第 70 回日本歯科理工学会学術講演会, 2017 年 10 月 15 日（日），朱鷺メッセ.
4. 松永智，是澤和人，奥寺元，鈴木正史，吉成雄，矢島安朝，阿部伸一：インプラント周囲顎骨に新生されたオステオンの構造特性. 第 47 回日本口腔インプラント学会学術大会, 2017 年 9 月 23 日，仙台国際センター.
5. 古屋克典，松崎文頼，高梨琢也，田口達夫，武本真治，山下秀一郎，吉成正雄，矢島安朝：高強度ジルコニアの低温劣化特性. 第 47 回日本口腔インプラント学会学術大会, 2017 年 9 月 23 日，仙台国際センター.
6. 中島孝輔，松永智，古川丈博，岩田優行，森岡俊行，吉成正雄，矢島安朝：尾部懸垂による負荷減少がマウス大腿骨の生体アパタイト（BAp）結晶配向性に与える影響. 第 47 回日本口腔インプラント学会学術大会, 2017 年 9 月 23 日，仙台国際センター.
7. Yoshinari M.: Influence of osteogenic differentiation medium on hMSCs in 3D-culture with radial flow bioreactor. TERMIS (Tissue Engineering and Regenerative Medicine International Society) EU 2017, 2017 年 6 月 28 日, Davos, Switzerland.

8. Yoshinari M, Takemoto S, Noro A.: Adsorption characteristics of fibronectin and CXCL12 onto super-hydrophilic titanium. 95th General Session & Exhibition of the IADR, 2017 年 3 月 24 日, San Francisco, Calif., USA.

阿部伸一

1. 永倉遼太郎, 廣内英智, 奈良倫之, 山本将仁, 松永智, 阿部伸一：胎生期マウス外側翼突筋停止部における付着機序の解明. The 122nd Annual Meeting of the Japanese Association of Anatomists, Page127(2017.03), 第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 長崎市.
2. 北村啓, 山本将仁, 石川昂, 阿部伸一, 山本仁：軟口蓋滑車構造形成における組織間作用の解明. The 122nd Annual Meeting of the Japanese Association of Anatomists, Page187(2017.03), 第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 長崎市.
3. 小川雄大, 森田純晴, 山本将仁, 松永智, 阿部伸一：筋再生過程における Tcf4 の発現に関する免疫組織化学的検索. The 122nd Annual Meeting of the Japanese Association of Anatomists, Page189(2017.03), 第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会, 長崎市.
4. 永倉遼太郎, 山本将仁, 北村啓, 山本仁, 阿部伸一：“筋・腱・骨：機能的複合体”発生過程における Sox 9 の局在に関する免疫組織化学的検索. 第 303 回東京歯科大学学会・例会プログラム Page16(2017.06), 第 303 回東京歯科大学学会例会, 千代田区.
5. 矢島麗, 山本将仁, 小髙研人, 松永智, 阿部伸一：筋皮神経の走行形態が上腕二頭筋と上腕筋の形態形成に及ぼす影響. 第 303 回東京歯科大学学会・例会プログラム Page22(2017.06), 第 303 回東京歯科大学学会例会, 千代田区.
6. 高田博雅, 山本将仁, 廣内英智, 奈良倫之, 小髙研人, 松永智, 北村啓, 山本仁, 阿部伸一：マウス系統による蝶形骨翼状突起の形態形成の差異について. 第 303 回東京歯科大学学会・例会プログラム Page23(2017.06), 第 303 回東京歯科大学学会例会, 千代田区.
7. 阿部伸一, 松永智, 山本将仁, 小髙研人：歯の形態を理解するための CAD 実習. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, Page113(2017.07), 第 36 回日本歯科医学教育学会, 松本市.
8. 小髙研人, 山本将仁, 松永智, 阿部伸一：歯型彫刻と PC 上で作成させた歯に関する評価の比較. 第 36 回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, Page40(2017.07), 第 36 回日本歯科医学教育学会, 松本市.
9. 白石康博, 山本将仁, 廣内英智, 森田純晴, 小髙研人, 松永智, 阿部伸一：ヒト胎生期における大殿筋, 大腿二頭筋および腸脛靭帯に関する発生形態. 第 304 回東京歯科大学学会・総会プログラム Page10(2017.10), 第 304 回東京歯科大学学会総会, 千代田区.
10. 石束叡, 山本将仁, 永倉遼太郎, 廣内英智, 森田純晴, 阿部伸一：ヒト胎生期における耳神経節と翼口蓋神経節に関する発生形態学的研究. 第 304 回東京歯科大学学会・総会プログラム Page10(2017.10), 第 304 回東京歯科大学学会総会, 千代田区.
11. 橋本圭史, 山本将仁, 小林功明, 廣内英智, 小髙研人, 松永智, 北村啓, 山本仁, 大久保真衣, 石田瞭, 阿部伸一：高齢者の輪状工場関節および輪状披裂関節に関する組織学的研究. 第 304 回東京歯科大学学会・総会プログラム Page11(2017.10), 第 304 回東京歯科大学学会総会, 千代田区.
12. 青木一充, 松永智, 是澤和人, 小髙研人, 山本将仁, 吉成正雄, 矢島安朝, 山口朗, 阿部伸一：口腔インプラント近傍に新生された骨組織の構造特性. 第 304 回東京歯科大学学会・総会プログラム Page12(2017.10), 第 304 回東京歯科大学学会総会,千代田区.
13. 北村啓, 永倉遼太郎, 山本将仁, 石川昂, 阿部伸一, 山本仁：下顎頭における外側翼突筋付着メカニズムの解明. 第 105 回日本解剖学会関東支部学術集会講演要旨集

Page11(2017.11), 第 105 回日本解剖学会関東支部学術集会, 千代田区.

14. 小林功明, 山本将仁, 松永智, 森田純晴, 永倉遼太郎, 是澤和人, 石束叡, 青木一充, 阿部伸一：ヒト拇指および指におけるファーター・パチニ小体の局在：胎生期と高齢者の比較. 第 105 回日本解剖学会関東支部学術集会講演要旨集 Page20(2017.11), 第 105 回日本解剖学会関東支部学術集会, 千代田区.
15. 小川雄大, 山本将仁, 小髙研人, 廣内英智, 奈良倫之, 是澤智久, 内藤哲, 橋本圭史, 阿部伸一：ヒト膀胱におけるリンパ管の走行：膀胱癌手術時の危険部位に関する臨床解剖学的基盤研究. 第 105 回日本解剖学会関東支部学術集会講演要旨集 Page21(2017.11), 第 105 回日本解剖学会関東支部学術集会, 千代田区.
16. Okano H, Tasaka A, Unno C, Ryu M, Odaka K, Matsunaga S, Abe S, Sakurai K, Yamashita S.: Comparison of Artificial Teeth Arrangement Position of Fabricated Denture between Heat-curing and Additive manufacturing. 2017 CED-IADR/NOF Oral Health Research Congress September 23th 2017 Vienna Austria.

松永　智

1. 森田純晴、松永智、森石武史、阿部伸一、山口朗：アフリカツメガエル長管骨の造血は骨芽細胞性ニッチ優位に維持されている. 第 37 回日本骨形態計測学会, 2017 年 6 月 23 日, 大阪国際会議場
2. 松永智、是澤和人、小髙研人、吉成正雄、飯村忠浩、山口朗、中野貴由、阿部伸一：ヒト歯科インプラント周囲顎骨における構造特性. 第 37 回日本骨形態計測学会, 2017 年 6 月 24 日, 大阪国際会議場.
3. 笠原正彰、松永智、小髙研人、石本卓也、中野貴由、染屋智子、田中健介、吉成正雄、阿部伸一、服部雅之：微小領域エックス線回折法によるヒト上顎骨のナノ構造特性解明. 第 37 回日本骨形態計測学会, 2017 年 6 月 23 日, 大阪国際会議場.
4. 古川丈博、松永智、岩田優行、森岡俊行、吉成正雄、阿部伸一、中野貴由、矢島安朝：ヒト無歯下顎骨前歯部皮質骨における生体アパタイト結晶配向性. 第 37 回日本骨形態計測学会, 2017 年 6 月 23 日, 大阪国際会議場.
5. 小髙研人、松永智、森田純晴、三友啓介、吉成正雄、石本卓也、中野貴由、阿部伸一：歯科インプラント周囲皮質骨における生体アパタイト結晶配向性. 第 37 回日本骨形態計測学会, 2017 年 6 月 23 日, 大阪国際会議場.
6. 岡野日奈、田坂彰規、小泉ちあき、竜正大、小髙研人、松永智、阿部伸一、櫻井薫、山下秀一郎：加熱重合および積層造形で製作した義歯の人工歯排列位置の比較.
7. 上窪祐基、田坂彰規、西根万純、高梨琢也、本間慎也、松永智、阿部伸一、山下秀一郎：遊離端欠損部顎堤粘膜に対する光学印象の精度検証 第 2 報 補綴臨床経験の差による比較. 日本補綴歯科学会第 126 回学術大会, 2017 年 7 月 1 日, パシフィコ横浜.
8. 阿部伸一、松永智、山本将仁、小髙研人：歯の形態を理解するための CAD 実習. 第 36 回日本歯科医学教育学会学術大会, 2017 年 7 月 28 日, 松本市中央公民館.
9. 是澤和人、松永智、小髙研人、森田純晴、廣内英智、飯村忠浩、阿部伸一：歯科インプラント埋入後に新生されたオステオンの構造特性. 第 59 回歯科基礎医学会学術大会, 2017 年 9 月 17 日, 松本歯科大学キャンパス.
10. 松永智、是澤和人、奥寺元、鈴木正史、吉成正雄、矢島安朝、阿部伸一：インプラント周囲顎骨に新生されたオステオンの構造特性. 第 47 回日本口腔インプラント学会学術大会, 2017 年 9 月 23 日, 仙台国際センター.
11. 青木一充、松永智、是澤和人、小髙研人、山本将仁、吉成正雄、矢島安朝、山口朗、阿部伸一：口腔インプラント近傍に新生された骨組織の構造特性. 第 304 回東京歯科大学学会, 2017 年 10 月 21 日, 東京歯科大学.
12. 吉田秀児、小髙研人、海老澤朋宏、安村敏彦、大野啓介、高梨琢也、渡邊章、山本

伸治、松永智、西井康、斎藤力、阿部伸一、末石研二、柴原孝彦：Dental Lab System の改変と脱 Model Surgery への挑戦. 第 3 回日本顎顔面再建先進デジタルテクノロジー学会学術大会, 2017 年 11 月 26 日, 東京歯科大学.

13. Katsumi Y, Sugahara K, Koyachi M, Matsunaga S, Odaka K, Mitomo K, Abe S, Takano M, Katakura A.: Technical report of new condylar repositioning method in 3D Model. 第 3 回日本顎顔面再建先進デジタルテクノロジー学会学術大会, 2017 年 11 月 26 日, 東京歯科大学.
14. 西川航矢、高野直樹、松永智、本間慎也、矢島安朝：歯科インプラントのサイナスリフトを模擬した洞底粘膜の力学的試験. 日本機械学会第 28 回バイオフロンティア講演会, 2017 年 10 月 28 日, 徳島大学.
15. 西川航矢、高野直樹、松永智、本間慎也、矢島安朝：上顎インプラント手術において洞底粘膜に生じるひずみ分布の予測. 日本機械学会 M&M2017 材料力学カンファレンス, 2017 年 10 月 9 日, 北海道大学.
16. Okano H, Tasaka A, Unno C, Ryu M, Odaka K, Matsunaga S, Abe S, Sakurai K, Yamashita S.: Comparison of Artificial Teeth Arrangement Position of Fabricated Denture between Heat-curing and Additive manufacturing. 2017 CED-IADR/NOF Oral Health Research Congress September 23th 2017 Vienna Austria.

研究分担者

小高研人

1. 小髙研人, 松永智, 森田純晴, 三友啓介, 吉成正雄, 石本卓也, 中野貴由, 阿部伸一：歯科インプラント周囲顎骨における生体アパタイト結晶配向性、第 37 回骨形態計測学会、2017 年 6 月、大阪市
2. 小髙研人, 山本将仁, 松永智, 阿部伸一: 歯型彫刻と PC 上で作成させた歯に関する評価の比較、第 36 回日本歯科医学教育学会、2017 年 7 月、松本市
3. 小髙研人, 是沢和人, 松永智, 阿部伸一：デジタルファブリケーションを用いた顎骨模型の精度検証、第123回日本解剖学会総会・学術集会、2018年3月、武蔵野市

笠原正彰

1. 笠原正彰、染屋智子、五十嵐俊男、愛知徹也、市川弘道、吉成正雄、服部雅之：微小領域Ｘ線回折法を用いたヒト上顎皮質骨のＢＡｐ結晶配向性解明、第 70 回日本歯科理工学会、2017 年 10 月 15 日、朱鷺メッセ
2. 笠原正彰、松永智、小高研人、石本卓也、中野貴由、染屋智子、田中健介、吉成正雄、阿部伸一、服部雅之：微小領域エックス線回折法によるヒト上顎骨のナノ構造特性解明、第 37 回日本骨形態計測学会、2017 年 6 月 24 日、大阪国際会議場

菅原圭亮

1. Katsumi Y, Sugahara K, Koyachi M, Matsunaga S, Odaka K, Mitomo K, Abe S, Takano M, Katakura A: Technical report of new condylar repositioning method in 3D Model. 3th JADT, Tokyo Japan, 2017 年 11 月 26 日
2. 菅原圭亮、太尾英子、別所央城、中島 啓、松坂賢一、片倉朗: 口腔粘膜蛍光観察の病理組織学的検証, 第 62 回　日本口腔外科学会学術大会･総会､2017 年 10 月 20 日、京都国際会議場, 優秀ポスター賞受賞
3. 太尾英子, 菅原圭亮, 別所央城, 松坂賢一, 片倉朗: 口腔粘膜蛍光観察装置の病理組織学的検証, 第 27 回　日本口腔内科学会　第 30 回口腔診断学会　合同学術大会、2017 年 9 月 8 日、北海道大学学術交流会館
4. 菅原圭亮、太尾英子、勝見吉晴、小山侑、小谷地雅秀、別所央城、笠原清弘、渡邊 章、髙野正行、齊藤力、柴原孝彦、片倉 朗: 下顎枝矢状分割術での異常骨折(Bad split)症例の検討、第 27 回日本顎変形症学会、2017 年 6 月 16 日、東京ビックサイト
5. 小谷地雅秀、西山明宏、菅原圭亮、渡邊章、笠原清弘、高野正行、柴原孝彦、片倉

朗: Skeletal Class II 不正咬合者における顎矯正手術後の下唇知覚障害について、第 27 回日本顎変形症学会、2017 年 6 月 16 日、東京ビックサイト

小谷地雅秀

1. 小谷地雅秀、西山明宏、菅原圭亮、渡邊章、笠原清弘、高野正行、柴原孝彦、片倉朗：Skeltal Class　不正咬合者における顎矯矯正術の下唇知覚障害について，第27回日本顎変形症学会総会・学術大会,平成29年6月15日,6月16日,東京ビッグサイトTFTホール
2. 小谷地雅秀、西山明宏、別所央城、片倉朗：シリコーンによるオトガイ豊隆術の感染に対しオトガイ形成術を行った1例，第62回日本口腔外科学会総会･学術大会，平成29年10月20日,10月21日,10月22日，国立京都国際会館

中島孝輔

1. 中島孝輔、松永智、古川丈博、岩田優行、森岡俊之、吉成正雄、矢島安朝：尾部懸垂による負荷減少がマウス大腿骨の生体アパタイト(BAp)結晶配向性に与える影響、第 47 回日本口腔インプラント学会、2017 年 9 月 23 日、仙台国際センター
2. 中島孝輔、松永智、古川丈博、岩田優行、森岡俊之、吉成正雄、矢島安朝：尾部懸垂による負荷減少がマウス大腿骨の生体アパタイト(BAp)結晶配向性に与える影響、第 304 回東京歯科大学学会、2017 年 10 月 21 日、東京歯科大学水道橋校舎　新館
3. 中島孝輔、松永智、古川丈博、岩田優行、森岡俊之、矢島安朝：尾部懸垂による負荷減少がマウス大腿骨の生体アパタイト結晶配向性に与える影響、第 21 回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会、2017 年 12 月 9 日、富山国際会議場

中島一憲

1. 齋藤真帆，松田祐明，西野仁泰，鈴木義弘，河野克明，中島一憲，武田友孝: 支台歯形成時の術者の診療姿勢の違いが筋活動･座位バランスおよび作業精度に及ぼす影響, 平成 29 年度日本補綴歯科学会東京支部総会・第 21 回学術大会，H29.12.2-3，東京歯科大学水道橋校舎（東京都）
2. 片野勝司，木下理恵，西野仁泰，鈴木義弘，中島一憲，武田友孝: 第 66 回全国高等学校スキー大会アルペンスキー競技における外傷に関する調査 第 2 報：顎口腔系，頭頸部外傷について，第 28 回日本臨床スポーツ医学会学術集会，H29.11.18-19，国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）
3. 中島一憲，武田友孝: 咀嚼回数計測装置の測定精度について（その 4），第 36 回日本小児歯科学会 中部地方会大会, ホクト文化ホール，平成 29 年 10 月 22 日，長野市，第 36 回日本小児歯科学会 中部地方会大会プログラム・抄録集, 38
4. 西野仁泰，中島一憲，片野勝司，武田友孝，柏木 悠，船戸和男: カウンタームーブメントジャンプ時における筋活動について（第 2 報），第 30 回日本トレーニング科学会，日本体育大学 東京・世田谷キャンパス，平成 29 年 10 月 7-8 日，東京都，第 30 回日本トレーニング科学会大会プログラム・抄録集, 59
5. 片野勝司，西野仁泰，中島一憲，武田友孝: アルペンスキー競技における頭頸部外傷に関する調査－第 66 回全国高等学校スキー大会において－，第 30 回日本トレーニング科学会, 日本体育大学 東京･世田谷キャンパス，平成 29 年 10 月 7-8 日, 東京都，第 30 回日本トレーニング科学会大会プログラム・抄録集, 71
6. 西野仁泰，松田祐明，鈴木義弘，河野克明，川上良明，佐藤武司，高山和比古，紺野倫代, 小澤卓充, 中島一憲, 武田友孝: マウスガード装着が垂直跳びに及ぼす影響，日本補綴歯科学会 第 126 回学術大会, パシフィコ横浜，平成 29 年 6 月 30 日-7 月 2 日，横浜市，日本補綴歯科学会 第 126 回学術大会プログラム・抄録集, 56
7. 中島一憲，松田祐明，西野仁泰，鈴木義弘，河野克明，川上良明，紺野倫代，小澤卓充，澁澤真美，島田 淳，武田友孝: 咀嚼回数計測装置「リズミカム」の測定精度について（その 2），日本補綴歯科学会 第 126 回学術大会，パシフィコ横浜，平成 29 年 6 月 30 日-7 月 2 日，横浜市，日本補綴歯科学会 第 126 回学術大会プログラム・抄

録集, 57

8. 山崎豪，河野克明，中島一憲，鈴木義弘，西野仁泰，石上恵一，武田友孝: 実験的下顎偏位が歩行に及ぼす影響 第 5 報：骨格筋モデル解析による歩行中の転倒リスクに関するバイオメカニクス的検討, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会, 札幌市教育文化会館, 平成 29 年 6 月 17-18 日，札幌市, 本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会・学術大会プログラム・抄録集, 65
9. 桑原涼子，上原宏樹，山延 健，松田祐明，西野仁泰，河野克明，鈴木義弘，紺野倫代，片野勝司，中島一憲，武田友孝: 繰り返される温度変化がマウスガード材料に与える影響, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会, 札幌市教育文化会館, 平成 29 年 6 月 17-18 日，札幌市, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会・学術大会プログラム・抄録集, 67
10. 松田祐明，西野仁泰，齋藤真帆，河野克明，鈴木義弘，長谷川賢，三島 攻，額賀英之, 中島一憲, 武田友孝: ハード＆スペースマウスガードへの光重合型レジンの応用, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会，札幌市教育文化会館, 平成 29 年 6 月 17-18 日, 札幌市, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会・学術大会プログラム・抄録集, 72
11. 片野勝司，武田友孝，松田祐明，西野仁泰，鈴木義弘，河野克明，中島一憲，木下理恵: 第 66 回全国高等学校スキー大会における頭頸部外傷に関する調査（アルペンスキー競技において), 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会, 札幌市教育文化会館, 平成 29 年 6 月 17-18 日，札幌市, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会・学術大会プログラム・抄録集, 88
12. 西野仁泰，松田祐明，齋藤真帆，鈴木義弘，河野克明，高山和比古，梶間孝樹，中島一憲，武田友孝，柏木 悠，船戸和男: カウンタームーブメントジャンプ時における筋活動について, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会，札幌市教育文化会館, 平成 29 年 6 月 17-18 日，札幌市, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会・学術大会プログラム・抄録集, 144
13. 中島一憲，松田祐明，齋藤真帆，西野仁泰，鈴木義弘，河野克明，川上良明，紺野倫代，小澤卓充，澁澤真美，島田 淳，佐藤武司，武田友孝: 咀嚼回数計測装置「リズミカム」の測定精度について（その 3），日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会，札幌市教育文化会館, 平成 29 年 6 月 17-18 日，札幌市, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会・学術大会プログラム・抄録集, 151
14. 片野勝司，武田友孝，松田祐明，西野仁泰，鈴木義弘，河野克明，中島一憲，木下理恵: 第 66 回全国高等学校スキー大会におけるマウスガードに関する調査（アルペンスキー競技において），日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会, 札幌市教育文化会館, 平成 29 年 6 月 17-18 日，札幌市, 日本スポーツ歯科医学会 第 28 回総会・学術大会プログラム・抄録集, 154

受賞・表彰

山口　朗

1. 平成29年度　日本骨代謝学会学会賞

阿部伸一

1. 本摂食嚥下リハビリテーション学会奨励賞『高齢者の輪状甲状関節に関する組織学的研究』

鈴木瑛一

1. Osteology Japan 2017 Poster Presentation Basic Research 部門 最優秀賞

Ⅵ. 外部評価報告書の概要

平成 29 年度東京歯科大学研究ブランディング事業
外部評価報告書

１. 総括

「包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現」と我が国が世界の先頭を切って直面する急速な高齢化社会の問題に対して健康長寿社会の実現といった内容に目的が明確化された。なかでも顎口腔機能回復に外せない重要なプロジェクトである咀嚼・嚥下が前回申請の 3 つの重要な顎骨を中心とした先端研究に追加され，4 つのプロジェクトが癒合した事業となった。そのため世界展開型の採択に相応しい内容となり，また東京歯科大学のブランド力を国内外に示すことが出来る事業に進化したと思われる。ただ，タイプ B の要件である世界展開型に関しては，海外大学との研究連携と国際誌での公表の促進という戦略が示されているが，世界展開，国際化に関しては，この事業としての今後の道筋の具体化が必要だと思われる。また本事業とは直接は関係しないが，人材育成においては内地留学など人的交流により，歯科大学という枠だけでなく，医学・理工学領域で研鑽を積んだ人材を育て，歯科領域での活躍を促進することや，大学院生や若手研究者にセミナーを企画させるなど研究マインドに関する方策についての提案があった。

今回の外部評価委員会では，すでに採択された事業についての評価であったために，主に具体的な研究内容や進捗状況についての議論がなされた。本年度は 4 つのプロジェクトのうち 3 つについて発表されたが，いずれのプロジェクトも研究内容の質の高さも進捗状況も順調で，国際誌の論文数やインパクトファクターの指標にも現れており高く評価される。また個別のプロジェクトの内容についての意見が多くでたが，いずれも共同研究や研究内容の新提案であり，外部委員の関心の深さが伺われると同時に事業の発展を示唆するものと考えられる。一方，同窓会などを通じた事業展開や発信についての具体的な連携については，事業開始の初年度でありまだ未知数であるが，研究の進捗により随時，明確化されていくものと期待する。

２. 具体的な評価内容

１） 本学の研究ブランディング力強化への貢献について

- 内容が充実されて実質を伴ったブランディング事業になっている。
- 顎骨疾患というタイトルは適切なネーミングと再認識できた。特に臨床と基礎の両者を橋渡しできるテーマであり，これをキーワードにして学内で研究を展開されるということは素晴らしいアイデアだと評価する。

・ 目的が「包括的な顎口腔機能回復によるサステナブルな健康長寿社会の実現」と非常に明確化され、そこに東京歯科大学の強みである「顎骨疾患」を中核において研究プロジェクトが組まれていることでブランディング力強化につながっている。
・ タイプ B の採択であり，国際化ということも含めて展開していく必要がある。まずは学内でそういった基盤を強化し、その次に地域あるいは全国的なネットワーク，さらにそこから国際展開していくことになるが，今後の道筋について具体化することでより魅力的な事業となると思われる。
・ 昨年の評価では，顎骨疾患は歯科のイメージとして弱い気がしたが、採択されて顎骨疾患で良かったと思われる。
・ 新しく加わった咀嚼・嚥下は，歯学の中で外せない重要なプロジェクトである。今回の咀嚼・嚥下を加えた 4 つプロジェクトの癒合は，ブランディング事業の今後のさらなる発展を期待させる。
・ 一般的な歯科疾患に関しては、9000 人の同窓会会員の病診連携も含めた内容を展開でき，希少疾患に関しては、トランスレーショナルリサーチで、三つの病院、水道橋病院、千葉病院、市川総合病院なども含めた医科歯科連携の中での希少疾患の解析という全学的なトライアルができる。非常にバランスのいいプロジェクトと評価でき，この包括的な健康長寿社会の実現に向けたブランド力のある素晴らしいテーマとなった。
・ 一般歯科疾患に将来、貢献できる非常に素晴らしい研究テーマと思いました。

２） 研究進捗状況について

・ 研究進捗状況は順調で長足に研究が進んでいることが確認された。また各プロジェクトともに論文の数も増えていることから業績が上がってきていると評価できる。
以下，各プロジェクトに関しての評価内容を示す。

分子・細胞生物ラボ

・ 本プロジェクト研究は，我々（慶応大学）も協力をしているが，我々は cranial neural crest 関連疾患を解析している。東京歯科大学で取扱っている疾患が慶應大学病院小児科でカバーしている疾患とは違っていて補完的な関係でいいと思った。実はもう familial amyloid disease で mutation が分かっているもの以外にも，よく分からないものを次世代シークエンサーを使って mutation を同定して，iPS 細胞で disease modeling を作製し、特に neural crest enhancer を見いだしている。その辺をピンポイントにディープシーケンシングすると結構，研究が進展するので、今後相談をして支援したい。
・ 免疫学の立場から見ても非常にインパクトのある国際的にも高く評価される仕事が出ることを確信した。

- 口腔外科の立場から，希少疾患を含めて疾患特異的 iPS 細胞を使ってどういった研究展開になるか期待をしていたが，研究が非常に進行しており，iPS 細胞を用いることで応用範囲の広い研究に発展していくことを実感した。
- 希少疾患は一般の歯科医では扱えないので，東京歯科大学病院を含めた関連病院での患者の iPS 細胞を使った研究は，貴学に非常に適した研究テーマである。特に RUNX2 に関する研究は非常に素晴らしく，今までに想像がつかなかった展開になっており，今後の素晴らしい成果が期待できる。
- 希少疾患に関しての研究が非常に進行しており，大きな感銘を受けると同時に勉強になった。
- iPS 細胞を使った研究が、さらに臨床展開されていくことは非常に素晴らしい未来を描けるのではないかと予感した。
- 東京歯科大学病院は日本でも有数の多様な患者が集まる医療機関である。チームの中に参加されている小崎先生がリードされている AMED の事業の中で、未診断の希少疾患のプロジェクトがあるので、歯科領域からそういった未診断の疾患をどんどんその中に入れていただき，新しい未知の領域を切り開いていくような展開ができれば大きな発展が期待できる。

感染制御ラボ

- マイクロバイオーム解析は大変面白いと思いました。慶應大学も本田教授を中心としたグループによって腸内細菌のマイクロバイオーム解析の研究がかなりのレベルまで進展している。JSR という会社と 16S の ribosomal RNA のシークエンスから、菌までの同定に関してプロファイリングを今までの 10 倍以上のスピードでできるシステムを作ったので，協力できることもあるので今後ご連絡させていただく。
- 免疫学の立場からみると、ホストのレスポンスの研究もどこかに入れることが必要である。例えば、年齢のことや歯周病でもなりにくい人となりやすい人ではホストのレスポンスは結構大きい要素だと思います。
- 口腔内細菌叢に関しての研究がどんどん進行している。細菌の有無ではなく，それが今後はどういう機能をしているのかというところまで進めていくと，新しく，魅力ある研究が進められるのではないかと期待している。

ファブラボ

- リーダーの後藤先生は,慶応大学のミーティングにも来ていただいており周知と思うが,慶応大学では,霊長類を対象に 9.4 テスラの MRI を用いて構造機能画像なども行ってい

る。ファブラボのプロジェクトに非常に関連する内容として、口腔機能はどうやって機能的 MRI の解析を行っていくか、それが高次脳機能とどう関係しているか、これらはすごく面白いテーマで，実は精神疾患などにも関連してくる可能性がある。こういったテーマについて個人的にも協力したいし，一緒にインタラクションしていければと思っている。

- 新しい工学的な知識と医療領域の融合ということに加え, AI も今後は展開されるようであり，まさに歯学の中でさらに輝く領域になっていくことが想定され、今後の進展を期待できる。
- ファブラボは，希少疾患にも貴重であり，一般的な歯科疾患にも応用できる診断もしくは治療法の開発につながる非常に素晴らしい研究である。
- 工学的な考え方が非常にたくさん入り，シミュレーションから、3D プリンターなど，しっかり研究がされている。そのため今後，成果も出てくると思う。東京歯科大学は金属 3D プリンターは持っていないと思いますが，大阪大学は 3D プリンターのセンターを作っており、自由に使うことが可能なので必要があれば検討してください。
- 工学的な観点から，去年の段階ではそれぞれのラボのつながりがばらばらに見えていたが，顎骨疾患をテーマにしたことで随分解消された。ただし顎骨ということで骨そのものを扱う研究が非常に多く、例えば骨再生ということ一つ見ても、それぞれのラボでいろいろなアプローチがされている。骨の評価法として東京歯科大学ではファブラボの中で骨質の評価が一つ大きなテーマであると思います。松永先生を中心にコラーゲン／アパタイトの移行性などの評価が全部行われていると思うが，今日の研究報告では CT でとどまっている部分も見受けられる。骨の評価は組織レベルでいろいろなことがわかるが、それに加えて貴学の強みとして骨質の研究データを加えて論文を書くと今以上にインパクトファクターが上がるのではないかと思う。

その他

- 私が骨質を測りたいと思うくらい素晴らしいデータが研究報告では随所にあったので骨ができたらまずは骨質を測ってみることを推奨する。骨質研究のグループはそれほど多くない状況にあり，口腔の分野，骨の分野では論文も書きやすいのではないかという印象を持った。

３） 本事業の組織運営について

- 三つのラボは，シナジスティックな研究効果を十分に望める構成になっており、非常によく考えられたプロジェクトと組織体制だと思われる。
- 推進委員が事業を強力に進めると負荷が過多になるかと思われる。慶應大学では研究専

念教員あるいは若手でも助教（研究奨励）といった少し普段の任務を軽くしつつ研究に短期間の期間を決めて取り組んでもらう職位も作ったりしている。こういった取り組みを検討してはどうか。負担が軽減し，楽しんで研究がどんどん進むという姿を次の世代が見て「研究しよう」という強い意志に反映される。

- 運営体制の強化等に関しては非常によく考えられている。特にインパクトファクターを中心に定量的な指標を持って評価していくことは、実績を明確化するということで、非常にいい方法だと思われた。
- インパクトファクターに関して，連名になった論文をどのようにカウントするのか，分野によってインパクトファクターが違うので一律にインパクトファクターが 2 以上，年間数などとした評価指標にはややどうかと感じる。

4） 人材育成について

- 歯学部の学生の中で研究を志す学生が少ないという現状において，ブランディング事業をきっかけにして，大学院生はもちろん、学部学生にもその研究に興味を持ってもらうような機会を今後も継続することが必要である。
- 大学院生の数は全国私立大学歯学部の中で一番多いと言う状況にあるものの，現在の大学院進学率が 4 割の現状にあって，この事業によって学生を引きつけ，大学院の進学率を上げるというのがこの事業の 1 つの成果になると思います。
- 若い人が入らないとこの事業は盛り上がらないと思います。大学院生によるイベントをさせると結構やる気を起こす。例えば，大学院生主催のセミナーを「このお金で好きなやつを呼んでいい」と支援して開催させると，結構みんなその気になって集まったりするし，いろいろな他流試合なども効果的です。
- 特筆すべき点としてコアファシリティが非常に充実している。研究を進めていく上で、一つの研究室に高価なものがあって独り占めするというのではなくて、コアファシリティを使って応分の対価を払いながらやっていくということが、これから若手の人材育成に大事である。そのためにコアファシリティにこれからも十分な投資をされるのがいいと思われる。
- 教育について，研究主体のものをいかに臨床に、教育にというのは気になる点です。ファブラボの研究を例に取ると 3D がキーワードになっている。3D を東京歯科大学の学生，若い人に広くスキルとして浸透させることを考えてはどうか？診療を受けるときに、結局は CT の断層写真ばかり見せられながら説明を受けるのですが 3D が臨床の場で生かせず結局は断層を見ている方が多い状況にある。3D を広めることで、いずれは臨床にフィードバックされるし教育のポイントになる可能性もある。

５） 歯学・医学領域の研究への貢献について

- 理工学部は留学生の受入が本当に盛んである。医学歯学はまた少し違うというのは認識している。一方で、東京歯科大学では若い先生方が海外で留学研修という制度があると聞いている。連携の中でも UCLA やアルバータ大学の先生が入っているので，その先生方と連名の論文を出すということを検討してはどうか。慶應大学理工学部は，それを推奨している。
- 最近では，臨床系大学院生が基礎で研究することのハードルは無くなってきており，顎骨疾患プロジェクトを全学を挙げて行うもいいが、医学部や理工学部など歯科を離れてでもそこで切磋琢磨して、それからもう一度、歯科のフィールドに戻っていくのがすごく研究の幅を広げるのにも学外との有機的な連携する場合にも生きてくるのではないかと思います。
- インパクトファクターだけを上げるのであれば歯科領域だけでやっていると厳しい。例えば，大学院に行く場合，岡野先生（慶応大学医学部）のところで若者が切磋琢磨して得たものを、今度はそれを歯科領域に反映させていくようなことを行ってきたが、インパクトファクター4 とか 5 といった研究のクオリティ高い論文をある程度，自分の歯科領域でもだせるようになった。
- 東京歯科大学が東京に戻ってきて、他領域と連携できる機会が増えると思うので、若い次世代の人たちには、彼らの一部でもいいので国内留学などさせ，研究内容は完全に歯科のフィールドではない場合もあるが、外での研究生活で勉強し得たものを歯科の中の疑問に置き換え研究を展開することで将来的に少しいろいろなものが変わってくる可能性がある。

６） 社会貢献について

包括的な歯科研究ネットワークということに関して，将来、研究の成果が企業と連携した科学的研究ネットワークに発展すると思われる。また一般歯科医師から構成される大学の同窓会、歯科医師会を対象とした歯科開業医研究ネットワークの構築も予定されている。包括的な歯科研究ネットワークとして非常によく考えられたプロジェクトだと思います。

- 地域の歯科医師会としては，大学院が終わってすぐだと歯科医師会にも入会が少なく，入会者は，35 歳以上や研究歴はあるが中断して時間がたってからの方が多いのが現実である。歯科医の子息で大学院が終わってすぐに地元歯科医院を継いだという先生や研究歴を持ちながら未入会の先生に、この事業を積極的に紹介させていただき歯科医師会の

入会を促進したい。一方, 研究したくてもできない先生にもこの事業を伝えていきたい。

7） その他

・ 同窓会を利用する点に関して，現時点では研究レベルがかなり高いので、具体的な方向性は，これから徐々に分かってくるのではないかなと感じている。希少疾患ではない歯周疾患などからスタートするのだと思うがその点も検討をしていただきたい。

外部評価委員

佐々木　朗（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授）（委員長）
岩田　昌久（埼玉県歯科医師会学術部副部長）
岡野　栄之（慶應義塾大学大学院医学研究科委員長、慶應義塾大学医学部教授）
奥村　康（順天堂大学大学院医学研究科特任教授、アトピー疾患研究センター長）
豊澤　悟（大阪大学大学院歯学研究科教授）
中尾　潔貴（株式会社ジーシー・代表取締役社長）
中野　貴由（大阪大学大学院工学研究科教授）
森山　啓司（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）

Ⅶ. 自己点検・評価委員会記録

平成 29 年度 東京歯科大学研究ブランディング事業
自己点検・評価委員会記録

日時：平成 30 年 3 月 19 日（月）17：00～18：00

場所：水道橋校舎本館 6 階　第 2 会議室

出席：井出学長、一戸副学長･千葉病院長、橋本副学長、矢島水道橋病院長、西田市川総合病院長、櫻井大学院研究科長、石原研究部長、山本基礎教授連絡会幹事、古澤臨床教授連絡会幹事、石井法人主事

陪席：山口推進委員会委員長

事務：渡辺、田島、佐藤

1. 平成 29 年度事業報告、平成 30 年度事業計画について

資料のとおり、平成 29 年度の事業報告と平成 30 年度の事業計画について説明。本プロジェクトでは、今までの東京歯科大学研究プロジェクトの研究成果を基盤として、「研究論文の量から質の変換」と「個別研究ではなく大学全体の集学的研究」を目指して、研究レベルを向上させる目標が報告され、全員が了承した。

具体的には、以下の事項が報告された。

１）　平成２９年度の収支報告がなされ、承認された。

２）　平成２９年度の成果目標と成果実績が報告された。以下の２つの事項について詳細な報告がなされた。

・研究実績は目標値を上回り、当面の目標を達成できたが、今後、研究業績の評価は論文数だけではなく、Impact Factor(IF)も考慮することが提案された。また、最近は研究業績の評価に非引用回数や h-index などが使用される場合が多いので（QS 世界大学ランキング、THE-TR 世界大学ランキング)、今後この点にも留意して研究業績を評価する。

・本プロジェクトでは、同窓会との連携（地域連携）が重要であるが、今年度は十分な連携を構築できなかった。そのため、来年度以降の活動の準備として、矢崎同窓会長、宮地顧問と山口委員長、村松委員で相談し、まずは同窓会から 5 名、推進委員会から 5 名を人選してワーキンググループを作り、５月から具体的な連携内容の検討を始めることになった。

３）　平成 28 年度研究助成受賞者の研究成果と現在の進捗状況が報告され、平成 30 年度からは研究助成対象者の選定には、学位論文が公表されていることを条件に入

れることにする。

4）　平成 30 年度からは「咀嚼嚥下ラボ」(阿部伸一委員長）を設置して「分子・細胞生物学ラボ」、「感染制御ラボ」、「ファブラボ」の４つのグループでの研究体制とする。

5）　外部評価委員会で、「個々の研究は素晴らしいが、プロジェクトにおける各研究の繋がりがみえにくい」との指摘をうけたので、この点に対応するためにかくグループに講座の壁を越えた異分野の若手研究者、中堅研究者でワーキンググループを作り、共同研究体制を強化していくことが提案された。このワーキンググループで、次期大型研究プロジェクトに向けての基盤構築も探索する。

6）　平成 29 年度の推進委員会委員と WG メンバーの発表論文数と各論文の IF の調査を行い、各自の研究成果の把握と自己評価を行った。本プロジェクト終了までには、推進委員会委員委員全員の発表論文の年間平均 IF が 2 以上になることを目指していく。

7）　平成 30 年度の研究費については 3,800 万円の予算案とし、若手育成の一環としてワーキンググループメンバーへの研究費配分を新たに追加し、大学院研究助成を 5 名から 7 名に、Travel Award を 4 名から 5 名に増加する。各グループ（分子・細胞生物学、感染制御、ファブラボ、咀嚼嚥下）へ配分は 400 万円とし、推進委員会委員内の競争的資金として 600 万円の予算を追加し、平成 30 年度は平成 29 年度の IF が 2 以上の論文の IF 合計点で比例配分する。

8）　平成 30 年度の研究体制が確認され、山口委員、溝口講師（4 月着任）は研究グループに所属せず、全体のサポートをすることと、市川病院との連携で皮膚科 髙橋教授、河野講師が分子・細胞ラボに参加していただくことが報告された。また、WG メンバーが参加しやすくなるために、各所属長への説明を山口先生からしていただき、石原先生には教授会にて報告していただきご理解を得る。

9）　本学の科研費の獲得状況を松本歯科大学、昭和大学歯学部と比較すると、本学が低いので今後の重要な検討課題とする。

2. 平成 30 年度の課題と対応策について

チーム研究や世界展開、ステークホルダー、同窓会、プロジェクトの見える化についての課題と対応策について説明。全員了承。

1）チーム研究のような形をとっていくと、研究レベルの向上に繋がっていく。

2）若手、中堅研究者の連携の構築として、若手サイエンスアカデミーの運営を山口先生、吉成先生から交代し、口科研のコア研究部門主任（菊池先生、松永先生、石井

先生）と生化学講座の中村先生、口科研の溝口先生が中心となって行う。また、外部評価委員会で、大学院セミナーの開催、運営を大学院生に任せてみるのはどうかとの提案があったので、この点も検討する。

３）タイプ B【世界展開型】の事業なので、その対応、対策が必要。例えば他大学で学位を取得した留学生を口科研のポスドクでの受入れることなども検討する。また、国際シンポジウムを 2020 年度に開催できるように検討する。

４）ステークホルダーへの対応を検討する。

５）同窓会との連携を強化する。

６）プロジェクトの「見える化」を推進していく。

まずは大学の中での研究成果、内容、業績の「見える化」から始め、事業最終年度には　　大学の外からの「見える化」できるように進めていく。

3. 平成 29 年度外部評価委員会報告について

平成 30 年 2 月 27 日（火）18 時 30 分より、東京ドームホテルにて平成 29 年度東京歯科大学研究ブランディング事業「顎骨疾患プロジェクト」外部評価委員会を開催した旨報告。佐々木朗委員長（岡山大学）より外部評価報告書(案)を作成いただいた旨説明。総括として、「全体的に計画は順調に推進されているが、世界展開，国際化に関する具体策が必要と思われる。また、人材育成においては内地留学など人的交流により、歯科大学という枠だけでなく、医学・理工学領域で研鑽を積んだ人材を育て、歯科領域での活躍を促進することや、大学院生や若手研究者にセミナーを企画させるなど研究マインドに関する方策についての提案があった。」との報告があり、これらの点を来年度改善することが全員に了承された。

4. 平成 29 年度 私立大学研究ブランディング事業の補助金交付額について

平成 29 年度私立大学等経常費補助金で、私立大学研究ブランディング事業が 3,500 万円の特別補助額であった旨報告。全員了承。

5. その他

１）IF での研究業績の評価で、学問分野の違いを調整できるのか、と質問があったが、今後、異分野連携を強化して研究を推進することにより、今までの研究をシナジスティックにレベルアップでき、IF の一段高い雑誌に発表することが可能になると思われる。また、IF の高い雑誌を目指すことが研究や論文の質を上げるトレーニングにもなるので、IF を参考にした評価を続けていく。

２）大学 HP と配布用 CD、「受験生の方」タグ「動画でわかる東京歯科大学」の「大学院」及び「東京歯科大学の研究者たち」に関する内容がかなり古いので、変更を依頼し、製作を進めていく。

３）平成 29 年度私立大学研究ブランディング事業の報告書提出締切が 5 月下旬なので、準備を進めていく。

上記について、全員了承。

平成 29 年度事業収支決算書

予算2,000万円

【支出内訳】

1. 基礎・臨床融合研究チームへの配分　　計1200万円

・分子･細胞生物学ラボ（リーダー：東俊文教授）　400万円

・感染制御ラボ（リーダー：石原和幸教授）　400万円

・ファブラボ（リーダー：後藤多津子教授）　400万円

２．若手研究者への研究費助成　　計615万円

・顎骨疾患プロジェクト研究助成（8名×50万円）　400万円

・顎骨疾患プロジェクト大学院研究助成（5名×40万円）　200万円

・Travel Award　（1名×15万円）　15万円

３．共通費　　計185万円

・研究ブランディング事業ホームページ制作費

・共催セミナー謝金

・会議費

・その他